

Annual Report 2019

年 報 2019年(令和元年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2019

年 報 2019年(令和元年)度

Contents

巻頭言 ————— 病院長の言葉	4
------------------------	---

トピックス

マンモグラフィは2Dから3Dの時代へ！	6
廿日市市胃内視鏡検診～HM ネットを利用したダブルチェックシステムの構築～	7
第10回オープンホスピタル開催	9
第17回回市民公開講座	10
第29回院内バレーボール大会開催	11
第9回広島西部高校生外科セミナー開催	11

病院の概要

病院概況	14
JA 広島総合病院のあゆみ	15

活動報告

呼吸器内科	18
循環器内科	20
腎臓内科	21
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	22
消化器内科	23
小児科	25
外科	26
乳腺外科	27
整形外科	28
形成外科	29
脳神経外科	30
呼吸器外科	33
心臓血管外科	34
皮膚科	35
泌尿器科	36
産婦人科	37
眼科	38
耳鼻咽喉科	39
放射線治療科	40
画像診断部	41
麻酔科	42
歯科口腔外科	44
救急・集中治療科	45
緩和ケア科／緩和ケアチーム	46
健康管理センター	48
病理診断科・病理研究検査科	50
臨床研修科	51
看護科	52
外来	53
外来治療センター	54
地域救命救急センター	55
ICU・西3階病棟	56
西4階病棟	57
西5階病棟	58
西6階病棟	59
西7階病棟	60
西8階病棟	61

東 3 階病棟	62
東 4 階病棟	63
東 5 階病棟	64
東 6 階病棟	65
東 7 階病棟	66
手術室	67
居宅介護支援事業所	68
訪問看護ステーション	69
薬剤部	70
臨床研究検査科	71
中央放射線科	72
臨床工学科	73
リハビリテーション科	74
栄養科	75
診療情報管理科	76
医療安全管理室	77
地域医療連携室	78
総合医療相談室	79
教育研修課	80
施設資材課	81
栄養サポートチーム (NST)	82
呼吸療法サポートチーム (RST)	83
感染防止対策室 (ICT・AST)	84
心臓リハビリテーションチーム	85
認知症ケアサポートチーム (DST)	86
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	87
各種委員会	88
出張記	99

実績

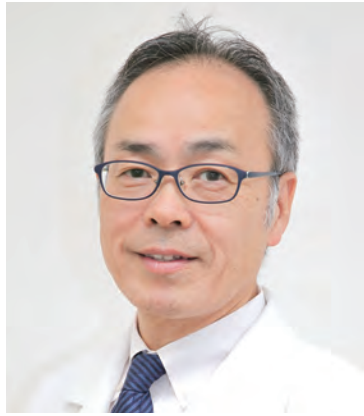
著書・論文	102
書籍・雑誌編集	104
学会発表	106
学会での座長	116
研究会講演・発表	118
研究会座長	125
地域活動	129
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	133
合同カンファレンス	135

クラブ活動

華道部	138
野球部	139
テニス部	140
伯友会 (ゴルフ同好会)	141
サッカー部	142
フットサル部	143
バスケットボール部	144

資料

統計資料	146
------	-----



巻 頭 言

5月の大型連休明けから広島県で新型コロナ変異株が猛威を振るい、院内が再び慌ただしくなっています。そんな中、2019年度の年報が完成しました。

2019年度といえば、世間では新型コロナという魔物がこの世に現れた年で、当院でも帰国者接触者外来の緊急設置などの対応をスタートさせた年でした。また、病院前立体駐車場が完成したのもこの年です。

ページをめくると分かるように、このような時代背景のもとで論文・学会発表、社会貢献実績はもちろん、70もの部署・チーム・クラブがどのような活動をしていたのか、どのようなトピックスがあったのか、スタッフ名や豊富な写真・イラストと共に144ページにわたって網羅的かつビジュアルに紹介されています。私は、2019年までこの病院に在籍していなかったのですが、それでも当時の院内状況がいろいろと感じ取れました。

ところで、今回の年報は、現スタイルになって10冊目の記念すべき発刊号であることをご存じでしょうか？資料によれば、創刊号は2003年ですが、この頃は論文・学会発表の纏めというごく普通の業績集だったようです。その後、2009年になって当時の福田病院長が単なる業績集ではなく、当院の医療、研究、活動をもっと幅広く周囲の方々に知って頂ける内容と構成にするよう編集委員に見直しを依頼され（Annual Report 2009・2010 巻頭言）、その結果、2012年発刊号から現在のスタイル Annual Report（年報）に変更されています。

20冊目、30冊目が発刊される頃、当院はどうなっているのでしょうか？この年報シリーズが当院の貴重な財産として後進に引き継がれ、未来永劫に各時代を語り続けてくれることを心から願っています。

最後に、辻山修司 年報編集委員長をはじめ、発刊に尽力されてきた全ての職員の皆様に敬意と感謝を申しあげます。

2021年5月

広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院
病院長 松原 昭郎

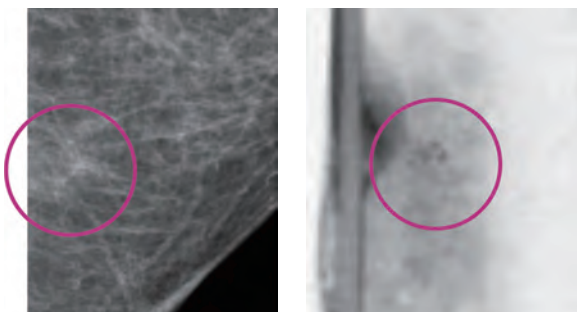
マンモグラフィは 2D から 3D の時代へ!

乳房用 X 線診断撮影装置の機器更新に伴い、2019 年 11 月より GE 社製「Senographe Pristina」が導入されました。



ステレオガイド下マンモトーム生検開始

近年マンモグラフィ検診の普及によって、超音波では描出困難とされる、微細石灰化のみの腫瘍非形成性病変で要精密検査となる症例が増加しています。このような症例に対して、より小さな侵襲で確定診断を得る方法として、ステレオガイド下マンモトーム生検があります。本装置導入により、この組織診断が可能となり、今まで殆ど診断が出来なかった非触知の非浸潤癌が診断できるようになりました。



淡く不明瞭な石灰化症例

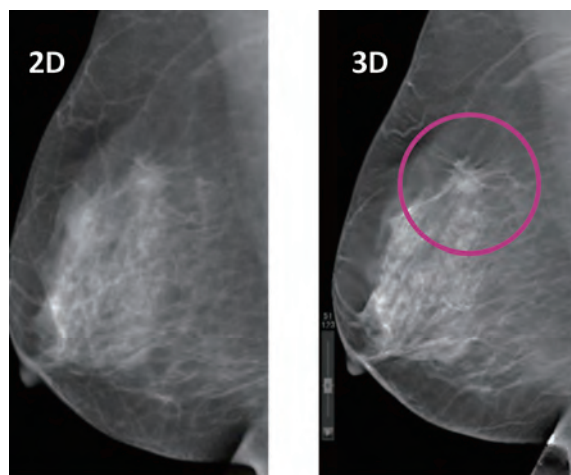
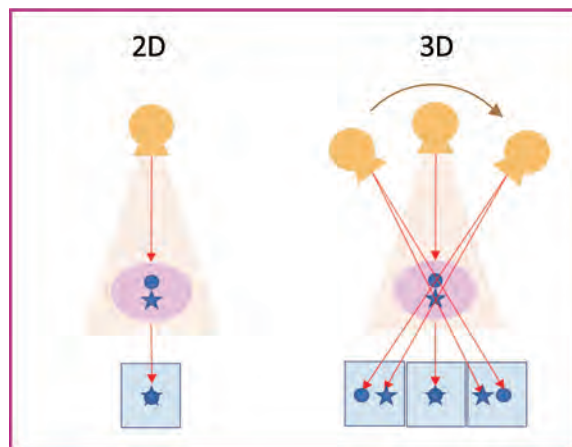
摘出された標本撮影

*病理結果は非浸潤性乳管癌であった。

デジタルトモシンセシス (3D) 撮影が可能

トモシンセシスは従来のマンモグラフィ検査に付加された検査機能の名称で、断層を意味するトモグラフィー【Tomography】と合成を意味するシンセシス【synthesis】の二つの言葉から作られた造語です。

1 回の乳房圧迫で角度を変えながら低線量撮影し、複数枚の断層像を数ミリ単位で作ります最新技術です。従来のマンモグラフィ撮影 (2D) のデメリットであった正常乳腺と病変部の重なりを解消し、乳房画像診断における感度と特異度を大いに改善させ、高い診断能力を実現します。この技術は日本女性に多いとされる高濃度乳腺 (デンスブレスト) に大変有効です。



2D より 3D 画像の方が病変を発見しやすい。

廿日市市胃内視鏡検診 ～HM ネットを利用したダブルチェックシステムの構築～

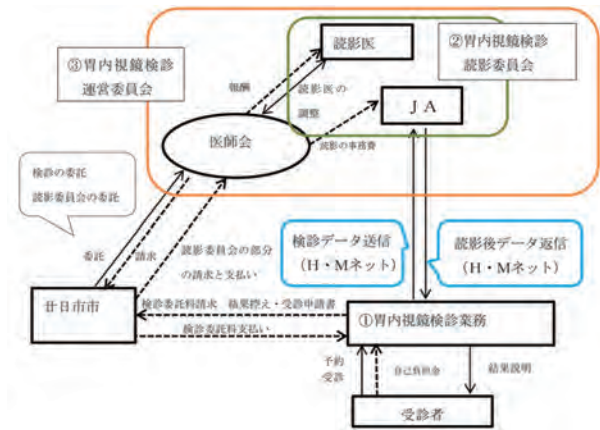
従来、対策型胃がん検診は、胃部エックス線検査のみでしたが、2016年2月に「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、検診方法として、新たに胃内視鏡検査が追加されました。廿日市市でも胃内視鏡検診の導入が検討され、行政、佐伯地区医師会、更にJA広島総合病院が一体となって検討を重ね、2019年度より実施されることとなりました。

胃内視鏡検査は安全管理を含めた精度管理が従来の検診よりも重要と言われており、検査医による検診とその後の別の読影医による全例ダブルチェックが義務づけられています。廿日市市胃内視鏡検診の特徴は、①検査医による内視鏡画像を機密性に優れた広島県の医療ネットワークシステムであるHMネットを介して内視鏡画像を電送する、

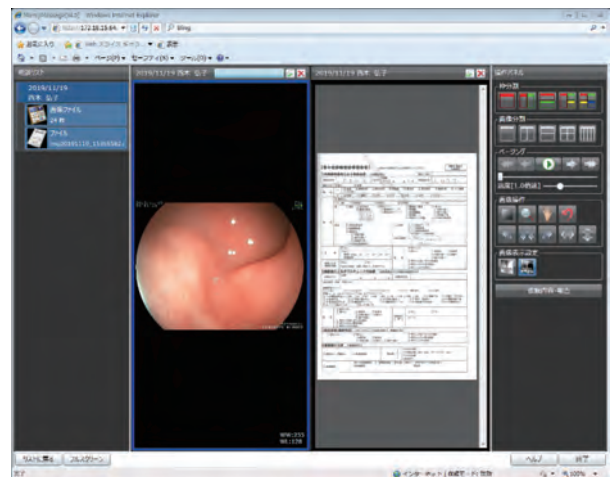
②ダブルチェック読影はまずJA広島総合病院所属の消化器内視鏡の専門医により病院内で事前に行い、さらに月2回の検査医参加型読影委員会で最終読影が行われ、その結果はHMネットを介して検査医に電送返信される、

③読影委員会では読影のみならず、地域の内視鏡レベルの向上をめざして教育的なレクチャーを毎回行う、などが挙げられます。

このHMネットを使ったシステムは画期的で全国的にも注目されています。ただ、ゼロからの構築であり、全体の体制システムづくり(図1)、HMネット内に胃内視鏡検診アプリケーションの制作(図2)、読影委員会・勉強会の年間計画作成、廿日市市予算作成、検査医の送受信環境の整備と手法の周知、読影医への手法周知など、難題が山積みでした。そうした中、廿日市市、佐伯地区医師会、JA広島総合病院による頻回の打ち合わせに加え、広島県医師会からの様々な協力支援のもと、2019年6月より胃内視鏡検診事業がスタートしました。



(図1) 廿日市市胃内視鏡検診システム図



(図2) 胃内視鏡検診アプリケーション

この中で当院の役割は、ダブルチェックの読影委員会を開催することです(図3)。



(図3) 読影委員会の一場面

当院消化器内科の中には日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医が7名います。この読影医は日常診療の空き時間に、電送された検査医からの内視鏡画像を読影しておき、読影委員会で検査医と共に最終読影し、HM ネットを介して結果を検査医へ電送します（図4）。



（図4）検査医参加型読影委員会の風景

またこの読影委員会では、毎回当院の専門医からのレクチャーを実施しています。（下表）

胃内視鏡検査読影委員会 事前読影（日程と担当医）

日程	事前読影	テーマ	担当
① 6月13日(水)	<6/1~6/13> 徳毛	内視鏡ストーリーの基本	小松
	<6/14~6/20> 小松		
	<6/21~6/28> 古土井		
② 6月28日(金)※	<6/29~7/4> 相坂	食道良性:逆流性食道炎・バレット食道	小松
	<7/5~7/11> 兵庫		
③ 7月11日(木)	<7/12~7/18> 藤本	食道悪性:食道癌内視鏡診断・治療	古土井
	<7/19~7/26> 野中		
④ 7月26日(金)※	<7/27~8/1> 徳毛	胃良性:消化性潰瘍	小松
	<8/2~8/8> 小松		
⑤ 8月8日(木)	<8/9~8/19> 古土井	胃悪性:胃癌内視鏡診断・治療	古土井
	<8/20~8/28> 相坂		
⑥ 8月28日(水)	<8/29~9/5> 兵庫	胃良性:萎縮性胃炎	小松
	<9/6~9/12> 藤本		
⑦ 9月12日(木)	<9/13~9/18> 野中	大腸:大腸腫瘍の内視鏡診断①	古土井
	<9/19~9/25> 徳毛		
⑧ 9月25日(水)	<9/26~10/2> 小松	機能性消化管障害	小松
	<10/3~10/10> 古土井		
⑨ 10月10日(木)	<10/11~10/16> 相坂	大腸:大腸腫瘍の内視鏡診断②	古土井
	<10/17~10/23> 兵庫		
⑩ 10月23日(水)	<10/24~11/1> 藤本	大腸腫瘍の治療	古土井
	<11/2~11/14> 野中		
⑪ 11月14日(木)	<11/15~11/20> 徳毛	肝疾患と消化管病変	相坂
	<11/21~11/27> 小松		
⑫ 11月27日(水)	<11/29~12/6> 古土井	代謝疾患と消化管病変生理①	兵庫
	<12/6~12/12> 相坂		
⑬ 12月12日(木)	<12/13~12/18> 兵庫	代謝疾患と消化管病変生理②	兵庫
	<12/19~12/25> 藤本		
⑭ 12月25日(水)	<12/26~1/9> 野中	肝疾患と消化管病変	藤本
⑮ 1月9日(木)	<1/10~1/29> 徳毛	胆道系疾患と消化管病変	野中
⑯ 1月29日(水)※		消化器内視鏡とリスクマネジメント	徳毛

※印は、定期とした第2木曜日と第4水曜日を外れた日程です。

その他に、年1回行われる運営委員会時には内視鏡読影に関する講演会も行っています。

このような体制で始めた、初年度の実施状況は下記のごとくでした。

①検査登録医療機関 19 医療機関

②全受診者数 332 名（男性 132 名、女性 200 名）

③総合判定結果

（胃がんなし 307 名、胃がん 1 名、胃がん疑いまたは未確定 11 名、早期胃がん疑い 1 名、胃がん以外の疾患 12 名：合計 332）

④生検実施：17 名（Rroup1：16 名、Group 5：1 名）

検査参加者はやや少ないながら、ほぼ当初の目的は達したと思われました。次年度以降の展望としては、鎮静麻酔下の内視鏡検査の取り扱い決定、コロナ禍の中でも対応可能な TV 会議システムでの読影委員会の開催、HM ネット内アプリケーションのバージョンアップ、近隣医師会との連携、肺がん検診への本システムの応用など、さらなる発展を目指しています。



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

第10回オープンホスピタル開催

2019年11月23日（土）に第10回オープンホスピタルを開催し、大勢の地域住民の方々にご来場いただきました。

オープニングイベントとして、国内外で多数の賞を受賞し、記念式典やオリンピック歓迎会などで演奏活動を行なっている廿日市市在住中学1年生の天才バイオリニストの安塚かのんさんにすてきな音楽を奏でいただきました。会場は癒され、温かい雰囲気になりました。



その後、地御前町内会の皆様のご協力で餅つき大会が行われました。来場者につきたてのお餅がふるまわれ、長蛇の列ができ大盛況でした。

各部署のイベントでは、内視鏡シミュレーター、血管年齢測定、検診コーナー、ちびっこナース、クイズラリー、骨密度測定コーナー、おもちゃすくいを用意し、お子様からお年寄りまで多くの方々に楽しんでいただくことができました。



今年の公開講座は、乳腺外科主任部長の大原正裕先生に「みんなで知ろう、乳がんのこと」というテーマでお話いただきました。聴講された方々は興味津々で先生にたくさん質問をされていました。



オープンホスピタルにあわせて、病院の各部署の日々の取り組みを地域住民の方に広く知っていただくよう、病院1階フロアに各部署が工夫を凝らして作成したポスターを展示しました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査を行い、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

◇最優秀賞

部署	作品名
整形外科	ロコモティブシンドロームって何？ ～運動習慣で健康寿命を伸ばそう～

◇優秀賞

部門	部署	作品名
医局	消化器内科	ピロリ菌は何しに消化管へ？
看護	糖尿病センター 療養相談室	血糖自己測定ってなに？ 正しく血糖値を測りましょう
コメディカル	栄養科	食事で筋肉を保とう！ ～上手な選び方のコツ教えます～
住民投票	栄養科	食事で筋肉を保とう！ ～上手な選び方のコツ教えます～

第17回市民公開講座

日時：2019年12月8日（日曜日）

13：00～16：00

場所：はつかいち文化ホール

さくらびあ大ホール

テーマ：はっちゃんと一緒に聴こう、大腸がんの話

参加者：327名

【要旨】

全国どこでも質の高いがん医療を提供するために、全国にがん診療連携拠点病院402箇所の指定をしています。これらの医療機関は、専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援および情報提供などを行う役割があります。がん診療連携拠点病院の指定を受けている当院は、「がん患者・家族に対する相談支援および情報提供などを行う」役割より、第17回市民公開講座のテーマを『はっちゃんと一緒に聴こう、大腸がんの話』として開催しました。

市民公開講座は、廿日市市、佐伯地区医師会、JA広島総合病院が主催で開催しています。第17回市民公開講座は、327名の地域の方々（図1）にご参加いただき、多くの賛同と協力のもと開催いたしました。

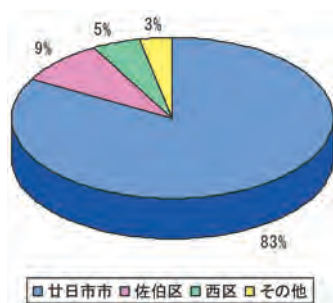


図1：参加者の地域別内訳

【演題】

- 大腸がん検診 廿日市市の受診状況について
廿日市市 福祉保健部 健康推進課
- 気楽に受けれる～大腸カメラの話～
とうげ外科胃腸科 副院長 藤解邦生

- きいてよかった～大腸がん内視鏡治療～

JA 広島総合病院 食道・胃腸内科

主任部長 古土井明

- きいてよかった～大腸がん外科治療～

JA 広島総合病院 消化管外科

主任部長 香山茂平

- 抗がん剤治療って本当のところどうなの？

JA 広島総合病院

外来がん治療認定薬剤師 埋橋賢吾

- 人工肛門のあれこれ

JA 広島総合病院 看護科主任

皮膚・排泄ケア認定看護師 藤村雅子



【会場の風景】



第29回 院内バレーボール大会開催

2019年6月22日（土）、日本赤十字広島看護大学体育館にて、第29回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、部署ごとに結成された16チーム（選手と応援を合わせて約370名）が参加しました。各チームでおそろいのユニフォームを着用し、熱戦が繰り広げられました。



各リーグの成績は、Aリーグ優勝は救命センターチーム、Bリーグ優勝は東6階チームでした。

職員間の親睦を図る貴重な行事として、今後も開催していきたいと思えます。



第9回 広島西部高校生外科セミナー開催

2019年8月1日（木）、外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で9回目の開催です。

当日は、県内の高校生28名が参加されました。各自手術着に着替えグループに分かれて、実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や、実習キットを用いた縫合・糸結び体験をしました。内視鏡外科トレーニング用エンドトレーナーでの鉗子操作体験では、画面を見ながらの鉗子操作に苦労する場面も見られましたが、楽しみながら実習を体験することができました。

参加者からは、「医療を身近に体験することで、医師になりたいという気持ちが高まりました。」「テレビの中でしか見たことのないようなことを実際に体験できて、嬉しかった。」等の意見があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。



■ Annual Report 2019 2019年(令和元年)度 年報 ■

病院の概要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院																																										
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573																																										
開設年月日	1947年12月23日																																										
許可病床数	561床 (一般)																																										
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志																																										
病院長	藤本吉範																																										
土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積																																								
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡																																								
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡																																								
	計	16,792.8㎡	34,815.15㎡																																								
診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科																																										
病棟別許可病床数 (一般561床)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">西棟</th> <th>階</th> <th colspan="2">東棟</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内(呼消)・放射線治療科</td> <td>55床</td> <td>8</td> <td>内(内分泌・腎・透析)</td> <td>44床</td> </tr> <tr> <td>内(消化器)・画像診断部</td> <td>55床</td> <td>7</td> <td>内(呼)・整・呼吸器外科(脳)</td> <td>43床</td> </tr> <tr> <td>外・(泌)</td> <td>54床</td> <td>6</td> <td>泌・外・皮・精・心療内科</td> <td>51床</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>55床</td> <td>5</td> <td>脳外・歯科口腔外科</td> <td>52床</td> </tr> <tr> <td>産婦・外科系(小)・ドック</td> <td>46床</td> <td>4</td> <td>小・耳・眼</td> <td>43床</td> </tr> <tr> <td>地域救命救急センター</td> <td>19床</td> <td>3</td> <td>内(循環器)・心外・麻酔</td> <td>44床</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>284床</td> <td></td> <td></td> <td>277床</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">計 561床</p>			西棟		階	東棟		内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床	内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳)	43床	外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床	整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床	産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床	地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床	計	284床			277床
西棟		階	東棟																																								
内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床																																							
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳)	43床																																							
外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床																																							
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床																																							
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床																																							
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床																																							
計	284床			277床																																							
指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院 (救急告示番号第374号) ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院 																																										
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所 																																										

施設基準

<p>■基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料7:1 ・総合入院体制加算3 ・超急性期脳卒中加算 ・診療録管理体制加算1 ・医師事務作業補助体制加算1 (15対1) ・急性期看護補助体制加算 (50対1) ・看護職員夜間配置加算1 (12対1) ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算 ・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算1 ・感染防止対策加算1 ・患者サポート体制充実加算 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算 ・病棟薬剤業務実施加算1 ・病棟薬剤業務実施加算2 ・データ提出加算 ・退院支援加算1 ・認知症ケア加算1 ・精神疾患診療体制加算 ・救命救急入院料1 ・特定集中治療室管理料3 ・小児入院医療管理料4 ・小児滞在手術等基本料2 <p>■特掲診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病合併症管理料 ・がん疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料1 ・がん患者指導管理料2 ・がん患者指導管理料3 ・糖尿病透析予防指導管理料 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・開放型病院共同指導料 ・ハイリスク妊産婦共同管理料 (I) ・地域連携診療計画管理料 ・がん治療連携計画策定料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料 ・医療機器安全管理料1 ・医療機器安全管理料2 ・歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II) ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 ・遺伝学的検査 ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定) ・検体検査管理加算 (IV) ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ・ヘッドアップティルト試験 ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服・点滴誘発試験 ・画像診断管理加算1 ・CT撮影及びfMRI撮影 ・冠動脈CT撮影加算 ・心臓MRI撮影加算 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法加算1 ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料 (I) ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) ・運動器リハビリテーション料 (I) ・呼吸器リハビリテーション料 (I) ・がん患者リハビリテーション料 ・エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの) ・透析液水質確保加算1 ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算 ・CAD/CAM冠 ・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 ・組織拡張器による再建手術 (乳房再建手術) の場合に限る) ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検 (併用) ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独) ・乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴うもの)) ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後) ・経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの) ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・大動脈/アレーノパンピング法 (IABP法) ・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。) ・体外衝撃波胆石破砕術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・体外衝撃波膵石破砕術 ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・輸血管理料II ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 ・麻酔管理料 (I) ・麻酔管理料 (II) ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・1回線量増加加算 ・画像誘導放射線治療 (IGRT) ・体外照射呼吸性移動対策加算 ・直線加速器による放射線治療 (定位放射線治療) ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 ・病理診断管理加算1 ・口腔病理診断管理加算1 ・パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法 		
認定	日本医療機能評価機構 (区分4 Ver.6.0) DMAT 指定医療機関 (災害派遣医療チーム)		

平成30年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
平成23年	4月	神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	医療福祉支援センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)
平成30年	4月	総合診療科開設
平成30年	9月	外来化学療法治療室を東8階へ移設
平成30年	10月	病棟減少30床

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長 近藤 文 博 (1999 年卒)
 日本呼吸器学会専門医
 日本内科学会専門医
 部 長 大月 鷹 彦 (2007 年卒)
 日本呼吸器学会専門医
 日本内科学会専門医
 医 員 隅 井 允 彦 (2014 年卒)
 日本内科学会認定医
 医 員 田 中 三千彦 (2016 年卒)

■ 診療科紹介

当院呼吸器内科では肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきています。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法(NPPV)の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように入られるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩をとげています。分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI(タグリッソ)の時代を迎

え、また、ALK阻害薬もアレセンサを始め、めざましい生存期間延長をもたらしています。さらに2016年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬(オプジーボ)は医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなりました。当院呼吸器内科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。また、当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し最速で2週間程で診断後治療に入れます。広島市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われる。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々の診療ができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡ガイド下針生検などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり、最近では治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期診断し、外来加療を行うとともに、結核病棟のある病院への紹介も行っています。さらに最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっており、吸入ステロイドの普及が進んでいます。また、最近では生物学的抗体製剤による治療も開始され、難治性気管支喘息の治療にめざましい進歩が見られるようになってきています。当院では大学などと連携し、最新の喘息治療をこの地域の患者さんに届けるべく、努力しています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近ではCPAP治療を行うことができる開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長

辻山 修 司

日本循環器学会専門医

主任部長 前田 幸 治

日本循環器学会専門医

CVIT 指導医

主任部長 (心臓カテーテル室担当)

荘川 知 己

日本循環器学会専門医

日本内科学会専門医

不整脈科主任部長

渡邊 義 和

日本循環器学会専門医

日本不整脈心電学会専門医

部 長 赤澤 良 太

日本循環器学会専門医

部 長 藤原 敬 士

日本循環器学会専門医

医 員 石橋 直 樹

■ 診療科紹介

冠動脈形成術を中心とした冠動脈の治療（急性心筋梗塞は 80 名/年）、下肢動脈の治療を主に、高血圧や心不全の患者様の治療にも力を入れています。

これまでのペースメーカー治療に加えて、不整脈専門医の渡邊医師を中心に、心房粗細動や、心房頻拍に対する、カテーテル治療、心臓同期治療（CRT-D）や、植え込み型除細動器（ICD）も当院で施行可能です。

また、赤澤医師の主導で重症大動脈弁狭窄症に対するバルーン大動脈弁形成術（BAV）も起動に乗ってきました。

【冠動脈形成】

薬剤溶出性 STENT を中心に、必要であれば、ロータブレーターも使用し、227 件/年のカテーテル治療をこなしています。そのうち緊急カテは 100 例/年で、夜間でも緊急対応しています。

主に上肢の橈骨動脈からアプローチし、患者様の負担の軽減にも努めています。

下肢動脈形成は心臓血管外科主導で、当科の藤原医師が積極的に参加施行しています。

【不整脈】

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療は新規で 45 件/年 施行しました。可能であれば生理的な DDD ペースメーカーを選択するように努めています。

ICD の新規植込みも 4 例/年 施行しました。

心機能低下症例への CRT-D も 4 例/年 施行しています。頻拍性不整脈に対するアブレーションも現在は火曜日のみの限定ではありますが、62 件/年 施行しました。

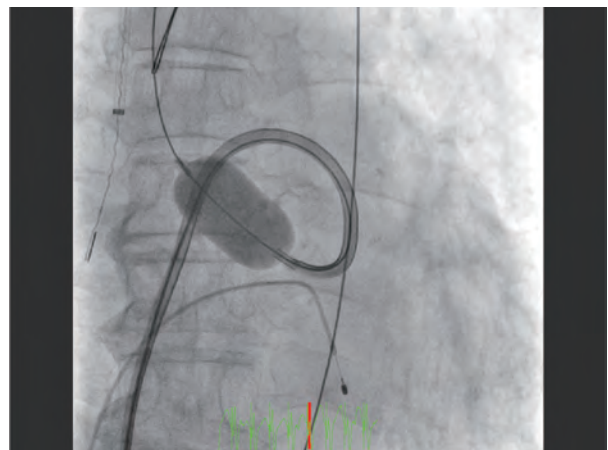
特に心房細動に対しての治療は、抗凝固療法の中止や心不全増悪の予防にも効果が見込まれ、近隣の医療機関からの要望も増えています。

【バルーン大動脈弁形成術（BAV）】

16 件/年 施行しました。弁置換術の不可能な患者様には今後も適応を検討していきます。



〈カテーテル室でのアブレーション風景〉



〈BAV 施行中の透視画像〉

腎臓内科

■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医

部長 下田 大紀 (2009年関西医科大学卒業)
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会透析専門医

医員 新開 泰 (2015年川崎医科大学卒業)
日本内科学会認定内科医

医員 藤井 賢治 (2017年広島大学卒業)

■診療科紹介

2019年度より下田・藤井医師が新たに着任し、先任の荒川・新開各医師と合わせ現在4人体制で診療を行っています。

各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。

また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設に認定されています。

現在、日本には約32万人の透析患者さんがおり、これは国民400人に1人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年1万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約1300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激に増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究で明らかにされており、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あ

らゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。



写真1 当科での腎生検

透析療法に関しては積極的に腹膜透析 (PD) 導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析 (HD)、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。



写真2 血液透析室

■診療実績

2019年度実績

腎生検数 30例

血液透析患者数 (延べ) 5300件

腹膜透析患者数 20名

■教育・研修活動

研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■ スタッフ

主任部長 石田 和史 (1986年卒、1988年4月～)
 医員 濱岡 彩 (2013年卒、2017年4月～)
 医員 由田 彩佳 (2014年卒、2018年4月～)
 医員 山本 祐太郎 (2015年卒、2019年4月～)
 日本糖尿病療養指導士：20名

■ 診療状況

糖尿病 外来受診患者実数 計3138名 (平均年齢68.6歳、平均罹病期間17.9年、平均通院期間11.7年、インスリン治療者の割合33.6%)
 (1型糖尿病 7.6%、2型糖尿病 91.4%、その他 1.0%)
 糖尿病入院患者 150名 / 他科周術期管理 384名
 ※ 2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数540名 (うち206名が継続通院中、全通院患者の約7%を占める)

活動報告

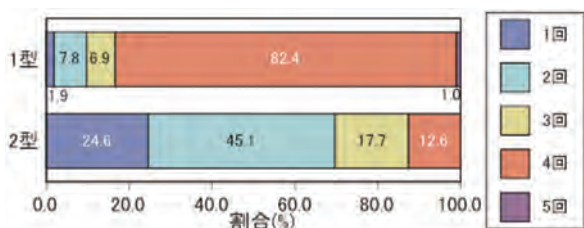


図1 インスリン注射回数の内訳(1型には緩徐進行型も含む)

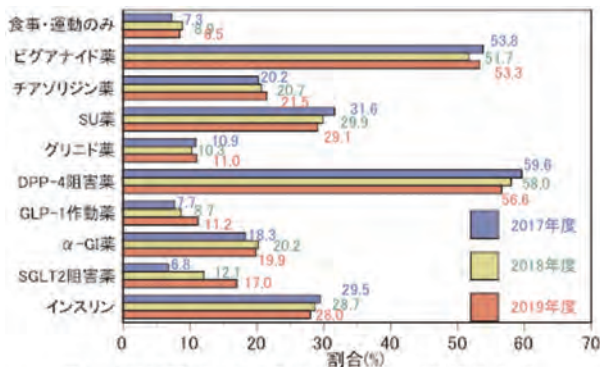


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳(重複あり)

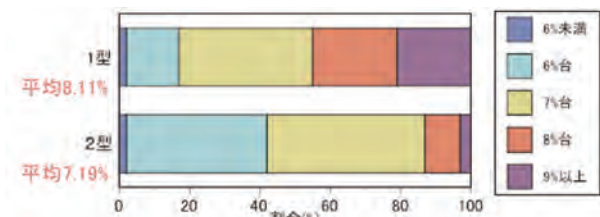


図3 年間平均HbA1cの内訳

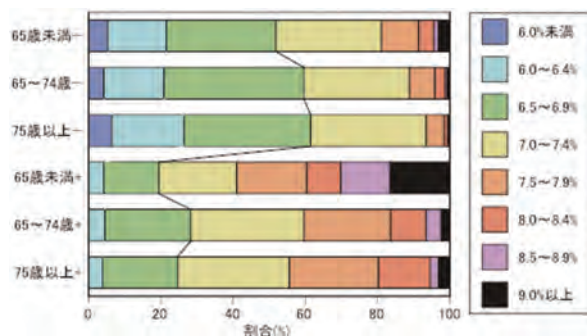
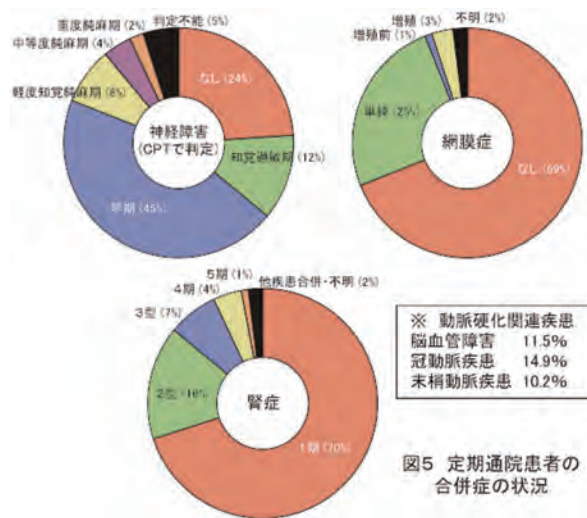


図4 2型糖尿病における年代別治療状況 (SU薬and/orインスリン使用:有+、無-)



※ 動脈硬化関連疾患
 脳血管障害 11.5%
 冠動脈疾患 14.9%
 末梢動脈疾患 10.2%

図5 定期通院患者の合併症の状況

甲状腺疾患 432名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ / 糖尿病合併例を含む) ※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■ 研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の病期および治療効果の評価 (実臨床におけるインクレチン関連薬の神経障害進展阻止作用)
- 2) 体組成分析 (インピーダンス法) を用いた臨床研究 (体組成に着目した適正な糖尿病治療薬選択の究明)
- 3) CGM を用いた薬剤効果の比較研究
- 4) 患者 QOL 向上を重視したテーラーメイド治療法確立の試み
- 5) 糖尿病地域連携パスの有効性検証
- 6) 糖尿病患者における膵癌早期発見指標の探究

消化器内科

■スタッフ

- 副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長
 徳毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長
 小松 弘 尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 肝臓内科主任部長、消化器内科部長
 相坂 康 之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 肝臓学会専門医・指導医
- 肝臓内科主任部長（代謝領域担当）、消化器内科部長
 兵庫 秀 幸 (Hideyuki Hyogo) 1992 年卒
 総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
 肝臓学会専門医、消化器内視鏡学会専門医
- 脾・胆道内科主任部長、消化器内科部長
 藤本 佳 史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 胆道学会認定指導医
- 食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長
 古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒
 総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医
- 肝臓内科主任部長（光学医療担当）、消化器内科部長
 野中 裕 広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒
 総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医・指導医
 肝臓学会専門医、がん治療認定医
- 医 員 石 橋 一 樹 (Kazuki Ishibashi) 2015 年卒
 医 員 進 藤 源太朗 (Gentaro Shindo) 2016 年卒
 医 員 山 下 未 紗 (Misa Yamashita) 2016 年卒

■診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は近隣の病院やクリニックとの連携に力をいれており、様々な勉強会研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net（固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク）、膵癌胆道癌教室、

広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）などです。これらの情報は末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。

これらの活動に加えて、廿日市市、佐伯地区医師会と共同で開始した新たな事業を紹介します。それは廿日市市胃内視鏡検診です。これは業務委託を受けた佐伯地区医師会とともに当科が住民のための胃がん検診を精度高く行おうとする事業です。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず多職種専門職とともに毎月 2 回全 4 回のシリーズで様々な催しを行っています。



肝臓領域では最新の抗ウイルス薬による治療が引き続き行われています。これは 12 週間という短い期間の治療で済む抗ウイルス薬治療で、当院では多数の患者様がこれらの治療を受け、治療効果は 9 割以上が有効となっています。下表は C 型肝炎の治療として当科で使っている抗ウイルス薬の一覧です。

C型肝炎の第一選択薬(治療歴のない患者)

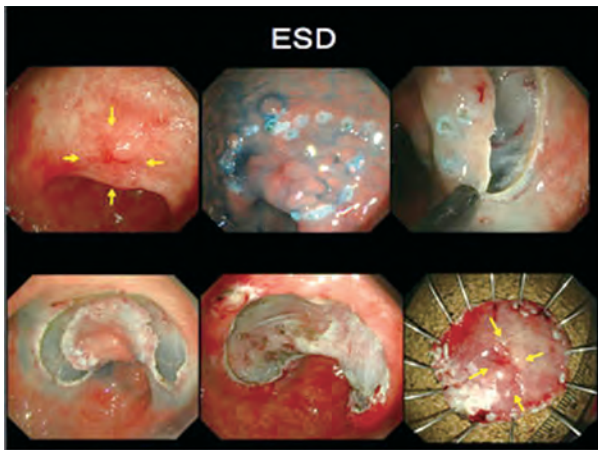
ウイルスの遺伝子型	使用される薬の種類(成分名)	製品名	治療期間
1型	レジバスビル・ソホスブビル配合剤	ハーボニー	12週間
	エルバスビルとグラソプレビルの併用	エレルサ/グラジナ	12週間
	グレカプレビル・ビブレンタスビル配合剤	マヴィレット	8週間
2型	ソホスブビルとリバビリンの併用	ソバルディ/レベトールまたはコペガス	12週間
	ソホスブビル・レジバスビル配合剤	ハーボニー	12週間
	グレカプレビル・ビブレンタスビル配合剤	マヴィレット	8週間

※日本肝臓学会「C型肝炎治療ガイドライン 第6版」で使用が推奨されている薬剤
 ※マヴィレットは肝硬変患者やDAAの治療歴のある患者などには12週間投与する
 (2019年1月時点)

当科では非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対してNASH 専門外来を開設し診療しています。さらに全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病治療薬によるNASH 改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置なども行っています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌等に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法で多くの患者さんに貢献しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。



■ 研究活動

当科では、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2019年度）	
上部消化管内視鏡検査処置（含小腸内視鏡）	5,454
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	335
小計	5,789
下部消化管内視鏡検査・治療処置	2,505
全消化管検査処置合計	8,294
腹部超音波検査（含造影US）・処置	4,744
消化器内科検査処置合計	13,150



フェイスブック <https://www.facebook.com/GHJAHGH>

小児科

■スタッフ

主任部長	辻 徹 郎 (1993年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医
部 長	小 野 大 地 (2010年卒)
	日本小児科学会専門医
副 部 長	森 本 彩 (2011年卒)
	日本小児科学会専門医
副 部 長	梶 間 理 人 (2011年卒)
嘱託医師	中 島 千 恵 子 (1970年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医
嘱託医師	岡 島 宏 易 (1980年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医

■診療科紹介

当科は、常勤医師4名、嘱託医師2名の計6名で外来、病棟診療を行っています。常勤医師の辻、嘱託医師の岡島の両名はアレルギー学会専門医資格を有し、感染症をはじめとする一般小児科診療に加え、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患に対する専門的診療が可能となっています。

【気管支喘息】

気管支喘息診療に関しては、県内でもトップクラスの肺機能検査実施件数を誇り、呼気NO濃度測定や気道過敏性検査なども数多く実施しています。さらに呼吸抵抗の測定も可能となり、これまでは肺機能の客観的評価が困難であった低年齢児での肺機能評価も可能となりました。その他、重症喘息症例に対する生物学的製剤の投与も積極的に行っています。

【アトピー性皮膚炎】

アトピー性皮膚炎診療に関しては、生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防を積極的に心がけています。発症後の治療に関しても、アレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤を上手く用いた積極的な寛解維持療法により、新たな抗原感作を防ぐことや、食物アレルギーの合併対策を行っています。

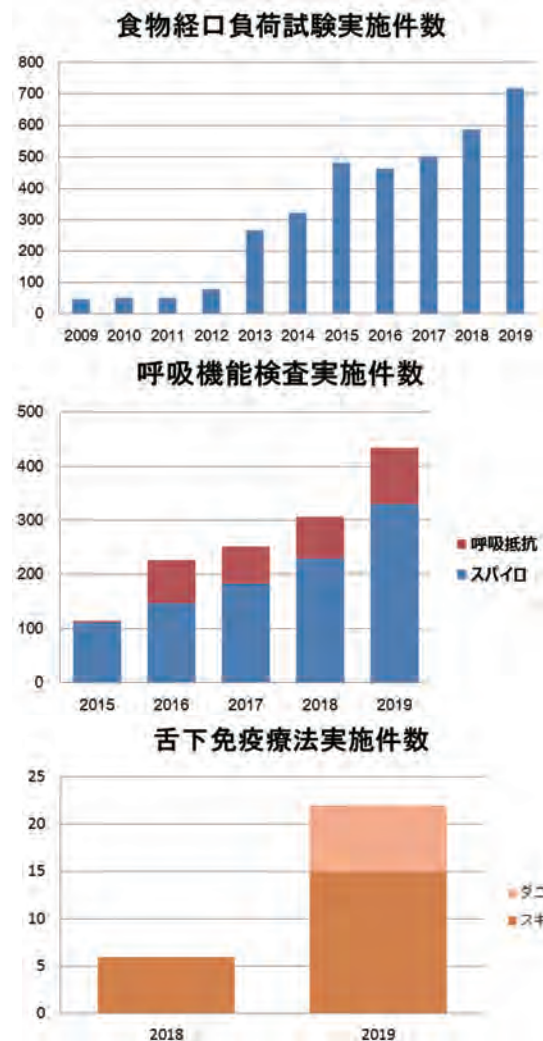
【食物アレルギー】

食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験による正確な原因食物の診断、及び必要最低限の除去を行い栄養面での問題を最小限にするとともに、近年は早期の耐性獲得を目的として、原因食物を普段から少量ずつ摂取する経口免疫療法を行う症例も増えています。

【アレルギー性鼻炎】

既存の抗ヒスタミン薬などによる治療に加え、近年はアレルギー性鼻炎の根治を目指した舌下免疫療法の症例が増えています。スギ花粉症に対する舌下免疫療法実施症例については、治療開始後最初の花粉尘散シーズンより自覚症状の改善が認められています。

■診療実績



外科

■ スタッフ

副院長、医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会認定医

診療部長、一般外科センター長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

新宅谷 隆 太 (2008 年卒)

日本消化器外科学会専門医

消化管外科部長

平 野 利 典 (2010 年卒)

日本消化器外科学会専門医

消化管外科副部長

海 氣 勇 気 (2012 年卒)

日本外科学会専門医

医 員 岡 本 暢 之 (2015 年卒)

医 員 向 田 敦 史 (2016 年卒)

医 員 柴 田 祥 之 (2017 年卒)

■ 診療科紹介

上部消化管 (杉山)、下部消化管 (香山・平野)、肝・胆・膵 (佐々木・新宅谷)、ヘルニア/甲状腺 (田崎) の臓器別チームに分かれ、安全な手術と周術期管理をこころがけています。各チームリーダーはそれぞれの領域で、県下で数少ない日本内視鏡外科学会技術認定医資格 (胃、大腸、ヘルニア)、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医資格を有しています。各学会の評議員として活躍し、治療成績を積極的に論文・学会発表をするとともに、後輩の指導にもあたっています。



■ 診療実績

主な手術件数は以下の通りです。(カッコ内は内視鏡手術)

・ 上部消化管外科

食道癌手術 5 例 (5 例)、胃・十二指腸潰瘍 17 例 (8 例)、胃悪性腫瘍手術 70 例 (39 例)、胃空腸バイパス術 3 例

・ 下部消化管外科

大腸悪性腫瘍手術 192 例 (131 例)、直腸良性疾患 23 例、人工肛門造設 30 例、虫垂切除 73 例 (66 例)、腸閉塞手術 46 例

・ 肝・胆・膵外科

肝切除 29 例 (5 例)、膵頭十二指腸切除 20 例、膵体尾部切除 5 例 (4 例)、膵中央切除 1 例 (1 例)、胆嚢摘出 182 例 (腹腔鏡 176 例)、総胆管結石手術 8 例

・ 鼠径部・腹壁ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 207 例 (腹腔鏡 164 例)、腹壁ヘルニア 34 例 (腹腔鏡 16 例)、閉鎖孔ヘルニア 2 例

・ 甲状腺外科

甲状腺良性腫瘍手術 1 例、甲状腺悪性腫瘍手術 4 例

■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する多施設共同臨床研究に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

乳腺外科

■スタッフ

主任部長	大原正裕 (2000年卒)
	日本外科学会専門医
	日本乳癌学会専門医 指導医部長
部長	梶谷桂子 (2002年卒)
	日本外科学会専門医
	日本乳癌学会専門医
	人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
部長	厚井裕三子 (2009年卒)
	日本外科学会専門医
	日本乳癌学会専門医

■診療科紹介

2017年から引き続き2019年も上記3名体制で診療を行いました。これまで通り、外来診療は2つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意しております。年間400名近くの初診患者さんに来院いただき、患者さんの外来での動線短縮を目的に、外来診察室にて臨床検査科・中央放射線科技師による乳腺エコー業務を行っています。11月からはステレオガイド下のマンモトーム生検も可能となり微小な石灰化も今まで以上に精査しています。

化学療法室とのカンファレンスを継続し、周術期の治療方針についても、放射線治療科・診断科・多職種とのカンファレンスにて決定しました。

積極的に地域連携パスの運用をおこない、100件算定することができました。患者さんに継ぎ目・待ち時間のない診療を提供すべく努力しています。

梶谷医師は遺伝子診療部の立ち上げを行い、2019年12月から運営が可能となりました。

広島西部においても他と遜色ない乳腺診療が行えるように診療情報を更新していきます。今後はがんゲノム医療・臨床腫瘍学会認定施設としてさらに症例を集積していければと考えています。

■診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	87
皮膚温存乳房切除術	0

乳頭温存乳房切除術	3
乳房部分切除術	56
腫瘍摘出術	0
小計(件)	146

腋窩リンパ節郭清	25
センチネルリンパ節生検	
→腋窩リンパ節郭清	3
センチネルリンパ節生検	98
乳房再建	
エキスパンダー	3
インプラント	3
腹直筋皮弁	4
植皮術	1

乳腺再発手術	
小計(件)	9

乳腺良性手術	
小計(件)	8

その他	
小計(件)	2

合計(件)	165
-------	-----

〈外来化学療法〉

術前化学療法	24
術後化学療法	12
進行再発化学療法	48
合計(名)	84

整形外科

■ スタッフ

病院長 藤本吉範 (2002年4月～)

主任部長 田中 信弘 (2018年4月～)

主任部長 平松 武 (2015年4月～)

脊椎・脊髄センター長

山田清貴 (2009年4月～)

主任部長 橋本貴士 (2011年4月～)

副部長 丸山俊明 (2017年4月～)

医員 福井博喜 (2018年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、田中、山田、平松

関節外科：橋本

外傷：橋本、平松、丸山、福井

■ 診療状況

当科では藤本吉範病院長以下7名が常勤として勤務しています。広島大学整形外科より3名の非常勤医師の派遣を受け、近年の手術件数のさらなる増加に対応しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2019年度の初診患者数は2,763名で、引き続き多くの患者さんを紹介して頂いています。また地域医療支援病院紹介率は114.5%で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2019年度の手術件数は1,281例でした。そのうち脊椎手術が906例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとで紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2019年度の後弯矯正手術例は117例でした。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、当院では顕微鏡視下ヘルニア摘出術を基本術式としていますが、新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っています。

2013年に開設した脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：平松 武）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

さらに2019年からは側弯症外来を開始しており、学童期に多い成長期の側弯症（特発性側弯症）や、成人脊柱変形（変性側弯症）の患者さんに対して専門的な治療を行います。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本医師が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靭帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対して、質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、年4回の連絡会議を行い、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)
 医学博士
 日本形成外科学会専門医
 小児形成外科分野指導医
 日本創傷外科学会専門医

■ 診療科紹介

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科で特に力を入れているのは、加齢性眼瞼下垂症で、除皺術、上眼瞼挙筋前転術、筋膜移植術、すべての術式に対応しています。

眼瞼周囲の疾患以外にも、腫瘍切除後の再建や外傷に伴う組織欠損、先天性疾患、難治性潰瘍など幅広く診療しています。

■ 診療実績

初診患者数	273 例
手術症例数	計 205 件
内訳 全身麻酔	41 件
腰麻・伝達麻酔	29 件
局所麻酔	135 件

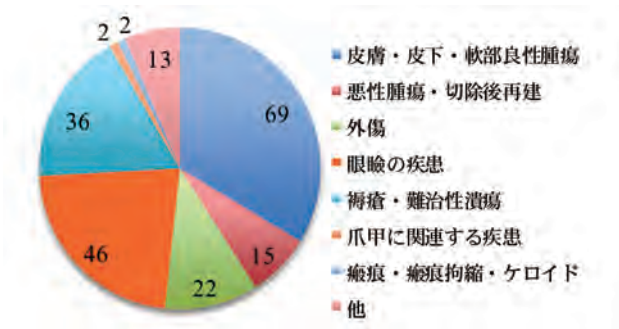


図1 2019年 形成外科手術内訳

■ トピックス

【再建・マイクロサージャリー分野指導医の取得】

形成外科の専門分野は、手外科、美容外科、創傷外科、頭蓋顎顔面外科、熱傷、皮膚腫瘍外科、小児形成外科に、再建・マイクロサージャリー分野指導医が加わり、専門性は多岐にわたります。当科は今現在、形成外科一人体制ですので、専門性にあまり特化せず、形成外科一般を手がけていきたいとは考えていますが、この度、再建・マイクロサージャリー分野指導医を取得しました。大学病院で培ったマイクロの技術を当院でも発揮できればと思っています。

【巻き爪、陥入爪の治療】

当科では爪に装着する矯正具を2種類準備し、多くの変形爪に対応しています。マチワイヤーは形状記憶合金で強制力が強い反面、爪に孔をあけて設置する都合上、爪が伸びていなければ装着できません。一方、VHO式の矯正具は爪の側面に引っかけるように取り付けますので、爪が短くても使用できますが、強制力はあまり強くないのが難点です。双方の利点を活かしながら、併用して治療を進めることで良好な結果を目指しています。



図2 2種類の矯正具装着時の違い

脳神経外科

■ スタッフ

主任部長、急性期リハビリテーション主任部長

黒木 一彦 1991年広島大学卒
日本脳神経外科専門医
日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会認定医
日本脳卒中の外科 技術指導医

部長 築家 秀和 2007年愛媛大学卒

日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

部長 細貝 昌弘 2008年大分大学卒

日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

上記のスタッフで地域市民の脳を24時間体制で守っています。

■ 診療科紹介

当科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2019年では616人の入院がありました。2019年手術数は合 267例；脳動脈瘤手術24（clipping 20例、コイル塞栓4例）例、頸動脈ステント留置術（CAS）34例、脳腫瘍摘出術23例、血栓回収34例、開頭血腫除去術63例、慢性硬膜下血腫58例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症4時間30分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症8時間以内で、条件を満たす疾患であればカテーテルによる血栓除去も可能となっています。最近のデータでは

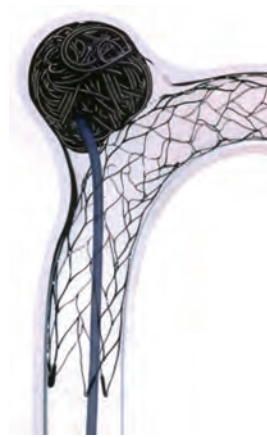
発症から24時間以内でも適応となる症例もあることがわかってきました。いずれにしても脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。tPAは時間経過だけでなく、出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ、内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。そのため発症早期の脳梗塞患者が搬送されると担当脳神経外科医が速やかに来院し、治療に取り組んでいます。このため3人の医師が24時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況です。働き方改革に逆行するような仕事ぶりですが、幸い皆仕事に大きな情熱を持っている医師ばかりなので前向きに仕事に取り組んでいます。

また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くを占めています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛

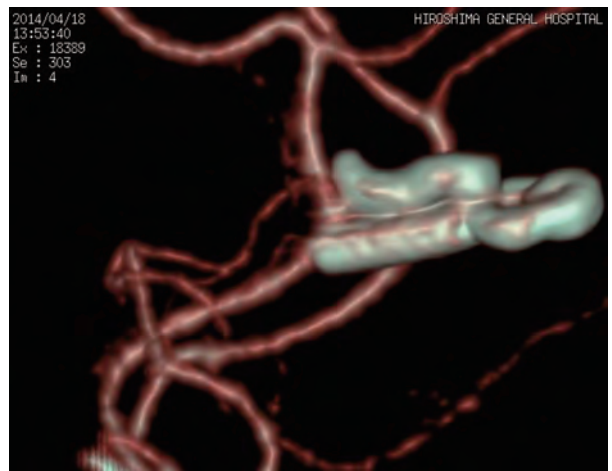
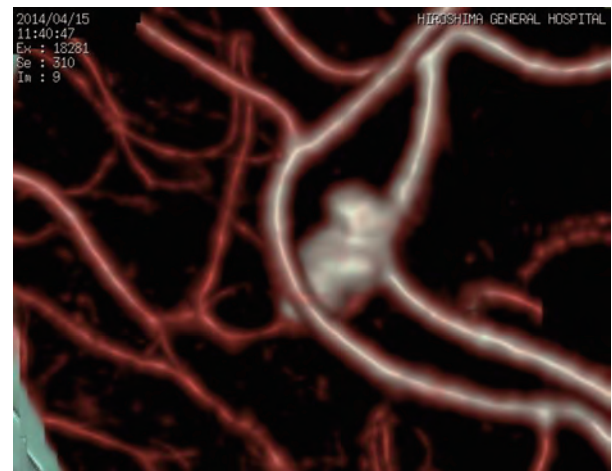
から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前



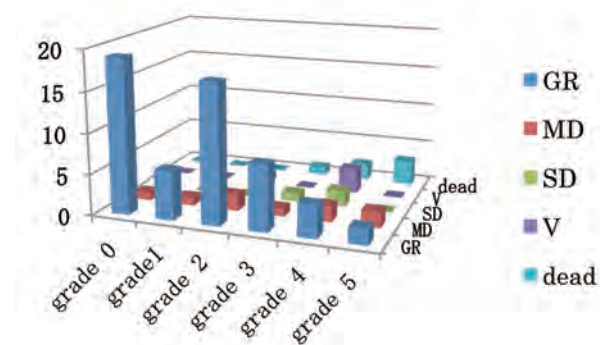
ステントアシストコイルの模式図

は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



遠位前大脳動脈瘤破裂
脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像



(grade0；無症状、grade Vは昏睡状態です。)
開頭クリッピング術治療成績

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特に grade IV においては30年以上にわたり治療成績の目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮し、手術治療を選択してきましたが高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

実際手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。

【慢性硬膜下血腫】

頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。



呼吸器外科

■ スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986年卒)
日本呼吸器外科学会評議員
日本外科学会指導医
胸部 CT 検診認定医

部 長 熊 田 高 志 (2010年卒)
日本外科学会専門医

■ 診療科紹介

当科は2001年10月に開設され、足かけ19年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は日本人の癌死亡の1位となっています。今日、外科分野では内視鏡を用いる内視鏡手術が主流となっています。大きく開胸して行う場合と比較し、低侵襲と言われています。故に、より専門性の高い技術が要求され、臓器別の外科専門医制度が普及し、呼吸器外科専門医による専門的な診療、手術が必要となっています。

最近の年間手術症例は170-180例、そのうち肺癌根治術は70-80例を行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用しています。

また肺疾患（COPDなど）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。低体力、低肺機能の肺癌症例に上記の術前管理を応用して根治術を行っています。

また肺癌をより早期で発見するために胸部CT検診も2002年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部CT検診の有用性は2011年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量CTで行う必要があり、胸部CT検診認定医による検診が必要です。

■ 診療実績

2019年度までの手術件数を図1に示します。上記の術前チーム医療を行うようになり、術後合併症の減少を目指して努力してきました。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来に

よる潜在 COPD 患者の診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。COPD は今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために健康日本 21（第 2 次）でも COPD の認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は術前肺機能外来という新規のシステムにより当院の外科系の全診療科の手術患者に対して、術前肺機能検査を通して潜在 COPD 患者の発見とより良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを行っています。そして当院で術前診断された COPD 患者さんは退院時にかかりつけ医に逆紹介し、COPD の継続治療をお願いする病診連携を行っています。

肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移

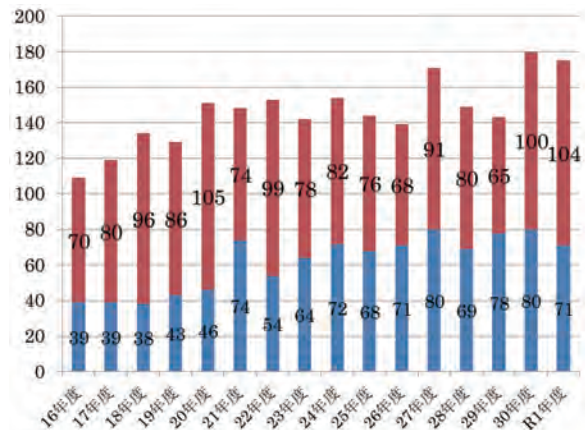
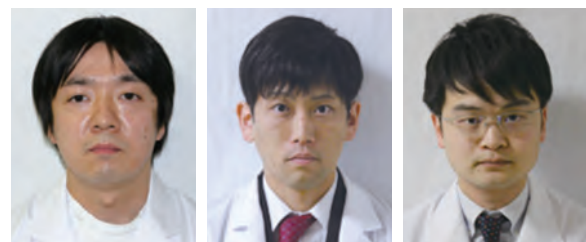


図1：肺癌根治術（下段）、その他の手術（上段）

■ 今後の展望

2020年3月で、これまでよく頑張ってくれた熊田高志医師が転勤となりました。そして2020年4月からは原医研外科の岡田守人教授にお願いして3名のスタッフを派遣していただいております。広島大学医学部の臓器別再編から10年以上経過しましたが、ようやく呼吸器外科のある原医研外科からスタッフの派遣が実現しました。2020年度は、彼らと共に頑張りますのでよろしくお願いたします。



三隅敬三 医師

伊崎悠 医師

石田聖幸 医師

心臓血管外科

■ スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医
外科学会専門医、指導医

主任部長 (血管外科担当)
小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医
脈管専門医

部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)
胸部ステントグラフト指導医
腹部ステントグラフト指導医

医 員 原 田 拓 光 (2013 年卒)

■ 診療科紹介

心臓弁膜症

2019 年 4 月から 2020 年 3 月までの心臓手術は以下の通りです。

- ・ 弁膜症手術 26 例
- ・ 冠動脈バイパス術 (弁膜症との複合手術を含む) 10 例
- ・ その他 (腫瘍、先天性疾患、心筋梗塞合併疾患) 5 例

僧帽弁に介入した 20 例のうち、自己弁を修復する僧帽弁形成術を 18 例に施行しました (形成率 90%)。そのうち、若年のリウマチ性僧帽弁狭窄症に対して、機械弁置換術を回避して弁形成術を行いました。僧帽弁置換術 (生体弁を使用) を施行した症例は、変性による僧帽弁狭窄症兼閉鎖不全症 1 例、重度低左心機能に伴う虚血性僧帽弁閉鎖不全症 1 例です。手術死亡はなく、全員自宅退院となっています。

大動脈弁に介入した 16 例のうち、15 例は弁尖に高度の変性を伴う大動脈弁狭窄症あるいは閉鎖不全症であり、すべて人工弁置換術を行っています。一方、大動脈基部拡張を伴う大動脈閉鎖不全症の 1 例に自己弁を温存した大動脈基部人工血管置換術を行い、抗凝固療法が回避でき、良好な自己弁機能を保持した状態で経過しています。

冠動脈バイパス術では、冠動脈のみ手術介入する単独例全例に体外循環非使用心拍動下手術 (off-pump CABG) を実施しています。中等度の弁膜症を合併する冠動脈疾患に対しては積極的に複合手術 (バイパス+弁膜症手術) を実施しています。

大動脈疾患

大動脈疾患は“瘤”と“解離”に大別され、“瘤”

は大きさと形状、“解離”は発生部位により治療の必要性が検討されます。

低侵襲のステントグラフト治療が大動脈疾患の確立した治療法となり、これまで唯一の治療法であった人工血管置換術では治療困難なハイリスク症例に対しても治療の道が拓かれました。さらに、2つの治療を組み合わせるハイブリッド治療や、これまで保存加療が基本だった B 型解離に対する積極的ステントグラフト治療介入、など今なお大動脈疾患の治療戦略は変化しています。

人工血管置換術とステントグラフト治療にはそれぞれ長所と短所があり、それらに精通し適切に選択することで治療成績の向上を目指しています。当院における 2019 年の大動脈手術症例は 47 例 (人工血管置換術: 26 例、ステントグラフト治療: 21 例) でした。

末梢動脈疾患

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では 2009 年より弁切開刀を使用したバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しています。この分野では日本有数の施設であり、9 割以上の症例で下肢を救うことができるようになってきました。2019 年は 331 例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは 71 例に、血管内治療は 244 例に施行しました。

また近年の血管内治療の進歩は著しく、バイパス手術に血管内治療を組み合わせた hybrid 治療も積極的に行っています。



末梢動脈疾患に対する血管内治療風景

皮膚科

■スタッフ

主任部長 梅田直樹 (2007年卒)
皮膚科専門医
副部長 天野愛純香 (2012年卒)
医員 田中友里恵 (2014年卒)
非常勤医師 吉屋直美 (2001年卒)
皮膚科専門医

■診療科紹介

皮膚科の診療内容としては湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、帯状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っています。

2019年11月以降、火曜日が終日手術日となりました。そのため、外来診療は行っておりませんので御理解のほどよろしくお願いいたします。

さらに、初診、再診を曜日ごとに完全に分けることで、患者さんの待ち時間をより少なく、効率よく診療できるようになりました。地域連携を通してご紹介いただくと、初診の患者さんでもほとんどお持たせすることなく、対応できるかと思えます。その一方で地域連携を通さず、直接受診いただくと、かなりの時間お待ちいただくことになり、その日の予約状況によってはお受けできないこともあります。そのため、お手数ですが必ず地域連携を通して紹介いただくようお願いいたします。

急患については曜日ごとの初診担当医にお電話いただければ可能な限り対応させていただきます。火曜日の急患については梅田に問い合わせいただければ対応させていただきます。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	初診	梅田	手術 (手術室)	天野	梅田	田中
		天野		梅田	天野	梅田
	再診	田中		田中	天野	
		吉屋			吉屋	
午後		外来手術	外来手術			

■皮膚科領域のトピックス

近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹、

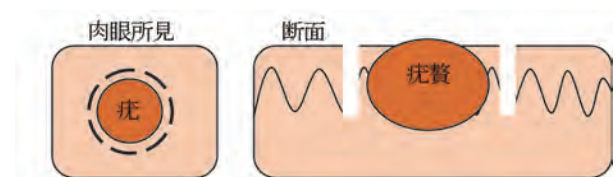
化膿性汗腺炎に対して様々な生物学的製剤が使用可能となっています。抗アレルギー薬の内服やステロイドの外用でも難治であるアトピー性皮膚炎やじんま疹に対しては劇的な効果が期待できます。尋常性乾癬については効き方に個人差がありますが、現在9種類の生物学的製剤が使用可能であり、治療の選択肢が広がっています。化膿性汗腺炎については重症度に応じて手術と生物学的製剤を組み合わせる治療します。

■最近の試み

・尋常性疣贅に対するレーザーいぼ剥ぎ法

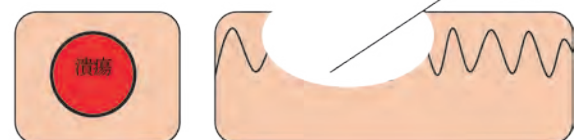
尋常性疣贅はありふれた疾患ですが、万人が完治する有効な治療法はありません。液体窒素療法やサリチル酸ワセリンの外用などで加療されることが多いですが、何年も治療を継続しても難治な方も多数おられます。そのような方に対して2020年7月より炭酸ガスレーザーを使用したいぼ剥ぎ法を行っています。数年来治療をするも難治である方を中心にいぼ剥ぎを行っておりますが、現在のところ、7割程度の方で術後の再発なく経過しています。難治性の疣贅の方がいらっしゃいましたら、是非、ご紹介ください。(局所麻酔が必要で痛みを伴います)

レーザーいぼ剥ぎ法のシエーマ



①疣贅周辺を縁取るよう1mm離してレーザーで焼灼。
(疣自体は直接焼灼しない)

②鋭匙で鈍的に疣を剥離し、疣を摘出する。



③かなり出血するのでレーザーで止血する。

④軟膏処置で上皮化を待つ。(深さにより1~3週間必要)

泌尿器科

■ スタッフ

主任部長 加藤 昌生 (1996年卒)
 日本泌尿器科学会専門医 指導医
 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
 日本排尿機能学会認定医

部長 増本 弘史 (2001年卒)
 日本泌尿器科学会専門医・指導医
 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

部長 上田 晃嗣 (2008年卒)
 日本泌尿器科学会専門医

副部長 赤坂 保行 (2011年卒)
 日本泌尿器科学会専門医

医員 田坂 亮 (2015年卒)
 顧問、医療秘書室長

小深田 義勝 (1979年卒)
 日本泌尿器科学会専門医 指導医
 日本がん治療認定医機構暫定教育医

■ 診療科紹介

多くの手術を開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、腹腔鏡技術認定医2人体制で、質の高い腹腔鏡手術を実践しています。

腎癌の手術は、腎機能温存のために、可能な限り腹腔鏡下腎部分切除を行っています。

浸潤性膀胱癌の手術は、腹腔鏡下膀胱全摘除術を行っています。高齢の患者様に対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っています。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っています。

女性泌尿器科にも積極的に取り組んでいます。腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術 (TVT)、骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC) を導入しました。

■ 診療実績 (2019年度 手術件数)

・ 前立腺

腹腔鏡下前立腺全摘除術	87
経尿道的前立腺切除術	20

・ 腎尿管副腎

腹腔鏡下副腎摘除術	2
腹腔鏡下腎摘除術	12
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	27
腹腔鏡下腎部分切除術	16
・ 膀胱	
経尿道的膀胱腫瘍切除術	159
腹腔鏡下膀胱全摘除術	14
腹腔鏡下尿管膜摘出術	2
・ 結石	
体外衝撃波結石破碎術	115
経尿道的尿管結石破碎術	25
経尿道的膀胱結石破碎術	15
・ 陰茎・陰囊	
陰囊水腫手術	10
精巣摘出術	6
包茎手術	5
精巣捻転手術	1
・ 女性泌尿器科	
LSC	20
TVT	3
尿道脱切除術	3



産婦人科

■スタッフ

主任部長	中西慶喜 (1984年卒)	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
部長	高本晴子 (1996年卒)	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
部長	佐々木美砂 (2005年卒)	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
部長	小西晴久 (2009年卒)	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医
医員	綱掛 恵 (2014年卒)	日本産科婦人科学会専門医
医員	日比野 佑美 (2015年卒)	日本産科婦人科学会専攻医
医員	中本 康介 (2015年卒)	日本産科婦人科学会専攻医
医員	榎園 優香 (2016年卒)	日本産科婦人科学会専攻医
医員	八幡 美穂 (2018年卒)	日本産科婦人科学会専攻医

■診療科紹介

2019年4月から八幡医師が赴任し一旦は6人態勢となりましたが、5月13日から佐々木医師が産休に入り再び5人態勢に戻りました。6月に小西医師が市立三次中央病院に異動となり中本医師が赴任しました。10月には日比野医師が中国労災病院に、中本医師が大学病院に異動となり、綱掛医師と榎園医師が赴任しました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。

当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市佐伯区ではさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・

夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で2012年3月に構築しました。

産科に関しては2019年度81件の母体搬送を受けており、県内でも有数の母体搬送受け入れ病院となっています。但し当院にはNICUがなく35週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。2019年度は県立広島病院に4件、大学病院に1件、広島市民病院に1件医師同乗で母体搬送を行いました。

婦人科に関しては、悪性腫瘍に対しては手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、2019年度は良性疾患のうち53%が腹腔鏡での手術となっています。骨盤臓器脱には積極的に手術療法を勧めており、2019年度は44件の子宮脱手術を行いました。

■診療実績

分娩数 370件 (2017年度 437件)

手術数 474件 (2017年度 471件)

悪性腫瘍	子宮頸癌	6例
	子宮体癌	14例
	卵巣癌	9例

■研究活動

広島大学病院産科婦人科との共同研究「妊娠の生理と病態におけるsFlt-1/PlGF比の動態」を2020年3月から開始しました。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986 年卒)

眼科専門医

部 長 馬 場 太 郎 (2016 年卒)

■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 21 年目の私（二井）と、赴任後 1 年が過ぎ当院に慣れて全力投球中の馬場太郎医師の 2 診体制です。他は、看護師が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名（OMA の有資格者）、医師事務作業補助者 1 名（OMA の有資格者）の計 9 名と、変化ありません。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から概ね一日 5 例行っており、毎年微増傾向です。

2019 年度手術件数は、白内障 354 例、緑内障 147 例（緑内障単独手術 81 例、緑内障・白内障同時手術 66 例）、緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 33 例（ μ LOT）、線維柱帯切除術が 24 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 58 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 2 例、白内障手術併用隅角癒着解除術が 6 例、MMC 併用濾過胞再建術 24 例、翼状片 5 例、角膜・結膜縫合 6 例、その他 17 例、計 529 例と緑内障手術が年々増加傾向です。最近調べたところ当院で緑内障点眼を 3 剤以上投薬している緑内障患者さんが 50%もおられ、緑内障点眼を減少させ QOL の向上を目指し 2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術（低侵襲緑内障手術）であるマイクロフック線維柱帯切開術眼内法（ μ LOT）を積極的に行っており良好な結果を得られています。この術式では入院期間もおおむね 1 週間以内ですみ、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、極小切開白内障手術（切開幅 2.2mm）を行っています。幸い 2019 年度も白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験していません。レーザーは 141 件（後発白内障切開術 64 件、網膜レーザー 30 件、緑内障レー

ザー 47 件（選択的線維柱帯形成術 33 件 他は虹彩切開と隅角形成術）でした。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキユエイドテノン嚢下注射とルセンチス・アイリーア硝子体注射を合わせ 103 例に施行しています（術後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています）。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。



耳鼻咽喉科

■ スタッフ

主任部長 高本 宗男 (1992年広島大学卒)
 日本耳鼻咽喉科学会専門医・専門研修指導医
 気管食道科学会専門医
 めまい平衡神経科学会めまい相談医

部長 長 陽子 (2001年浜松医科大学卒)
 日本耳鼻咽喉科学会専門医

副部長 有木 雅彦 (2011年川崎医科大学卒)
 日本耳鼻咽喉科学会専門医

■ 診療科紹介

2019年7月より上記医師の3人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたっています。現在は3人とも日本耳鼻咽喉科学会専門医師です。

■ 診療実績

当科診療体制は月曜日から金曜日までの午前中の一般外来と火曜日・木曜日の午後に手術、月曜日の午後は甲状腺疾患の超音波外来、水曜日・金曜日の午後は局所麻酔下の外来小手術や嚥下機能検査などを行っています。また、月2回の月曜日の午後には補聴器に関する相談などのための時間（予約制）があります。

耳鼻咽喉科外来では外来に設置いただいた機器による甲状腺や耳下腺などの唾液腺疾患についての超音波検査（エコー検査）も行っています。（図1）2019年度は995件（2018年度は926件）の検査が行われています。

また、当院のリハビリ科言語療法士（ST）と連携して、主に入院中の患者様を中心にではありますが、嚥下機能評価検査を担当し、内視鏡下および透視造影にて経口摂取による栄養確保の可否の判定なども行っています。



図1 甲状腺エコー検査

手術治療は耳鼻咽喉科一般で行われている扁桃・アデノイド手術や内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術、直達喉頭鏡下の声帯手術（ラリンゴマイクロ手術）などのほか、唾液腺・甲状腺手術を中心にを行っています。（図2）

また広島大学病院の腫瘍専門医師の指導による頭頸部癌・悪性腫瘍手術なども行っています。

2019年度の手術件数は253件（2018年度は190件）と前年よりかなりの件数増加対応となりました。



図2 内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995 年卒)
医学博士
日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医
日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

診療放射線技師は3名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションの技師が1名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上7名で診療に当たっています。

■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の3本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットもあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：放射線治療カンファレンス

（当科医師・大学病院医師・診療放射線技師・認定看護師）

火曜日：緩和ケアカンファレンス

（呼吸器内科・循環器内科・外科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

水曜日：cancer board

（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日：呼吸器カンファレンス

（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日：乳腺カンファレンス

（乳腺外科・画像診断部・当科）

金曜日：頭頸部癌カンファレンス

（耳鼻咽喉科・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院である。
2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいかすよう時間調整している。
3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うようとりくんでいる。

などが、当科の特徴といえるかと思います。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	1
2) 頭頸部	19
3) 食道	19
4) 肺・気管・縦隔	37
4) のうち肺	34
5) 乳腺	77
6) 肝・胆・膵	4
7) 胃・小腸・大腸	23
8) 婦人科	5
9) 泌尿器系	44
9) のうち前立腺	37
10) 造血器・リンパ系	1
11) 皮膚・骨軟部	0
12) その他（悪性）	1
13) 良性疾患	0

2019年度の新患数は231人（昨年度249人）、のべ治療患者数は249人（昨年度281人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌のIMRTを13人（昨年度12人）に、体幹部低位照射を3人（昨年度2人）に施行しています。定位照射（脳）は0人（昨年度0人）でした。

他に前立腺癌の骨転移に対し塩化ラジウム内用療法開始し、良好な症状改善効果を得られています。

■ 研究活動

2001年4月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、医師一人体制のためマンパワー不足もあり、対外的な活動に手が回らない状況です。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (1994年卒)
放射線診断専門医

部長 岡崎 肇 (1993年卒)
放射線診断専門医

部長 廣延 綾子 (2010年卒)
放射線診断専門医

医員 岸田 直孝 (2014年卒)

医員 前田 章吾 (2016年卒)

医員 谷本 将一 (2017年卒)

核医学	370
Vascular IVR	54

■ 診療科紹介

- ・ CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、胃透視の読影をしています。
- ・ IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- ・ Nonvascular IVR として、CT ガイド下生検、CT ガイド下膿瘍ドレナージを行っています。
- ・ 検診では、脳ドックを行い、希望者には結果説明も行っていきます。また胃透視の読影、乳腺マンモグラフィーの一次読影を行っています。
- ・ 開業医から依頼された CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査や画像診断を行っています。
- ・ 救急外来から依頼された時間外読影を在宅で行っています。今年度からは iPad を利用して院外読影を行っています。
- ・ 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスや整形外科カンファレンスへの参加、救命救急センターとの画像カンファレンスを毎週行っています。
- ・ 2017年11月に導入された256列 Revolution CT で dual energy 撮影が可能になり、物質の弁別など従来と異なる CT を施行しています。

■ 診療実績

2019年度 読影、IVR 業務

CT	16,302
MRI	5,785

麻酔科

■ スタッフ

統括副院長 麻酔科主任部長

中尾正和 (山口大学 1979 卒)
臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医
医学博士、麻酔科学会麻酔指導医専門医
広島大学医学部臨床教授、ICLS インストラクター、
JPTEC CMD、査読者；Journal of Anesthesia
日本臨床麻酔学会雑誌、麻酔と蘇生 (2002 / 4-)

地域救命救急センター長

吉田研一 (広島大学 1984 卒)
診療部長、救急・集中治療部門責任者
医学博士、臨床研修指導医 (1997 / 4-)

部長 本多亮子 (愛媛大学 1998 卒)

麻酔科学会麻酔指導医
米国心臓学会認定 ACLS インストラクター
集中治療医学会認定医
臨床研修指導医 (2011 / 4-)

部長 村上俊介 (広島大学 1998 卒)

麻酔科学会専門医 (2016 / 4-)

部長 石橋優和 (広島大学 1998 卒)

麻酔科学会専門医 (2019 / 4-)

副部長 河本佐誉子 (広島大学 2008 卒)

麻酔科学会認定医 (2015 / 4-)

副部長 佐々木陽子 (山口大学 2012 卒)

麻酔科学会認定医

医員 佐藤浩毅 (広島大学 2014 卒)

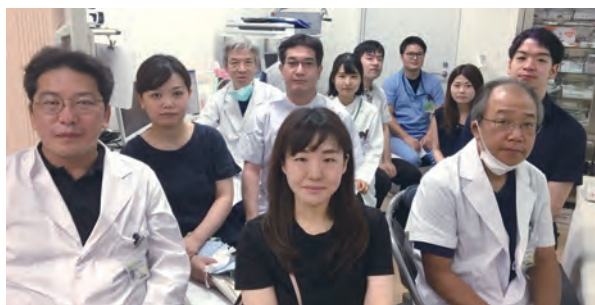
麻酔科後期研修中 (2017 / 10-2019 / 10)
麻酔科学会認定医

医員 檜崎壮志 (広島大学 2014 卒)

麻酔科後期研修中 (2019 / 04-2020 / 3)
麻酔科学会認定医

医員 小田綾 (広島大学歯 2013 卒)

広島大学歯学部歯科麻酔科より医科麻酔研修 (2019 / 4-)
歯科麻酔科学会認定医



■ 診療実績

▶ 2019 年度の総手術件数は 5498 例で、うち麻酔科管理は 4143 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5,498	4,143
予定	4,149 (75.5)	3,088 (74.5)
追加	681 (12.4)	495 (12.0)
当日緊急	668 (12.1)	560 (13.5)

▶ 予定手術 (締め切りは前週水曜日正午) 計画以降に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手術が多いことが特徴です。2018 年秋に手術室看護師の日勤・夜勤交代制が始まり、看護師総数は増員され、新看護師教育も着実に進められ、徐々に新たな戦力となってきています。麻酔科管理症例数は前年より、さらに増大しています。

▶ 麻酔管理の診療科別内訳は外科 1000、整形外科 1233、泌尿器科 497、産婦人科 374、心臓血管外科 190、耳鼻科 243、乳腺外科 153、呼吸器外科 170、脳外科 134、口腔外科 77、形成外科 20、皮膚科 35、眼科 15 など新生児を除く多岐にわたっています。

▶ ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。患者さんは山口県岩国市から広島市までをカバーしています。

▶ 救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU のセクション参照)

■ 麻酔科の機器

▶ 麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS Premium をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。セボフルラン専用気化器はすでに全室に配備されていましたが、2014 年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。麻酔ガス計測モジュールを全面更新しました。

- ▶自動麻酔記録システム；paperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。10 秒単位での詳細なデータが格納されているのが特徴です。
- ▶高次脳波モニターの全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モニターを全手術室に配備し実際の全身麻酔の品質管理にも役立っています。手術室が 9 室あるような大きめの一般病院の中では全国で数番目でした。2017 年度に BIS はフィリップスモニターのモジュールタイプで両側脳波がモニターできる新型に更新されました。Masimo 社 SedLine と両方が使用できるようになりました。
- ▶ 2019 年度に食道エコーが更新され、フィリップス社最新型 3D 表示の最高機種が導入され、術中管理、心臓弁形成への手術支援と大いに役立っています。
- ▶筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PC への取り込み客観的な筋弛緩レベルを記録・確認しています。フィリップス社 NMT モジュールを導入し、麻酔記録への自動記録のできる方向も始めました。
- ▶エコーガイド下の末梢神経ブロックも積極的に取り入れています。

■基本活動

- ▶麻酔科学会認定指導病院（No 421）
 - 初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
 - 1 年次必須ローテーション 12 名 8wks（広島大学たすき掛け 2 名含）西医療センターから 3 名
 - 2 年次選択 4wks 2 名
 - 後期研修医（麻酔科）の養成指導
 - ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修（12 ヶ月 1 名）
 - 広島大学医学部生に対する学外教育

- 救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
- 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
- 看護大学、看護学校での非常勤講師など、多くの役割を果たしています

■研究活動

- ▶ GlideScope、AirwayScope、McGRATH®MAC などのビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ▶ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理
- ▶気管挿管時の歯牙損傷予防に関する歯科口腔外科協力による歯牙プロテクタ作成とそのアウトカム研究
- ▶麻酔記録システム paperChart のビッグデータからの筋弛緩モニタリングの実態調査、筋弛緩効果と血中シミュレーション濃度との関連研究。体位変換時の脳波解析中断時間の解析

■その他活動内容

- ▶救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- ▶外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD（中尾）

歯科口腔外科

■ スタッフ

主任部長 原 田 直 (1986 年卒)
 口腔外科学会専門医、口腔外科学会指導医
 癌治療認定機構暫定教育医
 臨床歯科医研修指導医、歯学博士

医 員 大 井 尚 志 (2014 年卒)

医 員 平 田 ひかる (2018 年卒)

■ 診療科紹介

口腔外科を専門として診療をしています。一般開業医では、困難な口腔・顎・下顔面の疾患の診療、入院処置、手術を中心とした専門的治療を行っています。

主な疾患は、がんや良性腫瘍、粘膜疾患、骨折、顎関節症、歯が原因の感染症などがあります。もう一つの特色として、周術期口腔管理を行っています。口腔は大きな感染源であり、医科での全身麻酔下での手術、化学療法、放射線治療に伴う口腔合併症は、食事量の低下、粘膜炎、誤嚥性肺炎を誘発し、術後感染など予後の低下や生活のレベル低下、入院日数の延長につながります。このようなトラブルを防止・軽減するため、医科と連携し、口腔管理・口腔保清を行っています。

■ 診療内容

当科で扱っている主な疾患

- 1: 顎顔面の外傷・骨折等
- 2: 悪性腫瘍 (舌がん、歯肉がん、唾液腺がん、肉腫等)
- 3: 良性腫瘍 (顎、歯肉、舌、軟組織、唾液腺等)
- 4: 難抜歯 (埋伏智歯、有病者の抜歯等)
- 5: 歯性感染症 (蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等)
- 6: 顎関節症 (顎関節脱臼等)
- 7: 口腔粘膜疾患 (白板症、扁平苔癬、ヘルペス、口内炎等)
- 8: 神経疾患 (三叉神経痛、顔面神経麻痺等)
- 9: 周術期口腔管理 (医科での手術・放射線治療・化学療法中の口腔管理)
- 10: その他 (味覚異常・舌痛症、歯科金属アレルギー)

■ 診療実績

【口腔外科】

主な入院件数は以下のとおりです。

悪性腫瘍: 10 件 外傷 (骨折他): 5 件 顎骨腫瘍: 22 件

良性腫瘍: 4 件 埋伏抜歯術: 21 件 その他: 19 件

外来小手術: 骨内埋伏・水平埋伏抜歯や小病変の摘出など 874 例

【周術期口腔衛生管理】

周術期の口腔管理の延べ人数は 3310 名となり、歯科介入することで、在院日数の短縮や肺炎等の術後感染防止につながっています。

また、全身麻酔下での手術前に、口腔管理 (口腔保清や歯のカバー) は、約 380 名介入しており、全身麻酔下のトラブルの回避を行っています。

■ 学生指導

広島高等歯科衛生士学校、広島デンタルアカデミー専門学校、IGL 医療福祉専門学校の 3 校の実習受け入れを行っており、次世代の歯科衛生士の臨床実習教育を行っています。

■ 学会発表、論文発表

冷凍保存歯を利用した歯の自家移植を行った 8 例の検討 (原田 直 (共同演者))

第 64 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会

■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設です。口腔外科学会指導医のもと、専門医取得が可能です。

また、口腔外科学会など全国学会が主催する顎・口腔疾患、口腔外科疾患調査の実施や口腔がん登録などに参加しています。

救急・集中治療科

■ スタッフ

地域救命救急センター長

主任部長 吉田 研一 (1984年卒業)
医学博士 日本救急医学会専門医
臨床教授 (広島大学 救急医学)

部長 櫻谷 正明 (2006年卒業)
日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

部長 加藤 之紀 (2006年卒業)
日本救急医学会専門医

副部長 河村 夏生 (2010年卒業)
日本救急医学会専門医

副部長 高場 章宏 (2011年卒業)
日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

医員 岩本 桂 (2016年卒業)
日本救急医学会

医員 堂 埜 恵 理 (2016年卒業)
日本救急医学会

医員 山本 高 嗣 (2016年卒業)
日本救急医学会

■ 診療科紹介

2018年度、当科は総勢8名で救急・集中治療の診療を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修基幹病院でもあります。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門です。

2011年4月から地域救命救急センターとして組織変更し、いわゆる三次救急体制を正式に発足されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしくお願いします。

■ 診療実績

2019年度

年間救急搬送患者数 3,996台

年間救急来院患者数 6,768人

2019年度の年間重篤患者数を表1に示します。

年間重篤患者数 (2019年4月～2020年3月)

表1) 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)
年間重篤患者数 (2019年4月～2020年3月)

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心肺停止	182	7	175
2	重症急性冠症候群	110	97	13
3	重症大動脈疾患	30	25	5
4	重症脳血管疾患	138	84	54
5	重症外傷	91	83	8
6	重症熱傷	4	4	0
7	重症急性中毒	28	28	0
8	重症消化管出血	71	65	6
9	重症敗血症	46	29	17
10	重症体温異常	5	4	1
11	特殊感染症	5	5	0
12	重症呼吸不全	62	37	25
13	重症急性心不全	72	59	13
14	重症出血性ショック	4	1	2
15	重症意識障害	12	10	2
16	重篤な肝不全	5	1	4
17	重篤な急性腎不全	5	4	1
18	その他の重症病態	6	4	2
	合計	876	547	328

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

緩和ケア科／緩和ケアチーム

■ スタッフ

- 主任部長 小松 弘 尚 (1985年広島大学卒)
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導医
- 主任部長代理 田崎 達也 (1997年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医
- 部長 伊東 淳 (1995年卒)
日本放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医
日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医
- 部長 大月 鷹彦 (2007年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学専門医

■ 緩和ケアチームメンバー紹介

- 消化器内科 緩和ケア科医師：小松弘尚
放射線治療科医師：伊東淳
外科 緩和ケア科医師：田崎達也
呼吸器内科 緩和ケア科医師：大月鷹彦
循環器内科医師：赤澤良太
消化器内科医師：石橋一樹
精神科医師：吉村朋範
看護科長：宮本英美、久保洋子
緩和ケア認定看護師：岡田恵美子（チーム担当）
古本直子 高原さおり
がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子
薬剤師：磯貝明彦 藤原俊輔、小川智恵子
理学療法士：小林恭子
言語聴覚士：後藤優佳
公認心理士：佐藤亜弥
管理栄養士：西田美穂
社会福祉士・がん相談員：正嶋忠貴
がん相談員：益村勇子
以上の職種で構成しています。

■ 科・チーム概要

緩和ケア科は2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。

地域に対して、県から委託された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行っています。

緩和ケアチームは、患者・家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族への支援を行っています。また、外来患者が安心して在宅療養できるよう、がん相談にも応じています。

■ 診療実績・活動内容

緩和ケア外来：2／週：原則として予約制、必要な方に病状説明や症状緩和、今後の療養について相談・情報提供しています。

緩和ケアチーム：毎日、介入依頼されている患者さんの元に伺います。週一回、チームメンバーそろって、患者さんの元に回診に伺います。毎週火曜日カンファレンスを開催し、他職種で治療方針を共有しています。

非がん患者の精神的・社会的側面に対するの依頼も受け、心理士を中心に介入しています。



■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき主治医と連携し調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2019年緩和ケアチームを利用した101名の患者のうち43名にがんリハビリを実施

施しました。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算1では各科主治医（緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している）の病状説明に認定看護師が同席し、その後の意思決定支援に介入します。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せ、そこから要望の出た患者へはがん患者管理指導加算2も利用して対応しました。2019年度は、がん患者管理指導加算1は20件、がん患者管理指導加算2は35件でした。

【がんサロン】

隔週月曜日のおしゃべりサロンに参加しています。

【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

【生活のしやすさに関する質問票】

がん患者への苦痛スクリーニングを行っています。

2019年度 苦痛スクリーニング

総件数	3611件
外来	3019件
病棟	592件

【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催】

12月15（日）23名 参加

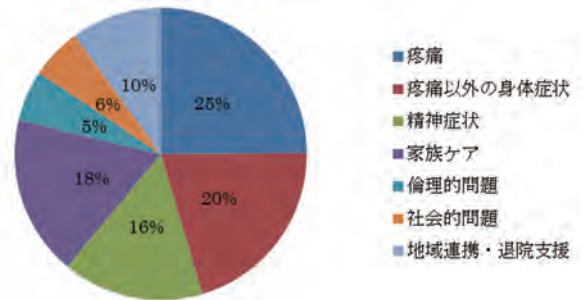


■ 院内実績（2019年度）

緩和ケアチーム総依頼件数 101件

依頼内容の割合は下記

チーム依頼内容



健康管理センター

■ スタッフ

診療部長・センター長、主任部長、臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医・

臨床検査管理医

課長 (保健師)

増本 順子

主任 畝小 百合

保健師 4名

看護師 1名

事務 6名

業務委託 (受付・予約) 5名

(車両業務) 1名

臨時職員 (医師 5名、看護師 7名、助手 2名、臨床検査技師 2名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー 3名、転倒予防指導士 1名、

健康運動指導士 1名、第一種衛生管理者 1名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、

日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会

日本農村医学会

■ 概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■ 主な活動内容

1. 施設内健診

当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10月第3日曜日にJMSマンモグラフィャーサンデー (9回目) を行いました。希望された方には乳腺エコー検査を実施し、好評でした。

2. 巡回健診

JAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

院内オープンホスピタル、JA広島中央農業祭等でミニ健診、健康相談を実施、その他JA組合員健康教室やJA広報誌の執筆活動も行っています。

■ 事業の紹介

当センターでは、ホスピタリティマインドを大切に健診に心がけており、受診者ひとりひとりの健康に関する心配事に目をむけています。日頃の生活習慣を見直し、より健康的な習慣に取り組むきっかけになれるような健診をめざしています。

健診を受けていただくだけでなく、精密検査が必要であると診断された方には、医療機関へ受診していただけるように健診結果書と一緒に紹介状を発行しています。未受診、未把握の方には4か月後に再度受診を促す手紙を郵送しています。精検受診率をあげるための対策として、消化器内科、内科外来の協力のもと、2018年7月から大腸がん検診で精密検査が必要である受診者に対して人間ドック当日に当院での受診を勧めました。希望された方は内科外来へご案内し大腸カメラの予約をとっていただきました。人間ドック当日に精密検査の予約ができることで、受診者の通院回数や待ち時間を減らすことができ、受診者からも好評です。そして、大腸がん検診の精検受診率も向上しています。

一昨年の豪雨災害では毎年、巡回健診にいかせていただいているJA安芸の小屋浦支店の受診者の方々が被害にあわれました。被害の有無にかかわらず地域で集まる機会が少なくなかった、みんなが集まる機会を作ってほしいという要望がありました。そのため、健康教室を開催し女性部の皆さまに集まっていたいただき、生活を振り返っていただくとともに地域の皆さまが集まる機会を作ることが出来ました。

生活習慣病の早期発見およびその予防、がんの早期発見だけでなく、地域に寄り添った活動ができるようにスタッフ一同、心をこめて事業を展開したいと思います。

2019年度活動実績

○施設内健診

	受診者数 (人)
入院ドック	13
外来ドック	2,550
協会けんぽ健診	1,343
原爆(一般・がん・二世)	291
脳ドック	312
肺ドック	141
痔ドック	38
個別子宮がん検診	67
個別乳がん検診	135
個別大腸がん検診	29
健康診断(一般・簡易)	392
当院職員健康診断	1,374
個別特定健診	74
骨密度検診	128
計	6,887

○巡回健診

	実施日数(日)	受診者数(人)
生活習慣病予防健診	21	549
肝炎検診	4	19
胃がん検診	17	341
職員健診	69	4,910
大腸がん検診	4	389
特定・後期高齢者健診	4	389
計	119	6,597

○保健指導

	受診者数(人)	
特定保健指導	29	
施設内保健指導	2,665	
	実施回数(回)	受診者数(人)
健康教育	4	99
巡回健診後の事後指導	8	85

2019年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内健診

		受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	944	99	10.5	63	63.6	0	0
	カメラ	2,325	83	3.6	82	98.8	6	0.26
胸部	レントゲン	4,273	131	3.1	98	74.8	2	0.05
	CT	141	8	5.7	6	75.0	1	0.71
大腸(便潜血反応)		3,766	171	4.5	110	64.3	11	0.29
乳部		1,055	56	5.3	50	89.3	2	0.19
子宮頸部		879	17	1.9	14	82.4	0	0
前立腺(PSA)		509	35	6.9	30	85.7	7	1.38

○巡回検診

	受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン	341	14	4.1	8	57.1	0	0
胸部レントゲン	4,771	20	0.4	10	50.0	0	0
大腸(便潜血反応)	1,590	75	4.7	39	52.0	3	0.19
前立腺(PSA)	368	10	2.7	5	50.0	1	0.27

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕
 科 長 水 野 誠 士
 臨床検査技師 6名
 事 務 1名

■ 取得資格

病理専門医	1名
細胞診専門医	1名
病理解剖資格	1名
細胞検査士	4名
国際細胞検査士	2名
二級甲類臨床病理技術士	4名
	(病理学4)
診療情報管理士	1名
医療情報技師	1名
認定病理検査技師	2名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	3名

■ 所属学会

日本病理学会
 日本臨床細胞学会
 日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖
 検査件数 (2019年度)

組織検査	6,178件	(2018年度 5,787件)
術中迅速検査	340件	(// 345件)
細胞診検査	6,275件	(// 6,562件)
迅速細胞診	143件	(// 131件)
病理解剖	4件	(// 4件)

■ トピックス

〈マイクローム更新〉

病理組織のプレパラート作製に欠かせない機器であるマイクロームが新しくなりました。組織を光学顕微鏡で観察するためには、光を透過させる厚さに組織をスライスする必要があります。マイクローム

とは、組織片を薄い切片にする機械です。このマイクロームを使って組織片を薄く切る操作を薄切といいます。切片の厚みは室温や、薄切時のマイクローム刀を動かすスピード等に左右され、薄切は非常に繊細な作業です。1枚の切片の厚さは3～4μm(一般的なラップの厚みは約10μm)。薄切中に人が通ることで空気が流れが生じ、風が吹けば切片はすぐに飛んで行ってしまいます。

病理研究検査科ではマイクロームを用いて、病理診断用、免疫染色用、外注検査用を含め年間50000枚の切片を作製しています。



〈自動染色装置の更新〉

20年の長きにわたり、病理組織検査に欠かせないヘマトキシリンエオジン染色標本の作製のため稼働してきた自動染色装置DRS-601Aが、ティッシュ・テックプリズマプラスDRS-Prisma-P-JDに更新されました。



臨床研修科

■ スタッフ

〈2年目初期臨床研修医〉

入江耕平、岩田和佳奈、洪早耶佳、清水美羽、
住元遥香、近本哲士、原田怜、濱永有華、山本真由

〈1年目初期臨床研修医〉

伊藤里紗、大岡達子、川口晃、五月女洋介、前雄平、
満谷尚子、森田智子、安岡悠希、安富和果、
山根大寛、波多間浩輔、向井俊平

■ 概要

初期臨床研修医2年次9名、1年次12名の計21名が所属しています。それぞれが当院の初期臨床研修プログラムに沿って、各診療科をローテーションする研修を行っています。

■ 活動内容

1年次は内科6ヶ月、外科系1ヶ月、麻酔科2ヶ月、救急集中治療科2ヶ月の計11ヶ月が必修科となります。残りの1ヶ月は自由に選択することができます。2年次は産婦人科1ヶ月、小児科0.5ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月が必修科となり、残りの期間が自由選択となります。精神科と地域医療に関しては、院外の医療機関で研修をさせていただいています。

研修内容は各診療科によって異なりますが、指導医の先生方のもとで外来での初期対応や病棟に入院している患者様の診療に携わっています。外科系の診療科では、手術に助手として参加させていただくこともあります。麻酔科では、全身麻酔の導入・維持および覚醒までの一連の管理を指導医と共に行います。静脈路確保や気管挿管、人工呼吸器の操作といった基本的な手技もここで習得します。医療従事者として、ひいては社会人としても未熟な点が多い私たちですが、患者様と積極的にコミュニケーションをとり、研修医だからこそ見つけられる小さな出来事に気付くことができるよう心がけて診療にあたっています。

日々の診療に加えて、救命救急センターにて夜間・休日の日当直業務を行っています。救急医1名と一般当直医1名に加えて、1年次・2年次研修医が1名ずつの計4名で診療時間外に救急外来を受診され

た患者様の対応をしています。これまでに得た知識や経験を活かしながら、目の前の患者様に対して適切な初期診療を行うことを意識しています。上級医として救急医もしくは一般当直医が必ずいるため、受診される患者様にとってはもちろんのこと、私たち研修医にとっても安心できる環境です。

当院の救命救急センターは、年間救急搬送件数が3000件以上、年間来院患者数が5000人以上であり、研修医にとっての日当直業務は、walk inから救急搬送される重症例まで幅広い症例を経験する貴重な機会でもあります。

院内外で行われる学会や勉強会への参加も積極的に行っています。毎週火曜日の早朝には、Early Bard Lectureと呼ばれる研修医のための勉強会が開かれています。ここでは自分が実際に経験した症例について発表し、お互いに共有しています。その後は、各診療科の先生方をお招きして30分ほどの講義をしていただけます。資料作成や学会発表の練習になる場であり、参考書を読むだけでは学ぶことのできない最新の知見をupdateすることができています。

また、BLS、ACLS、JPTEC、JATECといった若手医師にとって必要な資格を取得するための講習会には、病院より補助をいただいて参加することができます。

学会発表については国内に限らず、場合によっては海外で開催される学会に同行して発表するチャンスもあります。

そのほかの特徴として、初期臨床研修を修了した後の3年目からも後期臨床研修医として当院での勤務を希望する先生方が数多くいることが挙げられます。これは、指導熱心で信頼できる先輩方のもと、働きやすい環境で2年間充実した研修期間を送ることができたからだと思います。



看護科

■ スタッフ

看護部長 馬場崎 喜美子
 看護副部長 佐藤 澄香
 村中 好美
 久保 知子
 藤本 七津美 (総合医療福祉相談室兼務)

■ 概要

看護科職員数は684名で病院内最大の人員数です。今年度は看護科目標を、「心と心の通い合うハートふるナーシング～2019！共に育ち看護の質を向上させよう～」とし、日々取り組んでいます。

■ 看護部の活動

1. 看護の質向上に関する活動

○看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、今年度はラダーⅠ53名、ラダーⅡ20名、ラダーⅢ3名の認定を受けました。

○e-ラーニングによる学習支援

クリニカルラダー取得に際しては研修受講を必須とするなど看護の質を確保するための教育も注視しています。その中で今年度は看護の実践向上を目的としたe-ラーニングでの学習を行いました。

2. 看護職員の職務満足の上に関する活動

日本看護協会により作成及び推奨されている「医療従事者のワークライフ・バランス (WLB) インデックス調査」に参加し、制度の整備状況・認知状況、「働き方に満足している」「現在の生活に満足している」など、勤務環境に対する課題やニーズの把握に努めました。その後、データ分析を行い勤務環境改善に向けたアクションプランを作成し取り組んでいます。今後は、病院全体でインデックス調査への参加も検討しています。

3. 助産師の交流事業

1月より、山口厚生連周東総合病院に当院の助産師が出向し、相互支援・助産技術の向上を図る等の機会を得ています。

4. 看護の普及啓発に関する活動

○ふれあい看護体験

8月2日(金)に11校85名の高校生を対象にふれあい看護体験を実施しました。白衣に着替え、患者さんとの会話や清拭、足浴などの実技を通じて看護や命について理解と関心を深める機会とな

りました。

○命の授業

広島県看護協会からの依頼で広島市立砂谷中学校において助産師による命の大切さ、こころとからだについて授業をおこないました。

5. 看護の人材確保と定着推進活動

○育児休暇中の看護職員の復帰支援(るるん広場)

7月4日(木)、11月1日(金)の両日に開催し、看護職員16名と子供たちが参加しました。内容は院内保育見学や看護部長からの話、先輩看護師の体験談などですが、他部署のママ同士の交流も深まりました。類似質問もありQ & Aとしてリーフレット作成も進めています。今後も円滑な職場復帰が可能となるよう取り組んでいきます。

○病院見学会

4月13日(土)、20日(土)の両日に開催し154名の看護学生の参加がありました。看護部長による病院概要や看護の話、院内見学を通して、参加者からは「病院のことがよくわかった。この病院で働きたい」などの感想が寄せられました。



○サマーインターンシップ

新人看護師が就職後にリアリティショックなくスムーズに医療現場に入れるように、急性期総合病院の職場体験(環境整備、シーツ交換など)を毎年企画しております。今年度は8月1日～16日の期間に実施し90名の看護学生の参加がありました。

○学校訪問

タスクシフティングについて検討が進められている状況ですが、その観点から当院も介護職の採用を検討しており、12月には9校の福祉系の学校訪問を行いました。今後は、人材確保に向けた取り組みを進めていきます。

外来

■スタッフ

科 長 中 元 美 恵 (糖尿病センター)

本 山 敏 恵 (内科)

田 尾 由美子

(整形外科・形成外科、心臓血管外科・呼吸器外科、
脳神経外科、精神・心療内科、外来科長室)

新 田 克 己

(泌尿器科、皮膚科、耳鼻科、眼科、外科・乳腺外科)

槌 谷 滋 乃

(内視鏡センター、中央検査処置室、中央採血室、
地域救命救急センター)

主 任 尾 崎 直 美、坂 手 友 子、

槌 井 美 穂、伊 藤 昭 範、

竹 野 香 織、平 舛 仁 美、

益 田 尚 恵

他 看護師 84 人 看護補助者 2 人

■外来の概要

2019年度の1日平均外来患者数は1,019.0人、年間延べ合計患者数は244,569人でした。

地域医療と連携を密にし、地域→外来→病棟→外来→地域の繋がりの中で、患者さんの生活をみる視点をより一層強化し、質の高い医療、看護を目指しています。また、他職種との協働により専門性の高い医療サービスが提供出来るように心がけています。

3つのよかった「受診してよかった、紹介してよかった、働いてよかった」を合い言葉として地域完結型医療を目指しています。

■看護

外来診療部門は、短時間勤務者が多く、ヘルシーワークプレイスの視点から、職場環境の改善に取り組みました。チームリーダーの主任と4人のリーダーナースからなる計5人の外来応援チームが立ち上げられ、各科の休憩時間取得のための応援や、急な休みがでた外来の応援に入るようになりました。

これにより、休憩が取りやすくなり、各科の物品整理や業務改善にも繋がっています。

■教育

2019年度は、RST委員を中心に、アクションカー

ドを使用して急変対応のシミュレーションを実施しました。また、各部署での勉強会も積極的に実施しています。

外来診療部門では、臨床工学科のスタッフの方々に協力してもらい、新輸液ポンプの取り扱い方のレクチャーを受けました。

救命救急センターでは、持ち回りで担当を決めて、色々な内容の勉強会を実施しました。

内視鏡センターでは器具の取り扱い方の説明会を実施しました。

中央採血室では、新薬の説明会とその注射方法についてレクチャーを受けました。

今後も限られた時間の中で、興味を持って参加できるような研修を、各科あるいは外来全体で企画していきたいと思います。

■トピックス

外来看護 2020 春号に「リーダーナースを活用した外来応援体制の取り組み」田尾 由美子 他が掲載されました。



外来治療センター

■ スタッフ

科 長 野 村 昌 代

他 放射線治療科	1名
透析室	7名
化学療法治療室	4名
5階兼務看護助手	1名

【資格取得】

がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子

がん薬物療法看護認定看護師：野村昌代 奥村麻美

【所属学会】

日本放射線治療学会

日本臨床腫瘍学会

日本がん看護学会

■ 概要

透析室 14 床、化学療法治療室 13 床で稼働

がん薬物療法外来治療患者延べ件数 4224 件
1日平均 17.4 件

放射線治療

透析治療患者ベッド稼働率 外来 75%
入院 90%

■ 看護

治療センターでは、がん放射線治療・がん薬物療法及び透析をうける患者さんとその家族がよりよい療養生活を維持・継続できるように抱えるそれぞれの多様な問題に指導・相談の支援を行っています。患者さん個人が抱える身体的な問題だけではなく、心の問題や生活環境の問題などを理解したうえで、患者・家族のもつ不安・混乱・迷いなどを受け止め、患者さん自身が疾患と向き合い納得した治療の選択と自立した生活が送れるように必要な社会的資源の連携など地域を巻き込んだ患者さん中心のチーム医療を実践しています。

がん患者さんにおいては、放射線治療やがん薬物療法導入時の IC 同席や治療中の支援を専門的に認定看護師による説明・指導・相談を実施しています。

放射線治療におけるオリエンテーション延べ 171 件

がん薬物療法における指導延べ 317 件

透析関連では、慢性腎不全になりやがては透析が

必要になる患者さんとその家族を対象に人工透析と腹膜透析及び腎移植の療法選択について早期に関わることで、患者さんや家族が透析治療を受容し、適応していく段階に応じて自立した生活が送れるように支援を実施しています。

療法選択指導延べ 11 件

■ 教育

一般的な知識のみならず、専門的な透析・薬物療法・放射線治療が行われる中、緊急時に直に対応出来る能力やリスクを予測して行動する実践力が求められます。その為実践力の維持向上を期待出来る研修や教育に取り組んでいます。

① スタッフ参加型（学習）を活用

経験の豊富なスタッフの特性から専門的知識と実践に即した臨床判断能力の習得のためにマニュアルの確認・修正をすることで、スタッフ自身が思考しながら行動に移し、体験しながら知識と実践力を身につけるアクティブラーニングの体制を取っています。

② 知識や実践力の確実な定着・実施に向けて専門的に実施される研修会や勉強会への参加を積極的に取り入れています。

③ 各分野において、実習生の受け入れを支援しています

■ トピックス

- ・化学療法室では、有害事象共有化をはかる目的で副作用チェックシートの導入

地域救命救急センター

■スタッフ

科長 村田 美智子
主任 杉中 知子
岡崎 裕美
他 看護師 26名 看護助手 1名

■概要

2011年に地域救命救急センターが開設後、病床数8床（個室1床）にて救命救急加算対象患者を中心に受け入れ稼働しています。小児・産科を除く全科の救急患者が入室可能であり、2019年年間入室患者数1,011名、平均滞在日数は2.8日でした。定期手術後患者入室・ICU満室時の転床受け入れもあり、救命救急加算対象患者は入室患者数の82.7%でした。

■看護

4:1の看護体制をとっており、日勤帯では受け持ち制とパートナーシップを用い、重症度が高い症例に対応しています。患者は急な発症での入室となることが多く、自身の置かれている状況が十分に理解できないまま、治療方針の決定をしなければならない状況は多くみられます。「患者の意思決定支援」に重点を置き、患者やその家族の権利や意志を尊重した看護介入が出来るように、医師・看護師・コメディカルと倫理カンファレンスを行い、スタッフ間で情報共有し統一した看護を行っています。



*倫理カンファレンス風景

また昨年はCOVID-19感染に伴い、重症患者受け入れ病棟として病棟内のゾーニング・防護服の着脱方法の勉強会への参加・マニュアルの読み合わせ等をスタッフ全員で行い、スムーズな対応を心がけました。そしてリリーフナースとして、病棟応援に力を入れ、ジェネラリストとして活躍出来るように日々奮闘しています。

■教育

スタッフ全体教育では、OJT教育に力を入れています。新人看護師・他部署からの異動者に対して教育計画を提示し、毎月評価しながら個人の成長に合わせてプリセプターが中心となり、病棟全体で取り組んでいます。

また呼吸器・循環器・脳外科・ケアチームの4チームを編成し、チームリーダを中心としたミニ勉強会・事例検討を計画的に実施しています。

■院内における研究・発表

*第68回日本農村医学会学術総会

2019年度看護協会廿日市支部看護研究発表会

フィッシュの働きかけによるスタッフのモチベーション向上の効果～ハッピーメッセージ導入前後を比較して～

研究者：○坂口伽奈 坂井利名 岡崎裕美

*2019年度院内看護研究発表会

倫理カンファレンス後の情報共有に対する看護師の意識調査

研究者：○木村美沙季 岡崎裕美

*日本看護研究学会 第45回学術集会

個人を対象とした動物介在活動と高齢者の情緒的健康

～社会的で気配りのできるA氏の事例より～

研究者：坂本弥永



*ポスター展参加で、ラッキー賞をいただきました。

ICU・西3階病棟

■ スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝

(医療メディエーター)

主 任 岩 藤 美 穂・坂 井 真理子

大 野 真由美

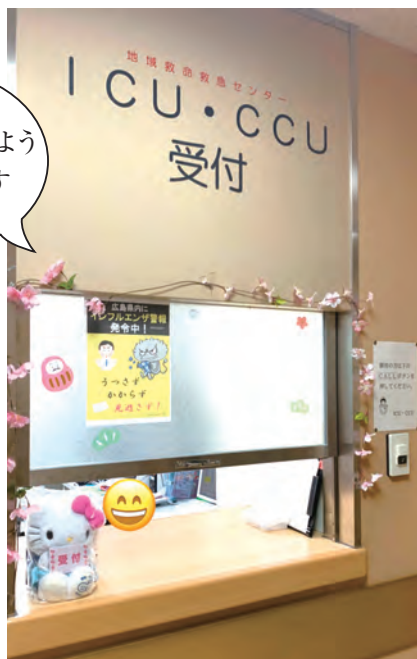
他 看護師 30 名

■ 病棟の概要

ICU は、生命維持装置、患者監視装置などを用いての診療を必要とする患者、および緊急入院患者を収容し、集中治療・看護を行う病棟です。特定集中治療室管理料 3 を取得しています。病床数は 8 床で 2 対 1 の看護体制です。

活動報告

季節感が出るよう工夫しています



■ 看護

看護師の勤務形態は、3 交代制、24 時間 2 対 1 で切れ目のない看護を行っています。

今年は、4 つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。

1. カンファレンス・家族ケアチーム

長期入室、看取りの患者さん・家族に ICU ダイアリー（交換日記）を行っています。日々の患者さんの様子をご家族は身近に感じられ高評価です。

医師を含め倫理カンファレンス・デスクカンファレンスの実施もできました。

2. 安全・業務改善チーム

インシデントレポートの内容を精査し、薬剤の

配合変化のエラーが多いため病棟薬剤師に協力を依頼し、ICU で良く使用する薬剤の配合変化表の見直しを行いました。

時間外削減については、タイムリーな記録により、記録の時間外削減をスタッフに促しました。

3. 病棟内教育チーム

ICU 経験チェックリストを 2 年目・異動者に使用し、スタッフに提示したことで、経験値がよくなり独り立ちする時期の采配ができました。

4. 早期離床チーム

VAP（人工呼吸器患者の肺炎）予防のために口腔ケアについてアンケート調査、それを元に口腔ケアの勉強会を実施しました。今後は、ギャジアップ 30℃、背面開放座位推進へ重点を置き活動していきたいと思っています。



■ 教育

新人教育は、主任を中心に、プリセプター制を取っています。プリセプターも 3 年目の看護師のため、心に寄り添ってもらってお姉さんの役割をもらい、技術については病棟全体で指導・育成しています。

新人は 1 年間、日々を振り返る用紙を使用して指導者と日々の看護を振り返っています。振り返る時間も設け負担が少ないよう配慮し続けられています。

院外の研修会に全員年 1 回は参加し、自費研修参加など自己研鑽しています。

ICU・CCU 集中治療セミナー初級編 3 名・中級編 2 名受講しました。

■ 研究発表

2 チームが研究発表に向けて努力中です。

西 4 階病棟

■ スタッフ

科長 古井良子
 主任 前田智子、植野祐子
 麻川真代
 副主任 下谷恵子、中村由香里
 他 助産師 26名 看護師 14名
 看護補助者 3名

■ 病棟の概要

診療科は産婦人科・乳腺外科混合病棟で、唯一の女性病棟です。病床数は46床、病棟稼働率は70.2%で、平均在院日数は7.5日です。平均必要度は28.6%です。

2019年度の分娩件数は377件で帝王切開率は26.0%でした。

婦人科では主に良性・悪性腫瘍手術、化学療法、異常妊娠、切迫流産などの治療を行っています。乳腺外科は、主に乳癌や良性腫瘍の摘出術、化学療法を行っています。入院時から多職種で協働し安心して治療に望めるように努めています。



■ 看護

2019年6月より産後ケア事業、2019年10月より助産師による全褥婦対象の産後2週間健診を開始しました。

産後の母親の心身の不調や産後うつ等を防ぐため、母子への心身のケアや育児サポートなどを行っています。

病棟外来一元化は4年目となり、病棟から外来へ交替で勤務し、現在ではスタッフの半数が外来業務を行えるようになりました。病棟と外来での情報共有やス

タッフの応援体制もとれるようになっていきます。

乳腺外科・婦人科では周手術期の看護や悪性腫瘍の化学療法・放射線療法の看護、終末期患者に対して同じ女性としての目線で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供しています。



■ 教育

遺伝子診療部 山本弥寿子医師、乳腺外科 梶谷医師により遺伝性腫瘍についての勉強会を開催し、遺伝子診療についての知識を深めました。

小児科医師とともにNCPRの勉強会を開催し緊急時の対応について学びを深めました。

看護師による病棟勉強会を7回開催しました。知識や技術の習得をはかり看護の質向上に努めています。

助産師としての実践能力向上のために、2019年度は3名が助産師出向制度を利用し、他院へ出向しました。今後も個々の実践能力を向上し、より一層切れ目のない支援を目指しています。

■ 院外活動

廿日市健康祭りでベビーマッサージの実施や看護の出前授業で中学校・高校で「いのちの授業」を行い、院外活動にも積極的に参加しています。また、助産師1名が広島県看護協会の社会経済福祉委員として活動しています。

■ 院内における研究発表

「パートナーの主體的な育児を支えるために両親学級でできること～産後1ヶ月の育児を経験したパートナーと母親へのアンケートを用いて～」

研究者：○津賀麻美 竹本有里

西 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 西 村 留 美
主 任 岩 崎 文 江、島 津 加 奈 子
副 主 任 美 濃 智 子、中 田 恵 梨
他 28 名

■ 病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者・急性期患者の看護を行っています。病棟スタッフは看護師 33 名、看護助手 3 名で構成されています。2019 年度の整形外科手術件数：1182 件 病床稼働率：84.5% 平均在日数 12.9 日です。

■ 看護

当科では固定チーム制＋受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院まで責任をもって継続した看護を提供することに努めています。

男性看護師が 11 人在籍しており、看護師の 1 / 3 を占めています。男性看護師は患者さんの移乗や体位変換時に力を発揮してくれており、頼りがいがある・言葉に説得力があるとの患者さんからの声もいただいています。



病棟内では、スタッフ全員で分担しチームごとに活動を行っています。特にシミュレーションチームは月 1 回、急変を想定したシミュレーションの勉強会を行い、スタッフ全員が急変時に対応できるよう日々学習しています。また、学会認定運動器看護師が 2 名在籍しており、日々中心となって開発的な看

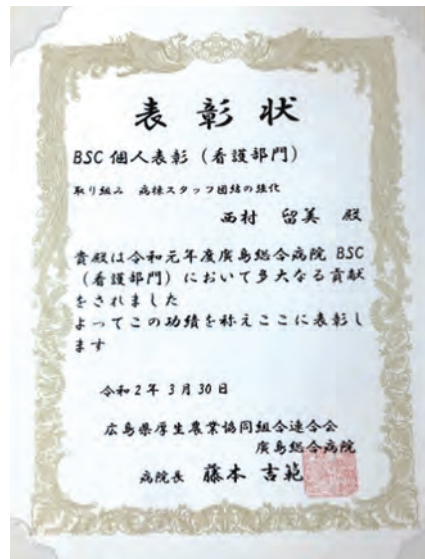
護を実践しています。

■ 教育

個人の趣味、感心にに基づき、研修会に参加しています。年間計画を立てて研修会参加後は病棟内で伝達講習を行い病棟看護師全体のレベルアップをはかっています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すと共に、リーダーや実習指導者を育成しスタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

「整形外科看護にやりがいを持ち、働きやすい職場作り」を病棟目標の一つに挙げ、新人看護師とリーダー育成にペアナーシング制度を取り入れ、安心・安全な看護を提供しています。ストレスチェック調査にてストレス度も低く、一人も退職することなく頑張っています。そして、BSC では、看護部門で表彰されました。パチパチ。



■ 院内における研究・発表

急性期病院での経皮的後弯矯正術（BKP）施行患者に対する看護師の継続的な運動加入効果

○美濃智子 安尾由佳 西村留美

西6階病棟

■ スタッフ紹介

科 長 秦 真規子
主 任 竹 村 美 鈴、生 田 佑 子
副 主 任 小 田 浩 子
他 看護師 34名 看護助手 3名

■ 病棟の概要

【診療科】消化器外科

【病床数】55床

(個室7室…うち重症個室1室、4人部屋12室)

急性期消化器外科周術期から終末期まで幅広い看護を提供しています。2019年度の平均病床稼働率は83.0%、平均在院日数は15.1日となっています。また在宅復帰率は89.1%となっています。

■ 看護

看護体制は固定チームナースングをとっており周術期医療・看護を行うチームとがん患者に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームの2つで編成しています。

「外科看護に特化した病棟」であるため、周術期医療・看護を行うチームは、専門性を強化し、クリニカルパスを多数導入し、術後の合併症予防と皮膚・排泄ケア認定看護師と協働しながらストーマセルフケア指導に力を入れています。また、術後リハビリの介入や地域連携室との連携により早期より退院支援をおこなっています。そしてがん看護に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームは、薬剤導入時や食事摂取困難な患者に対して薬剤師や管理栄養士と協働して患者さんのサポートに力を入れています。

2019年度の看護目標は、

1. 患者に寄り添い充実した看護を提供する
2. 各委員リンクナースが主体的に病棟内で活動する
3. 物品管理の意識を高める

と設定し日々の看護に励んでいます。安全で質の高い看護を目指しチームリーダーを中心に、チームカンファレンスを実施し、情報共有しながら看護・医療の提供をおこなっています。

■ 教育

毎月1回を目標に、病棟内で勉強会を実施しています。

2019年度は院外研修参加も推奨し、広島県看護協会などで開催された勉強会に自主的に参加し、伝達講習を行うことで情報を共有しました。

新人看護師教育に対しては、プリセプターが中心となり勉強会の開催や立案した計画に沿ってチェックリストを使用して基礎看護技術に対するOJTを行いました。

また、各委員会リンクナースが病棟内で勉強会やシミュレーションを通じてスタッフに教育するなど、積極的に教育活動が行えました。



■ 院内における研究・発表

せん妄スクリーニングツール DST 導入による看護師の意識変化

～せん妄スクリーニングツール DST 導入後の課題～

研究者：○有本まい 瀬戸奈保美



院内バレーボール大会

西 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ
 主 任 松 浦 美由紀、平 野 有 紀
 副 主 任 立 石 久 子
 他 看護師 31名 看護助手 3名

■ 概要

当病棟の病床数は 55 床、個室 7 室（うち特別室 1 室、重症個室 1 室）、4 人部屋 12 室を有する消化器内科病棟です。内視鏡検査・治療、肝疾患治療を受ける患者さんが多く、クリニカルパスに沿って治療・看護を提供しています。

2019 年度、平均在院日数は、10.3 日です。

■ 看護

消化器疾患に関連した内視鏡検査・治療の他、肝疾患治療や化学療法など専門的な知識を基に看護を提供しています。緊急入院も多く、限られた時間の中で患者さんとご家族に安心していただけるような対応を心がけています。

病棟看護師が「膵がん・胆道がん教室」の運営に関わっています。膵がん患者さんと共に病棟看護師が「膵がん・胆道がん教室」に参加し、想いを聞き、他職種とともに協同しながら看護を行っています。コアメンバーは「膵がん・胆道がん教室」に参加されない患者さんの想いを明らかにするため、看護研究に取り組みました。来年度は「膵がん・胆道がん教室」の導入方法について新たな取り組みを実践していきます。

■ 教育

ラダーⅠを 4 名、ラダーⅡを 1 名取得しました。来年度はラダーⅡ取得者を 3 名目指し計画的に行っています。新人看護師に対してはプリセプターが中心となり、基礎看護技術及び専門的治療について知識・技術を習得できるよう各チームで協力しながら指導しました。

内視鏡検査・治療に関する勉強会を医師に実施してもらい、専門的知識を基に、根拠を持った看護実

践を行いました。また、内視鏡検査・治療の看護手順を修正し、統一した看護が行えるように取り組みました。

臨地実習受け入れ病棟として、3 校の基礎・成人・統合実習について指導し、看護学生の育成に努めています。

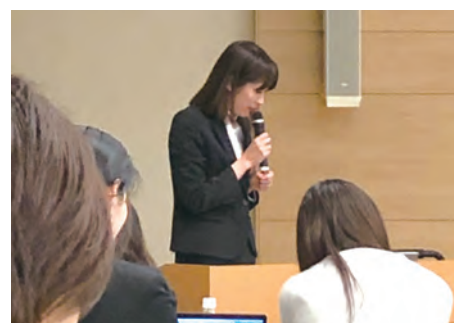
■ 院内における研究・発表

膵がん教室ワークショップ 2019

膵がん・胆道がん教室不参加者の実態調査
 ～アンケート結果を通してみえてきたこと～
 研究者：○吉松美咲 村上優子 立石久子



《ポスター展》



《研究発表風景》

西 8 階病棟

■スタッフ

科 長 宮 本 英 美
 主 任 高 原 さおり、岡 本 信 子
 副 主 任 土 井 紘 子
 他 看護師 38 名 看護補助者 3 名

■病棟の概要

当病棟は病床数 60 床の、呼吸器内科・放射線治療科・総合診療科・緩和ケア科を主とした混合病棟です。急性期から終末期まで幅広い看護を提供しています。

2019 年度の平均在院日数は 17.9 日、病床稼働率は 71.6% でした。

■看護

2019 年度部署目標を『スタッフ教育を充実させ、安全な看護を提供する。』『退院支援を促進させ、早期に地域に繋げる。』『各自がタイムマネジメントをしながら、限られた時間の中で業務を行える。』と掲げました。病棟活動チーム（勉強会チーム、シミュレーションチーム、呼吸ケアチーム、緩和チーム、業務改善チーム、SPD 管理チーム）や各委員会委員が中心となり、目標達成に向けて取り組みました。

看護体制は 2 チームで固定チームナースングを行っています。また、患者に安全・安心な看護を提供するためパートナーシップナースングシステムを導入しました。

呼吸器疾患患者さんについて週 1 回呼吸器カンファレンスを行い、多職種と連携・情報共有し、統一したケアを提供できるよう努めています。

癌患者さんに対しては、緩和ケア認定看護師や相談員に相談しながら退院支援や、患者さんの精神的ケア、家族ケアを行っています。



■教育

新人看護師教育は、プリセプターを中心に立案した年間および毎月の目標・計画を提示し、スタッフ間で情報共有しながら病棟全体で教育・支援をしています。

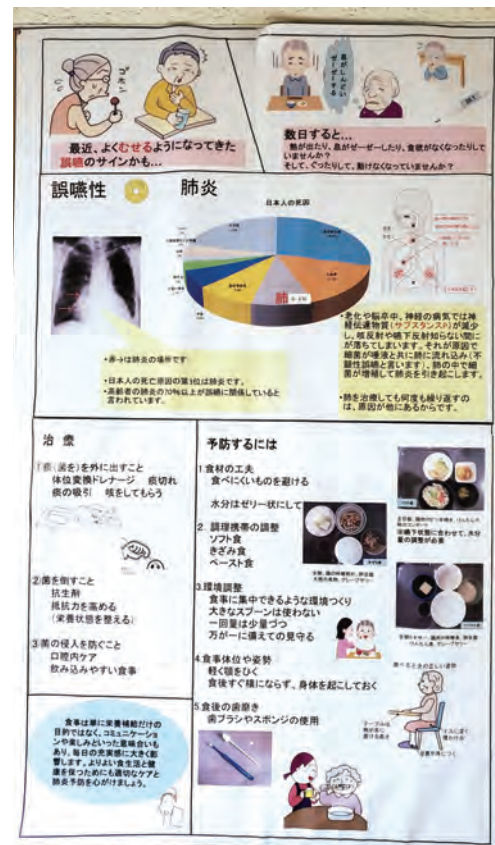
病棟全体では、在宅酸素について、経皮 CO2 モニターについて、看護必要度、麻薬管理についての勉強会を実施しました。他にも、患者急変時のシミュレーションや、認知症ケア認定看護師によるユマニチュードの勉強会を実施しました。

また当病棟は、日本赤十字広島看護大学の実習を受け入れ、学生への指導・育成にも努めています。

■院内における研究・発表

認知症・せん妄を有する患者のケアに対する困難感や抑制を行うことへの看護師のジレンマ～アンケート調査を行って～

若松優子 下前敦子 高橋早絵 高原さおり



東 3 階病棟

■ スタッフ

科 長 川 村 洋 子
 主 任 門 内 美 鈴、森 田 敬 子
 副 主 任 本 賀 邦 子、小 野 直 子
 他 看護師 32 名 看護補助者 4 名

■ 概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。循環器内科では心筋梗塞・狭心症のカテーテル検査や治療、不整脈や心不全の患者さん、心臓血管外科は、心臓弁膜症・虚血性心疾患の外科的治療が必要な患者さんが入院されます。

■ 看護

看護体制は固定チームナースィング（2 チーム）を取り入れ、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に努めています。

【在宅への退院支援】近年は高齢の慢性心不全患者が増加し、住み慣れた地域へ戻るために、入院早期からの退院支援に取り組んでいます。今回、緩和医療を受けている心不全の高齢患者の自宅退院支援に取り組みました。自宅退院に向けて、院内外の医療、福祉の各職種と連携を取り、自宅の環境調整、緩和医療を継続するための在宅医療連携、主たる介護者の家族への看護指導、継続看護のための訪問看護との協働に取り組めました。自宅退院後には、病棟看護師が退院後訪問として訪問看護に同行しまし

た。退院後訪問は病棟で退院支援した看護を振り返る機会となり、退院支援のあり方について学ぶ機会となりました。

【心不全緩和】当病棟では、2015 年に心不全緩和チームを発足し 2018 年より ACP を推進しています。2019 年度には、患者さんが自分の医療に対する希望を前もって考える手段として「あなたと医療をつなぐノート」を作成し、運用を開始しました。主治医と相談し導入を検討、患者さんやご家族同席のもと、看護師からノートの趣旨を説明し、活用してもらいました。患者・家族からは、「これからの人生どう生きたいか、どのような医療を受けたいかを家族含めて考える機会となった」「親がどうしたいと思っているかを知る機会となった」などの声が多く聞かれました。



■ 教育

教育担当主任を中心に立案した計画をもとにスタッフ全員で各研修会に取り組んでいます。講師には、医師や認定看護師など他職種にお願いし、専門的な知識習得に努めています。2019 年度は 15 回の研修会を開催しました。

RST 急変対応委員が企画した急変対応のシミュレーションは 3 回開催しました。致死的不整脈発生時の対応を中心に、急変時の体外式ペースメーカーや AED の取り扱いなど実践力を高める内容で企画・開催されました。シミュレーションの成果として、「看護師が急変対応に自信がついた」「急変時の初動までの時間が短縮された」などの評価がありました。

東 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵
主 任 辻 由 利 恵、手 嶋 未 貴
副 主 任 山 崎 美 佳
他 看護師 33 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 4 階病棟は病床数 43 床の小児科・耳鼻咽喉科・眼科を主とし、いろいろな診療科の受け入れも行っている混合病棟です。

2019 年度は 1 日あたり入院患者数は平均 30.0 名（前年度比 + 0.1 名）、病床稼働率は平均 70.7%（+ 0.4%）、平均在院日数は 8.0 日（+ 1.4 日）でした。

■ 看護

新生児から 100 歳以上の方まで幅広く看護を提供している病棟です。急性期病棟ということもあり日々進化する医療・看護を提供できるよう研修会・勉強会などで専門性が活かせるよう取り組んでいます。また、



医師、コメディカルと共に週 2 回カンファレンスを行い、患者さんの退院に向けた援助を行っています。

眼科では、週 3 回白内障・緑内障手術を行っています。術後複数ある点眼薬の指導をパンフレットを用いて患者さん・ご家族が理解できるように工夫しています。

耳鼻咽喉科では、週 2 回、主に扁桃摘出手術・内視鏡下副鼻腔手術・声帯手術・甲状腺手術などがあり、術前から術後まで患者さんに合った個別的な看護を行っています。また、喉頭がんなどのがん治療のため、抗癌剤や放射線治療なども行い、日々の全身状態の観察・家族看護も含めたケアを行っています。

小児科では、外来と病棟の看護一元化をおこない外来から入院、そして退院後は外来へと継続した看護を提供しています。小児看護では、小児救急の知

識や技術を踏まえた急性期看護が重要となります。そのため、小児の急性期看護の充実を目標に日々看護に取り組み、研修会を企画し研鑽に努めています。

前立腺生検、鼠径ヘルニア、大腸内視鏡検査・治療等いろいろな診療科の患者さんを定期的に受け入れています。また、

他病棟からの異動スタッフにより専門性のある勉強会を開催し、質の高い看護が提供できるよう努めています。さらに、安全で安心して患者さんが入院生活を送れると共に、看護師も安全で安心した満足度の高い看護が提供できるようにパートナーシップ・ナーシングシステム（PNS）も検討中です。



■ 教育

看護の充実を図り、急性期における看護が提供できるよう技術研修・勉強会を行っています。

2019 年度 取り組み内容

- ・転倒転落防止対策の見直し
- ・前立腺生検の検査前後の看護
- ・鼠径ヘルニア手術前後の看護
- ・小児看護・外来看護・小児看護技術
- ・放射線治療・化学療法の看護

看護学生の実習も受け入れており、4 校の学生指導にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

2019 年度院内研究発表会（書面発表）

「転倒・転落の危険度の高い患者へのカンファレンス実施の有用性の検証～カンファレンス実施前後の看護師の転倒・転落に対する意識変容～」

○湊愛・石津智香・田形未菜美・師井香奈

東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子
 主 任 岡 本 真 里、加 藤 智 恵
 副 主 任 川 岡 めぐみ、小 西 香 里
 中 村 香 織

■ 病棟の概要

東 5 階病棟は脳神経外科・歯科口腔外科の混合病棟です。平均病床稼働率 78.5%、1 日辺りの平均患者数は 40.8 人でした。

2019 年度の入院患者の診療科は脳外科 62%、救急診療科 11%、口腔外科 10%、消化器内科 7%、泌尿器科 5%、その他の内訳は、外科・整形外科・呼吸器内科・皮膚科・腎臓内科・皮膚科・腎臓内科・呼吸器外科・皮膚科・腎臓内科・呼吸器外科・形成外科・耳鼻科・総合診療科・心臓血管外科・糖尿病代謝内科でした。どの診療科でも受け入れる体制で、空き病床があれば緊急入院を受けています。

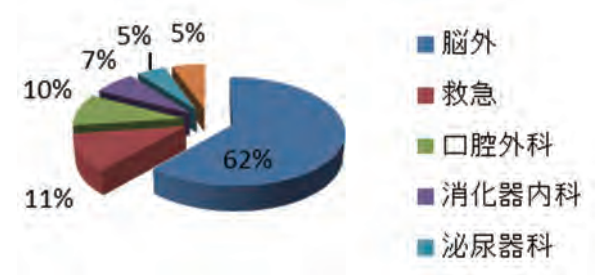


図 1 入院患者診療科の概要

■ 看護

3 つの病棟目標を掲げました。

病棟目標

1. 患者・家族が安心・安全な入院生活が送れるような療養環境を整える。
2. 業務改善により働きやすい職場環境を整える。
3. 一人一人の経済意識を高める。

日常生活援助の中に遊びリテーションを行い、患者さんのリハビリ意欲の向上につなげていきました。週 2 回の器械浴により、患者さんが週 1 回は入浴できるように援助しました。

業務改善し働きやすい職場環境を整える為、時間外削減に向けた取り組みとして申し送りを廃止しました。2 月単月の時間外平均を前年度と比較すると、23.74 時間から 17.19 時間と、5.15 時間短縮するこ

とが出来ました。

東 5 階病棟の看護必要度は 51.0% と高く、特に脳神経外科の患者さんは、診療上の指示に従えない方が多く、抑制の使用率も高い現状です。しかし、倫理上の問題や、活動が阻害されるなどの事を考え、患者の尊厳を守りながら安全確保に努めています。抑制に対する評価をタイムリーに行い、抑制解除の検討をし、早期に解除できるよう取り組みました。



■ 教育

2019 年度はリーダー育成に力を入れ、11 名の日勤リーダー看護師を育成することが出来ました。

新人看護師は 4 名配属となりました。スタッフ全員で育成に取り組みました。1 年目研修での、オータムディキャンプでは、各病棟でテーマを持ちカレー作りをしました。今年度は、東 5 階が 1 位を獲得しました。



■ 院内における研究・発表

「キャリア中期看護師の病棟チーム活動の取り組みに対する思い」

岡本真理・加藤智恵・丸澤葉志子

東 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 野 田 明 美
 主 任 石 田 恵 美、山 本 は ず き
 副 主 任 萩 原 久 美 子、大 峯 珠 己
 林 葉 子
 他 看護師 26 名 看護助手 2 名

■ 概要

東 6 階病棟は、病床数 51 床であり、泌尿器科、皮膚科、他科診療科の受け入れを行っている混合病棟です。急性期から終末期の患者まで、幅広く看護を行っています。泌尿器・皮膚科手術や検査、透析患者の看護や腎臓病教育入院などの患者指導にも力を入れています。

看護体制は、固定チームナースング制をとっており、2 チーム 2 交代制で行っています。



■ 看護

- 1、3 チーム（泌尿器科チーム・腎臓内科チーム・スキンケア／認知チーム）に分かれて年間目標を立てて取り組みました。各チームで、勉強会やマニュアルの修正を行い看護師が共通認識にて看護の提供が行えるように努めました。
- 2、毎朝の看護師間のカンファレンスおよび他職種と 1 回／週のカンファレンスを行い、意見を出し合いチーム全体で患者さんへの介入を実施しています。
- 3、患者指導では、パンフレットを使用し一緒に考え入院中および退院後の生活に向けて指導を行っています。



■ 教育

新人看護教育は、プリセプターを中心に立案した教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿ってスタッフ一同でチーム制指導を実施しています。

看護学生の実習も受け入れており、日本赤十字広島看護大学の学生の指導にも力を入れています。

■ 院内外における研究・発表

〈院外〉

2019 年度 第 10 回日本腎臓リハビリテーション学会
 「保存期 CKD 患者に対する腎教育入院は腎機能維持に役立つのか」研究者：高見 賢二

〈ポスター展〉

腎臓の働きが悪くなるとどうなるの？



東 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 岡 崎 祐 也
 主 任 辻 幸 枝、加賀美 昌 美
 阿 部 伸 也
 副 主 任 大 浦 真 美
 他 看護師 28 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 7 階病棟は病床数 52 床、個室 12 室（うち重症個室 4 室）、4 人部屋 10 室の呼吸器外科と心臓血管外科、糖尿病代謝内科の外科・内科の混合病棟です。呼吸器外科では肺癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、心臓血管外科は下肢閉塞性動脈硬化症、腹部動脈瘤、下肢静脈瘤、糖尿病代謝内科では、糖尿病教育入院、血糖コントロールの治療を行っており、検査入院から外科的治療、終末期治療に加えて、教育入院の受け入れを行っています。

2019 年度の平均病床稼働率は 81.8%、平均在院日数は 18.5 日、看護必要度は 37.5%です。

■ 看護

看護方式は固定チームナーシングと受け持ち制を併用しています。チーム医療推進のため、2019 年度から糖尿病代謝内科のカンファレンスをナースステーションで水曜日に実施することとなり、週に 3 回（火：心臓血管外科、水：糖尿病代謝内科、金：呼吸器外科）多職種が集まって、カンファレンスを実施しています。



カンファレンスでは、多職種がそれぞれもっている情報を提示し、患者情報を共有、患者個別の問題についてチームで検討します。糖尿病代謝内科は、退院前に教育入院の評価を患者さんも含めて、多職種で実施しています。

東 7 階では、入退院を繰り返す患者さんが多く、疾患を抱えながら在宅または地域へと戻っていきます。看護は患者さんが安心して在宅で生活ができるよう、疾患の知識を活用し、多職種と協働しながら、在宅支援をすすめています。



■ 教育

今年度は、専門分野だけでなく幅広い知識の習得に向けて、院内院外の研修に参加し、チーム内での伝達講習を行っています。また看護の知識だけでなく、カンファレンス内で多職種へ勉強会をお願いし知識の向上に努めています。

【勉強会の内容】

- ・病棟勉強会 9 回、チーム内勉強会 10 回
- 各看護科委員会スタッフ勉強会 5 件
（リンクナースとなり病棟勉強会を実施）

■ 研究・発表

第 1 回下肢救済フットケア学会 中四国地方会
 救肢を目的としたチーム医療における看護師の役割
 と今後の課題

研究者：岡崎 祐也 川室 絵麻理 小林 平

手術室

■スタッフ

科長 山村 健二
 主任 平本 廉 昂、中村 多恵子
 高野 正義
 副主任 田中 猛
 看護師 46名
 臨床工学技士 2名
 委託業者（清掃、滅菌、中材業務）

■病棟の概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、2019年度の年間手術件数は5,505件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識、技術の習得に励んでいます。

近年の医療環境の変化に伴い、手術室看護師に求められるスキルも多様化、高度化してきています。その中で教育を推進していくと共に働き続けられる環境づくりが課題となっています。その中で24時間緊急手術に対応出来るよう待機・オンコール制より夜勤2交代制へ勤務形態を変更しました。



■看護

今年度の部署目標

- 1) 患者さんが安心・安全な手術を受けられる周術期看護を実践しよう
 - ・インシデントの予防と再発防止に努め、患者さんに安心、安全な看護を提供します
- 2) 早期人材育成と働きやすくゆとりのある職場環境づくりをしよう
 - ・風通しの良い開かれた手術室を目指し、限られた資源である「人」を大切にしていきます

手術管理システムの修正・整理や、器械管理・器材物品管理、医療機器の管理・看護行為を臨床工学技士と連携・協働し実施することで、より安全・安心な手術環境の提供に努めています。

■教育

新人・病棟からの異動者に対しては“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組んでいます。教育資料に関しても毎年スタッフが分担して作成しています。また、手術につくまでの1ヶ月間をオリエンテーション期間とし、座学による学習や実施トレーニングを行い安心して手術室業務や看護を実践出来るよう取り組んでいます。

また、夜勤2交代制の導入に伴い、手術が行われていない時間は手術関連病棟への療養支援を実践しています。療養支援を通し、術中看護だけでなく術後も患者さんと関わることが出来る体制が確立した事は、外科系看護師のキャリアデザインの構築にも繋がってきています。今後は術前訪問のみではなく、術後訪問を通し自己の看護の振り返りを行っていくとともに、周術期という一連の流れで手術室看護師が患者さん、ご家族と関わり看護実践できる体制構築を目指していきます。

看護学生の実習は安田女子大学、日赤看護大学、山陽看護専門学校の3校を受け入れ、学生指導にも力をいれています。

手術室のユニフォームも変更となりました。紺色のユニフォームが手術室スタッフとなります。



■研究発表

学会発表へ向け、1件取り組み中です。

居宅介護支援事業所

■ スタッフ

管理者 古本直子
 (緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)
 奥元直美
 (介護支援専門員)

■ 概要

ケアマネジャーの主な仕事は「ケアプランの作成」が挙げられます。要介護者の身体状況や精神状態は、ケアプランを実行していく過程で刻一刻と変化します。介護度の悪化や環境の変化により、できること・できないことが変わり、ケアプランの変更を行います。ケアマネジャーは介護サービスが必要な人と介護サービス事業所を繋ぐ調整役を担っています。

■ 業務内容

- ① ケース相談
- ② 要支援・要介護認定（新規・更新・変更）更新の代行
- ③ 居宅サービス計画（ケアプラン）作成
- ④ サービス調整（関連機関・サービス事業者と連絡調整）
- ⑤ サービス担当者会議の開催（新規・更新・変更時）
- ⑥ モニタリング訪問（月1回以上）
- ⑦ 給付管理（毎月10日までに）
- ⑧ 相談業務
- ⑨ その他

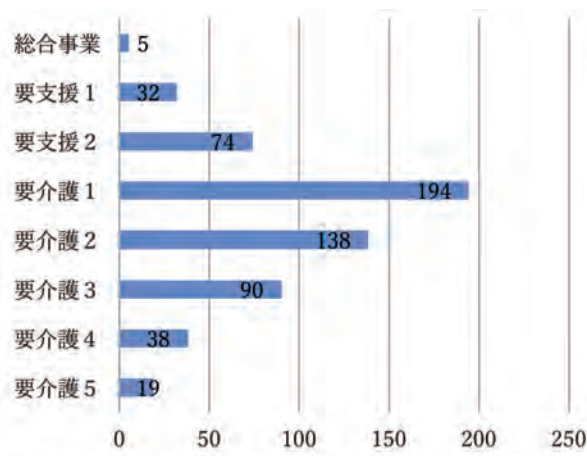
■ 実績

- ・年間実利用者数 49名 + 9名
- ・新規利用者数 29名 終了者数 37名

※主な支援内容（件）

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	650	54.1
サービス担当者会議	98	8.16
モニタリング	504	42
包括との連絡	9	0.75
代行申請	32	2.66
他機関との連絡調整	312	26
医療機関との連携	44	3.66

※要介護度別利用者数（のべ人数）



■ 教育

広島県集団研修、廿日市市地域包括支援センター、広島県介護支援専門協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、院内外の研修に参加し、自己研鑽に努めています。

訪問看護ステーション

■ スタッフ

科 長 久 保 洋 子

他 スタッフ 7名

■ 概要

急性期病院に併設する当ステーションは、医療度の高い利用者、がん末期の看取りなどの利用者が占めており、看護の提供をおこなっています。他職種と連携・協働し、利用者の在宅での療養生活を支援させていただいています。

訪問看護ってなにをするの？

住み慣れた家で安心して過ごせるよう、看護師がご自宅に訪問し症状の観察や医療処置などのお手伝いをします。

異常があった場合は速やかに医師へ報告し、不安なく過ごせるようお助けいたします。



	利用者数	新規利用者数	訪問件数	在宅看取り
2019年	65人	31人	1,703件	12件
2018年	69人	40人	1,380件	6件

■ 看護

24時間 365日、利用者へのサービス提供を実施していきたいと思っています。そのため待機制をとり、電話対応、緊急訪問を行う体制としています。

住み慣れた地域で療養生活を送られる利用者の方々が安心して地域で生活できる支援を行っています。

営業時間について

月～金曜日 ※土日、祝日は休業
8:30～17:00



夜間・休日に調子が悪くなったら不安だな...

夜間や休日など24時間相談・訪問できる体制を整えています！



■ 教育

実習生の受け入れ

- 日本赤十字広島看護大学
- 安田女子大学 看護学部
- 広島大学保健看護学科
- 厚生連尾道看護専門学校

■ 院内における研究発表

2019年度ポスター展 出展

あなたらしく、
住みなれた家で過ごしませんか



訪問看護ってなにをするの？

住み慣れた家で安心して過ごせるよう、看護師がご自宅に訪問し症状の観察や医療処置などのお手伝いをします。

異常があった場合は速やかに医師へ報告し、不安なく過ごせるようお助けいたします。

- ・病状の観察
- ・人工肛門の管理や指導
- ・入浴介助などの清潔援助
- ・在宅療養の管理
- ・床ずれ予防・処置
- ・在宅での看取り援助
- ・・・など

気管切開や胃ろうがある方の処置や、自宅での点滴も行います

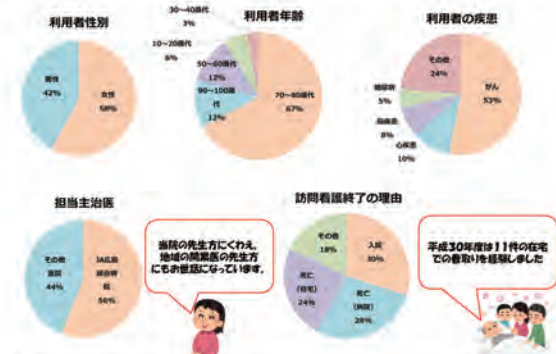
JA 太郎 さんの場合（※一例としての架空の事例です※）

JA太郎さんは外来通院で化学療法をしています。一ヶ月に一度受診していますが、化学療法の副作用で食欲が落ちたり、吐き気が出たりして、自宅での生活に不安がありました。

そこで、週一回訪問看護を利用することにしました。看護師による症状の観察と、必要な時に自宅での点滴を行い、自宅での療養を続けることができています。



平成30年度の当訪問看護ステーション利用状況



お問い合わせ

厚生連広島訪問看護ステーションまでお問い合わせください。対象エリアは廿日市市、西区、佐伯区等です。詳細はご相談ください。

東横2福泌尿器科前 医療福祉支援センター内
電話：0829-36-3111（代）、8:30～16:30



薬剤部

■ スタッフ

部長 橋本佳浩
 科長 中島恵子
 科長補佐 磯貝明彦
 主任 大原由希子、正嶋和美
 角井碧、松本里恵
 山崎貴司
 薬剤師 計37名（産休3名含む）
 事務 6名

[人員配置]

西4階、西5階、西6階、西7階、西8階、東3階、東4階、東5階、東6階、東7階、HCU、ICUに病棟薬剤師を配置

がん化学療法専任 3名 ICT専任 1名
 NST専任 2名 緩和ケア専任 1名
 DI専従 1名
 チーム医療（ICT、NST、医療安全管理、RST、PCT）
 糖尿病教室、膵がん教室、心臓病教室へ参画

[取得資格（認定、世話人等）]

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 1名
 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 3名
 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1名
 日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師 2名
 抗菌化学療法認定薬剤師 2名
 認定指導薬剤師 2名
 生涯研修履修認定薬剤師 18名
 日本薬剤師研修センター
 認定実務実習指導薬剤師 5名
 研修認定薬剤師 12名
 糖尿病療養指導士 6名 NST 専門療法士 2名
 公認スポーツファーマシスト 3名
 日本救急医学会 ILS インストラクター 2名
 危険物取扱者 1名
 NR・サプリメントアドバイザー 1名
 全国厚生連病院薬剤師長会議理事 1名
 広島県病院薬剤師会理事 1名
 広島県病院薬剤師会委員会（医薬品情報委員 2名、
 医療連携支援検討委員 2名、専門薬剤師委員（感染）
 1名、（がん・緩和）1名、薬剤業務・プレアボイド
 委員 1名

■ 業務内容

調剤業務：外来 494 枚／日（院外処方箋発行率 0%）
 入院 324 枚／日
 注射調剤 713 件／日、TDM（VCM・TEIC・ABK）
 10 症例／月
 TPN 調製 60 件／月 院内製剤 48 品目
 抗がん剤無菌調製：外来 17.5 件／日 入院 3.3 件／日
 がん指導管理料 3 算定（薬剤部のみ）262 件／年
 薬剤管理指導算定件数 418 件／月 治験 15 件／年
 持参薬鑑別 214 件／月 実務実習 9 名／年
 薬品管理、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、抗
 がん剤レジメン構築・管理



■ その他活動内容

プレアボイド：180 件／年（外来・入院合計）
 委員会事務局：（院内感染対策委員会、薬事委員会、
 治験委員会、がん化学療法運営委員会）
 薬剤部定期勉強会・症例検討会 1 回／月

◆全病棟に薬剤師を配置、医師・看護師等、他職種と協同し、患者の入院前から退院後までの医薬品適正使用・安全管理に貢献しています。外来患者の服薬指導も含め、多岐にわたる医薬品のゲートキーパーとして日々の業務を遂行しています。



臨床研究検査科

■スタッフ

主任部長 石田 和史 (兼務)
 部長 碓井 裕史 (兼務)
 精度管理部長 藤井 隆
 科長 水野 誠士
 科長補佐 三舛 正志、福岡 達仁
 主任 小松 浩基、長尾 専
 主任 山本 加代子、藤岡 朋子
 主任 池部 晃司、荒瀬 美幸
 副主任 嶋田 恵美
 医師 (兼務を含む) 3名
 臨床検査技師 (役職者を含む) 42名
 助手 2名

【資格取得】

認定管理検査技師 2名 認定輸血検査技師 1名
 認定臨床化学者 1名 認定血液検査技師 1名
 認定一般検査技師 1名 認定心電検査技師 5名
 細胞検査士 1名 感染制御認定臨床微生物検査技師 1名
 日本糖尿病療養指導士 1名 DMAT 隊員 1名
 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名
 医療情報技師 3名 医療環境管理士 1名
 超音波検査士 8名 (消化器 2、体表臓器 1、循環器
 3、泌尿器 2) 血管診療技師 4名
 認定認知症領域検査技師 1名 危険物取扱者 1名
 POC コーディネーター 1名 聴力測定技術者 1名
 認定心電図専門士 1名 救急臨床検査士 3名
 二級臨床検査士 15名 (血液 4、循環器 4、脳神経 1、
 呼吸生理 1、病理 2、微生物 1、免疫血清 1 臨床化学 1)
 消化器内視鏡技師 1名 第1種衛生管理者 1名
 衛生工学衛生管理者 1名 一般毒物劇物取扱者 5名

【所属学会】

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会
 日本臨床化学会 日本臨床細胞学会 日本超音波医学会
 日本検査血液学会 日本輸血・細胞療法学会
 日本消化器内視鏡学会 日本超音波検査学会
 日本感染症学会 日本臨床微生物学会
 日本化学療法学会 日本環境感染学会
 日本結核病学会 日本心エコー図学会
 日本不整脈心電学会 日本睡眠学会
 日本乳腺甲状腺超音波医学会 日本診療情報学会
 日本臨床検査自動化学会 生物試料分析学会

【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 認証精度保証施設
 同 標準化事業 基準基幹施設

【部門紹介】

当検査室は迅速で、安全かつ精度の高い検査を保証するため日々の業務に取り組んでいます。また診療支援として採血室・手術室・各外来エコーや耳鼻科聴力検査等院内のさまざまな分野で活動しています。

【部門内研修会】

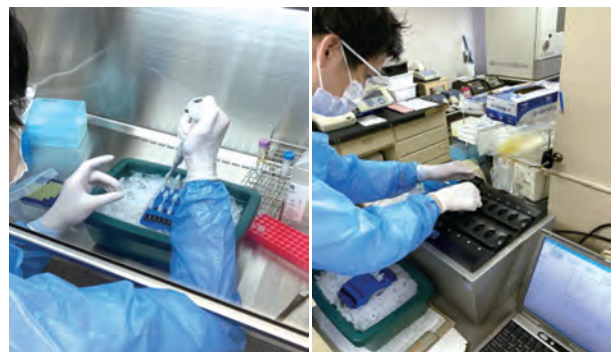
- *免疫基礎
- *心電図判読～不整脈編～
- *肺吸虫について
- *院内で行われる負荷試験について
- *肺がん診療と検査について～腫瘍マーカーを中心に～
- *心筋シンチグラフィ
- *内部監査員養成セミナー
- *レジオネラ感染症～尿中レジオネラ抗原キットについて～
- *血ガス
- *心臓血管外科手術室業務
- *尿沈渣フォトサーベイやってみた!
- *整形外科術中モニタリングの一症例
- *ALP・LD-IFCC 法への移行について
- *寄生虫検査について～当院の症例をもとに～

【外部精度管理調査報告】

- 1) 日本臨床衛生検査技師会 99.2点 (241/243)
- 2) 日本医師会 99.4点 (651/655)
- 3) 広島県医師会 100点 (116/116)

■トピックス

医療法等の改正に伴い、院内検査の精度確保に向け標準作業書および精度管理台帳等作成し、POCTやDM患者のSMBGの管理を開始しました。また、2020年3月COVID-19診断検査としてSARS-CoV-2 PCR検査を導入。発熱外来からの院内アウトブレイクを防ぐ安全管理目的で、いち早く検査を開始しました。



中央放射線科

■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (兼務)
 科長 山口 裕之
 科長補佐 本山 貴志
 主任 高畑 明、砂田 研二
 下土居 一、柳井 環

副主任 中河 聖司

副主任 池田 将敏

診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

【取得資格】

第1種放射線取扱主任者	4名
エックス線作業主任者	5名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	4名
核医学専門技師	1名
救急撮影認定技師	1名
X線 CT 認定技師	4名
医療情報技師	2名
肺がん CT 検診認定技師	2名
医用画像情報管理士	1名
臨床実習指導教員	2名
Ai 認定診療放射線技師	3名
放射線管理士	1名
放射線機器管理士	1名
ICLS プロバイダー	1名
ISLS プロバイダー	1名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1名

【所属学会】

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会
 日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会
 日本消化器集団検診学会 日本核医学技術学会
 日本超音波検査学会 日本 CT 技術学会
 日本磁気共鳴医学会 日本乳房画像研究会
 日本乳腺甲状腺超音波学会

【世話人等】

公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員
 公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長

公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事

NPO 日本乳癌検診学会評議員

日本核医学技術学会中国・四国地方会理事

広島臨床画像研修会幹事 (事務局)

ひろしま乳房画像研修会 (事務局)

■ 認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定

マンモグラフィ検診施設画像認定施設

■ 部内研修会 (1回/月)

ヨード造影剤副作用に対応する Anaphylaxis Program 造影剤基礎知識 (救急処置含む)

患者移乗動作の理論と実践

造影剤安全性セミナー

線量管理システム Radimetrics について

頭部 MRI 検査について

心臓カテーテル検査について

C型慢性肝疾患における EOB-MRI の果たす役割

エネルギーサブトラクション処理について

造影 CT の安全管理

急変対応シミュレーション

2020年3月は新型コロナウイルス感染症のため中止

■ 業務内容 (トピックス)

第5X線撮影室の機器更新に伴い2019年11月にGE社製「Senographe Pristina」が導入されました。



臨床工学科

■ スタッフ

主任部長 吉田 研一

科長 瀬尾 憲由

主任 荒田 晋二

主任 平野 恵子

臨床工学技士（CE）15名（科長・主任含む）

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士 3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士 6名
- ・透析技術認定士 2名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士 1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士 1名
- ・消化器内視鏡技師 3名

【所属学会】

- ・日本臨床工学会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在15名でさまざまな業務と各専門性に対応するためにチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■ 業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：43例

『整形外科立ち合い業務』

立ち合い症例数

頸椎・脊椎固定：94例 上肢・下肢：180例

下肢関節置換：141例

『EVT立ち合い業務』

EVT症例数：310例

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：139例、血液透析27例

- ・補助循環装置（VA-ECMO、W-ECMO）、IABP各症例数

VA-ECMO、W-ECMO：9例 IABP：22例

『循環器業務』

- ・CAG、PCI、PMI、ABL各症例数

CAG：208例 PCI：231例 PMI：66件

ICD：9例 ABL：77例

『血液浄化療法』

慢性透析症例数：4940回

白血球除去療法（LCAP：GCAP）症例数：91回

『高気圧酸素療法業務』

症例数：375例

主な疾患：突発性難聴、網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

ESD、ERCP、EMR各症例数

ESD：137例 EMR：547例 ERCP：350例

『慢性期・在宅医療支援業務』

人工呼吸器やNPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問：6回

■ トピックス

今年度は3名の新人スタッフが仲間に加わり、15名となりました。3名の新人は半年間3つのチームでローテーションを行い、その後各チームにそれぞれ所属してもらっています。まずは、チーム内での業務を習得してもらうよう、日々業務に励んでもらっています。また、臨床工学技士の業務はチーム内の業務だけではなく、医師をはじめ様々なメディカルスタッフと連携して行う業務もたくさんあるので、しっかりと身に付けてもらいたいと思います。

リハビリテーション科

■ スタッフ

センター長 黒木 一彦 (兼務)
 部長 小林 平 (兼務)
 部長 山田 清貴 (兼務)
 科長 村上 嘉章
 主任 小林 恭子、本間 智明
 折手 祐一、飛鷹 恵理
 上田 雅美
 副主任 井場 和敏
 理学療法士 13名 (役職者含む)
 作業療法士 5名 (役職者含む)
 言語聴覚士 4名 (役職者含む)

【認定資格取得】

3学会合同呼吸療法認定士	10名
心臓リハビリテーション指導士	3名
住環境福祉コーディネーター2級	3名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	2名
がんリハビリテーション研修修了者	15名
認知症ケア専門士	1名
リンパ浮腫複合的治療技術者	2名
弾性ストッキングコンダクター	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
腎臓リハビリテーション指導士	1名
認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域)	2名
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士	1名
認定理学療法士 (循環)	1名

■ 部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からリハビリテーション依頼を受けています。入院早期や手術直後の超急性期から Best supportive care (BSC) 終末期医療まで、多種多様な疾患に携わっています。

障害や疾患を持つ方々の残存機能を最大限に高めながら、その人らしい生活を実現するために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かしてリハビリ介入しています。また、活動拠点は科内に止まらず、院内の多職種と連携しながら介入しています。

【所有管理機器】

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター、心リハ専用モニター (RH-1000)

【認定施設基準】

運動器リハビリテーション料 (1)
 呼吸器リハビリテーション料 (1)
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)
 心大血管疾患リハビリテーション料 (1)
 がん患者リハビリテーション料
 リンパ浮腫複合的治療料

当科は小児科から入院・外来リハビリテーションの依頼を受けています。当院産婦人科で出生した先天性疾患児、1歳6ヶ月や3歳6ヶ月など行政健診からの紹介児、保育園や小学校からの紹介児に対して、発達検査等の発達スクリーニングや発達支援を行っています。成功体験を繰り返すことで自信をつけながら、ご家族に対しては家庭での過ごし方を提案させていただきます。また、保育園や小学校に対しては、関わり方などの指導を行っています。



今年度より心不全患者のリハビリに作業療法士も介入しています。75歳以上の対象患者さんに認知機能評価を行い、低下がある場合には程度に合わせた内容の認知機能トレーニングを実施しています。対象患者さんの認知機能を把握すること、認知機能低下に関して必要な訓練や援助を提供していくこと、



介入により患者教育の効果を高めることを目的としています。

栄養科

■スタッフ

主任部長 香山茂平 (兼務)
 科長 河本良美
 主任 三浦満美子
 主任 上村真由美
 他 9名
 委託 (調理部門) ㈱日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時 3名
 病棟担当 各 1名
 NST専従 1名 (上村 真由美)

[取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 5名
 日本糖尿病療養指導士 4名
 NST専門療法士 3名
 がん病態栄養専門管理栄養士 1名

[所属学会]

日本病態栄養学会 8名
 日本静脈経腸栄養学会 4名
 日本糖尿病学会 1名
 心臓リハビリテーション学会 1名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

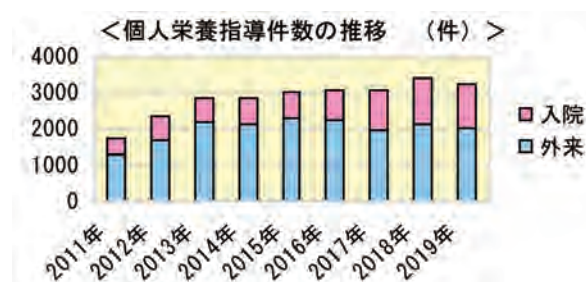
〈2019年度実績〉

・個別指導

外来	1,995件	入院	1,225件
糖尿病	1,204件	心血管疾患	421件
心血管疾患	204件	糖尿病	254件
その他	587件	その他	550件

・集団指導 97件

糖尿病昼食会 1回/週 (毎週 火曜日)
 腎臓病調理実習 1回/月 (毎月第3木曜日)



[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2019年度実績 (月平均)〉

一般食 12,464食/月 特別食 20,210食/月

■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食、全国統一献立
 集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室、心臓病教室
 参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、認知症、RST
 その他：あいプラザまつり (糖尿病グループ)、腎臓病市民公開講座、心臓いきいきキャラバン

■トピックス

当院では30年以上前より多職種による『糖尿病教室』を行っています。その中で



栄養士は「昼食会」として、講義だけでなく、適した量のご飯を自分で計量し、実際に当院で提供している糖尿病食を食べていただいています。患者さんからは「ご飯をこんなに食べてもいいと思わなかった」や「病院の食事も味がしっかりついていて、これなら自宅でも実践できそう」という声もあり、病院で提供している食事を食べて頂くことで食事のイメージがつき食事療法の実践につながっています。

今後も医師の指示の下、チームの一員として患者さん



一人一人に寄り添い美味しく楽しく食事療法を実践していただけるよう指導していきたいと思えます。

診療情報管理科

■ スタッフ

科 長 中 村 明 彦
他 10 名

【資格取得】(科長を含む)

- 診療情報管理士 7 名
- 院内がん登録実務中級認定者 2 名
- 院内がん登録実務初級認定者 3 名
- 医療情報技師 2 名
- DPC コース認定 1 名
- 腫瘍学分類コース認定 1 名

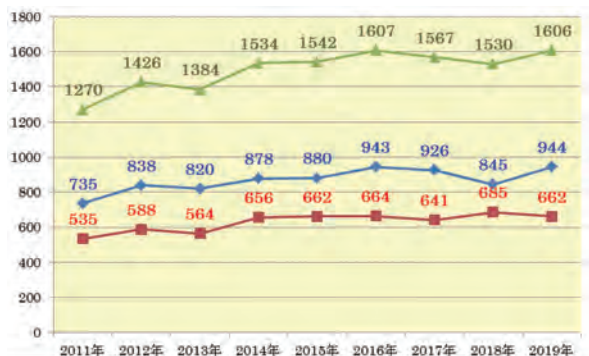
【所属学会】

- 日本診療情報管理士会
- 日本診療情報管理学会
- 日本医療情報学会

■ 活動報告

〈がん登録業務〉

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「全国がん登録は県へ」データ提出を行っています。



また、院外ホームページに登録データを元に当院のがん治療実績や広島県がん診療連携拠点病院で行っている「院内がん登録集計表」の掲載を行っています。

〈Medoc スキャン業務〉

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、一両日中(不備分を除く)にスキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書等は6ヶ月保管し、その後破棄処分しています。(タイムスタンプが付与され、電子データの原本性が担保されるため)

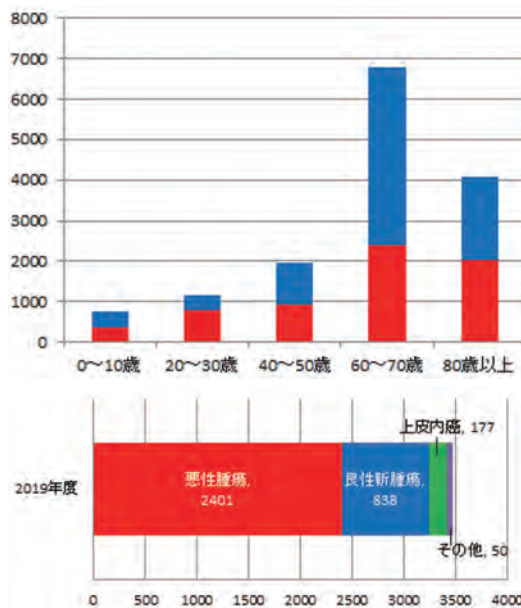
また、同意書等の記載不備が減少するよう、可視化し、各部署へデータ還元を行っています。

〈サマリ業務〉

医師の退院時サマリを基に国際疾病分類によるコーディングを行っています。

2018年度(総件数: 14730件(転科を含む))

順位	病名(大分類)	件数
1	新生物(C00-D48)	3488
2	循環器系の疾患(I00-I99)	2146
3	消化器系の疾患(K00-K93)	1819
4	呼吸器系の疾患(J00-J99)	1282
5	損傷、中毒およびその他の外国の影響(S00-T98)	1252
6	筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	1039
7	腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99)	1021
8	妊娠、分娩および産じょく<構>(O00-O99)	524
9	眼および付属器の疾患(H00-H95)	478
10	その他の疾患	1723



〈その他業務〉

量的点検と監査、データ作成業務、各種督促業務 紙カルテの貸出業務 など

〈創立記念パーティーでの理事長賞 受賞〉



医療安全管理室

■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)
 次長 田中 信 弘 (兼務)
 科長 松下 理 恵 (2019年10月より専従)
 専従リスクマネージャー

■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内RM管理部会を中心とし、各組織・部門と連携し「安全な医療の提供」が推進されるよう取り組んでいます。

■ 活動内容

[院内RM管理部会]

*毎週月曜日 16:10～17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、防止方法に関する提言を行います。事案によって部署対応・部門対応、病院対応とすべきかなど検討及び提案を行います。また、担当部署における職員の意識向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

*メンバー紹介

徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)
 田中 信弘 (診療部長・医療安全管理室次長)
 村中 好美 (看護部副部長・専従RM2019年9月まで)
 松下 理恵 (医療安全管理室科長・専従RM2019年10月より)
 中光 篤志 (副院長)
 近藤 文博 (診療部長)
 村田 美智子 (看護科長)
 角井 碧 (薬剤師:薬剤部主任、医療安全研修終了)
 荒田 晋二 (臨床工学技師:臨床工学科主任)
 藤岡 朋子 (臨床検査技師)
 高畑 明 (診療放射線技師:放射線科主任)
 村上 嘉章 (理学療法士:リハビリテーション科科長)
 馬場 諭 (総務課)

[医療事故防止対策委員会]

*委員は上記の院内RM管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

*定例委員会は毎月第3木曜日 17:00 開始で、医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会に関連した事項の対応策の検討、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担っています。

*院内ROUNDにより現場の状況確認を行っています。ROUNDは6担当あり、その一つである患者誤認防止では、「診察室での誤認防止」をテーマに患者に名乗ってもらうことを啓蒙するためポスターを掲示しました。内科外来からの取り組みですが、次年度も継続し院内全体へ広めていきたいと考えています。また、情報関連担当は「電子カルテ端末適正利用調査」を実施しました。離席時の状況や使用者とログイン者の不一致の有無などを確認し適切に管理できていることを確認しました。



■ 認定施設基準

・医療安全対策加算1
 ・医療安全対策地域連携加算1:医療安全対策加算1の広島西医療センター、医療安全対策加算2のアマノリハビリテーション病院と連携を図り、加算1同士は相互評価、加算2の施設には赴いての評価を実施しました。連携施設は昨年同様であることで双方の改善点も確認することができています。

■ 2019年度トピックス

インシデント報告書は日々提出されており、内容分析を行い再発防止への取り組みを行っているところですが、毎日新たな問題に直面しています。本年度流行語となった「ONE TEAM」、これは医療においても重要であり、医療者は患者を含むONE TEAMで治療に取り組むことが求められます。本年、診療科間の連携不足により継続予定の薬剤が中止となった事案が発生しました。患者の安全を守るためにも医師間の確実な連携が必要であり、電子カルテの連絡ツールを使用するなどして「重要事項を他科医師へ確実に伝達する院内ルール」を明確にし、周知を図りました。

地域医療連携室

■ スタッフ

室長 藤本 七津美
 係長 寺岡 みゆき
 事務職 2名

【認定資格取得】

- ・社会福祉士
- ・精神保健福祉士
- ・認定医療メディエーター B
- ・医療経営士 3 級

【所属学会】

- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療メディエーター協会
- ・日本医療経営実践協会
- ・広島県医療ソーシャルワーカー協会

■ 部門紹介

当院は地域医療支援病院として、紹介患者さんに対する医療提供、医療機器等の共同利用などを通じて、かかりつけ医を支援、地域医療従事者に対する教育など広島県西医療圏を中心にした医療機関を支援する役割を担っています。

総合医療相談室が地域医療の後方支援をおこなっており、この地域医療連携室は、地域と連携する前方支援を病院の窓口として実施しています。この前方・後方支援で、地域の病院、診療所、住民、行政、介護連携施設などと連携させていただき、今後も地域医療における役割を果たしていきたいと思っております。

■ 業務内容

『医療連携』

(表 1) 紹介率・逆紹介率の比較

	紹介率	逆紹介率
2017 年度	88.1%	86.5%
2018 年度	90.3%	95.7%
2019 年度	92.7%	99.2%

『医療従事者—地域医療従事者研修会テーマ（一部）』

- 脳卒中とともに過ごす～急性期から生活期まで～
- 療養生活に潜むリスク（医療安全の観点より）
- 頓用病を抱える人を支えるためのアセスメントの

視点って！？

- 在宅緩和ケアについて
- 認知症ケア～優しさを伝えるケアのコツ～
- 意思決定支援～「もしバナゲーム」を考えよう
- Q & A「MRSA（耐性菌）・疥癬・ノロウイルス」
- 基本的なスキンケア



『地域医療支援病院諮問委員会』

日時：2019年7月3日（水曜日）

JA 広島総合病院 管理棟 3 階 大会議室
 地域医療支援病院として、近隣の医師会・自治体・町内会などの代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」の開催をいたしました。



『第 16 回市民公開講座』

テーマ：はっちゃんに聞いてみよう。大腸がんの話
 日時：2019年12月8日（日曜日）

動員数：317名

総合医療相談室

■スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)
 室 長 藤 本 七津美 (兼務)
 主 任 中 村 希 (看護師)
 桐 山 葉 子 (社会福祉士)
 他 看護師 8 名 社会福祉士 3 名

【認定資格取得】

- ・認定医療コーディネーター B
- ・認定がん専門相談員
- ・摂食嚥下障害看護認定看護師

【所属学会】

- ・日本医療社会福祉協会
- ・日本福祉士会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・摂食嚥下リハビリテーション学会

■部門紹介

総合医療相談室は、急性期病院に入院され、治療が終了した後、患者さんがその人らしく安心して地域で生活できるように、地域の関連病院・施設と連携し、個々の患者さんの状況に合わせた支援をしています。2018年度から、入院予定の患者さんに対して、入院前から関わりを行う入院患者センターと協力し、入院前から退院後までを継続して支援する体制も整備してきました。

患者さんの地域生活に、どのように繋げていけるかを考え、地域間完結型への取り組みを強化しています。

入院患者センターで実施したオリエンテーション件数もグラフに示すように増加しています。(図1)

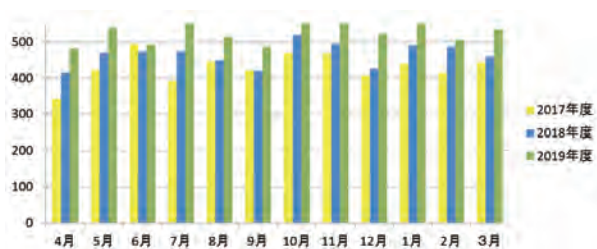


図1：入院患者センターオリエンテーション件数

今後は、入院前から関わる入院患者センターの支援の質向上を行い、退院後の患者さんへの支援の充実に継続していきたく考えています。

地域との連携指標ともなる介護支援等連携指件数は、2019年度154件でありましたが、さらに連携を強化し介護支援等連携指件数の増加を目指しています。

今後も地域で生活する患者さんを中心に、地域との連携を今以上に推進していきます。

また当院は、地域がん診療連携拠点病院としての役割を担っています。「がん相談支援センター」は、患者・地域の相談窓口となり、がん相談対応をしています。

2019年度は、605件の相談対応させていただきました。

おしゃべりサロンでは、ネイルリスト講師をお招きし、「自分でできる簡単ネイルケア」のミニレクチャーを開催しました。がん患者さんのQOL向上につながる取り組みになればと思っています。がん相談支援センターは、がん患者さんの支援の向上に努め、日々の取り組みを実践していきたいと考えています。

(主な相談内容)

- 転院・施設入所に関する内容
- 在宅療養に関する内容
- がん相談
- 医療費などに関する内容
- セカンドオピニオンに関する内容
- がん患者の就労支援

研修会

- おしゃべりサロン (がん患者サロン)
 - 第2月曜日 交流会
 - 第4月曜日 ミニレクチャーと交流会



教育研修課

■ スタッフ

課長 砂田 朋子
他 1名

■ 業務概要

教育研修課は、職員教育体制の充実と臨床研修に関する業務の遂行が主な業務です。

■ 活動内容

【新採用職員研修】

毎年4月に新採用職員を対象とした研修を行っています。例年80～90名の新入職員が参加する大人数での行事ですが、医師、看護師、コメディカル等多職種の方の協力をいただいて研修会を実施しています。

【研修医の募集活動】

当院は臨床研修指定病院として、年間を通じて約60名の医学生の見学受入れを行っています。併せて研修医の募集活動も行っており、広島県内外で開催の求人説明会に参加したり、SNSで情報発信を行ったりしています。今年度は2019年7月レジナビ大阪に参加しました。

今年度はたすきがけ研修医も含め、1年次研修医が12名、2年次研修医が9名在籍しています。

研修医の相談窓口として、連絡や調整業務を行い、初期研修が円滑に行えるよう努めています。

【アカデミック活動】

院内で開催されるポスター展や論文・学会発表等学術分野での表彰も行っています。いずれも多くの出展、応募があり、院内ではアカデミック活動が活発に行われています。

【高校生外科セミナー】

当院では近隣の高校生を対象に、最新の医療機器を体験しながら外科の魅力を知ってもらうことを目的とした“高校生外科セミナー”を開催しています。第9回目を迎えた今年は28名の参加がありました。学生たちも手術着に着替え、外科医師・手術室看護師の指導のもと実習を行いました。高校生に医療現場を知ってもらうことにより、医療職への関心・理解を深めてもらえるよう継続的な取り組みを行っています。



施設資材課

■ スタッフ

施設資材課長

山下 寿 実

他施設資材担当	3名
営繕担当	2名
エネルギーセンター	7名(内、4名派遣)
洗濯場	4名委託
リネン庫	2名
中央材料室	4名(内、3名委託)
内視鏡センター	1名

■ 業務概要

当課は、病院の運営に必要な機器や物品等の購入、保守管理、廃棄を行う窓口を主な業務としています。

必要な機器の購入は、毎年、病院の投資計画に基づき、各診療科等の長から整備申請を受け、院長等とヒアリングを行いながら、年間の整備品目を定めます。整備予定となった医療機器等は順次整備(購入)手続きをしています。

医療機器の他に、病院運営に必要な消耗品も各部署からの要望をとりまとめ、調達しています。アイテム数は概ね900品目にのぼります。

中央材料室には、SPD(材料物流管理)システムが導入されており、520品目の医療材料の入出庫を管理しています。



〈SPDセンター〉

物品の保守管理部門として2名の営繕担当者がおり、病院内のあらゆる施設の立付けから小物、備品を修理しております。プロ顔負けの技量でなんでも直してしまう頼もしい担当者です。

洗濯場、リネン庫の運営も施設資材課が担当しております。洗濯場では週に約4,000枚の手術着やタオル等を大型洗濯機で洗濯します。

リネン庫では病棟で使われる布団やシーツを管理しており、毎日130組のシーツ、パット、枕を各病棟へ配っています。また、新採用看護職員の白衣の準備やミシンによる修繕を行っています。

内視鏡センターでは内視鏡検査後のファイバー洗浄を行っています。

エネルギーセンターは、病院の心臓部で、電気系統の制御、ボイラー、中央管理の冷温水発生機(冷房、暖房)を24時間体制で見守っています。

地震等発生時は、真っ先に駆けつけ、病院全体の保全に万全を期しています。

■ トピックス

2019年度は乳房用X線撮影装置、整形外科手術顕微鏡、超音波診断装置他48品目で、合計3億5千万円の整備を行いました。

また、病院第一駐車場が2020年3月より病院立体駐車場として生まれ変わり、運用を開始しました。



〈以前の病院第1駐車場〉



〈現在の病院立体駐車場〉

栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では2005年4月より活動しています。

NSTは、栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

■ NST メンバー

- ・ 医師：香山茂平、櫻谷正明 (ICU)
- ・ 歯科医師：大井尚志、平田ひかる
- ・ 看護師：藤本七津美
- ・ 薬剤師：中島恵子、山崎貴司
- ・ 管理栄養士：上村真由美 (専従)、八幡謙吾
- ・ 臨床検査技師：池田光泰、村田竜也、小野溪
- ・ 作業療法士：石井葵、西田花穂里
- ・ 言語聴覚士：上田雅美
- ・ 歯科衛生士：大森志穂

■ 活動内容

- ・ NST ラウンド・カンファレンス：
毎週木曜日 14：30～
- ・ NST-TPN カンファレンス：
毎週水曜日 15：00～
- ・ 食事ラウンド：
毎週水曜日の11：50～
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 院内 NST 研修会 (全職員対象)

日程	内容	講師
5 / 17	PN 導入・中止時の代謝性合併症予防について	山崎池田
7 / 24	経管栄養のメリットと管理	坂手八幡
9 / 13	褥瘡と栄養管理について	梅田上村
11 / 15	栄養投与ルートの選択・PICC と感染について	香山今本
1 / 24	口腔保清と姿勢・食事介助について	平田後藤
3 / 16	簡易懸濁について → 中止	中島上田

- ・ 新人研修：年2回、ラダーII研修：年1回

■ 栄養サポートチーム加算算定件数

・2019年度算定件数：延べ1,164件(患者数276名)



■ 栄養サポートチーム 診療科別のべ回診件数

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼 内 科	161	179	97	141	183	92
腎 内 科	89	138	66	47	70	108
糖 内 科	13	34	30	25	28	25
消 内 科	203	279	237	286	267	243
循 内 科	151	188	140	146	52	71
心 血 外	45	41	101	65	24	5
呼 吸 外	59	135	102	132	78	97
外 科	142	199	75	138	74	109
脳 神 外	175	86	43	56	56	13
整 形 外	32	38	26	20	11	24
形 成 外	0	0	3	8	9	0
皮 膚 科	34	65	88	36	16	13
泌 尿 器	23	28	17	30	24	48
放 治 科	7	0	16	15	103	185
耳 鼻 科	71	70	69	26	103	75
小 児 科	0	0	0	0	12	1
歯 口 外	10	1	9	0	27	3
救 急 治	45	41	40	78	80	21
産 婦 人	6	3	5	16	7	5
乳 腺 外	0	0	0	1	0	5
総 診 科	-	-	-	-	20	31
合 計	1,266	1,525	1,164	1,266	1,244	1,174

※単位：件 (人) ※NST 加算算定数とは異なる

■ NST の 2019 年の Topics

・2019年4月～2つの活動を開始しました。

① 食事ラウンド (管理栄養士、作業療法士)

栄養量UPや誤嚥・褥瘡予防など適切な栄養管理を行うための環境調整目的に、週1回数名訪室、食事時の動作サポートやポジショニング調整の提案を行っています。

② TPN カンファレンス (薬剤師、管理栄養士)

高カロリー輸液投与中の患者を対象に、代謝性合併症や感染予防のため、血糖値や肝機能、電解質、投与速度等の確認を行い、適正な輸液内容や管理についての提案を行っています。

呼吸療法サポートチーム (RST)

RST とは

RSTとは呼吸療法サポートチーム (Respiratory Support Team) の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

目的

集中治療室・救命救急センターに入院した患者さんが呼吸の補助を必要とする際に、非侵襲的陽圧換気 (NPPV) や人工呼吸器を装着することがありますが、一般病棟においても、それら人工呼吸療法が継続される場合もあります。また、高流量酸素療法 (HFNC: 通称 ネーザルハイフロー) も増えており呼吸療法の幅が広がっています。

私たち RST は多職種からなるチームで構成されており、人工呼吸器からの離脱管理や NPPV の適正使用に向けて、合併症予防や安全管理を総合的にを行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。

【メンバー】

医師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、医療事務など

活動内容

1) 病棟ラウンド

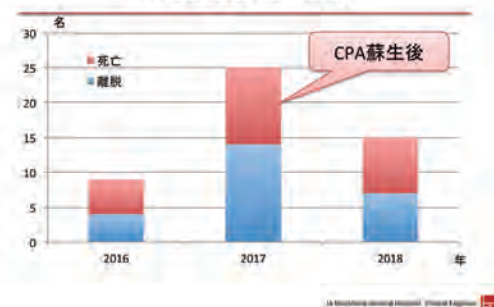
1週間に1度、人工呼吸器や NPPV が装着されている患者さんのベッドサイドでラウンドシートを元に、人工呼吸器のチェック項目や周辺環境を確認するだけでなく、各専門職それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価しています。その結果を踏まえ、適宜主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。また、人工呼吸器からの離脱に向けた支援や離脱後の加温加湿としての酸素療法の提供、NPPV マスクのフィッティング、一部の酸素療法の評価を行なっています。



一般病棟での呼吸療法



人工呼吸器離脱



離脱日数



2) 教育

看護部の RST 委員メンバーにてラダー看護師を対象に定期的に勉強会を行い、NPPV のマスクフィッティングや酸素療法、口腔ケアや体位排痰法などの習得に勤めています。この勉強会では、講義だけでなくシミュレーションを取り入れています。

また、普段呼吸療法に携わる機会の少ない部署の看護師でも、RST 委員の看護師メンバーがラウンドに参加し、ラウンドシートを元に呼吸器の設定の確認方法や周辺環境の点検方法を学習し、知識の向上にも取り組んでいます。

【今後の展開】

RST では人工呼吸器で管理されたまま当院から退院・転院される患者さんやご家族に対してのケアを行なっていく必要性と、可能な限り院内にて人工呼吸器から離脱することも引き続き目標としていきたいと考えています。

感染防止対策室 (ICT・AST)

■ スタッフ

室長 渡 正伸
科長 今本 紀生

■ 取得資格、所属学会

〔取得資格〕

Infection Control Doctor : ICD
感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会
日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会やICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特にICT (院内感染対策チーム) とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

また、2018年度から感染管理に関連する新たな診療報酬として『抗菌薬適正使用支援加算』が加わりました。これに伴い、ICTメンバーが抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を兼務し、院内活動を行っています。

■ ICT・AST コアメンバー紹介

渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)
近藤 文博 (呼吸器内科医師)
正島 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)
池部 晃司 (臨床検査技師)
今本 紀生 (感染管理認定看護師)
栗岡 允 (事務：医事課)

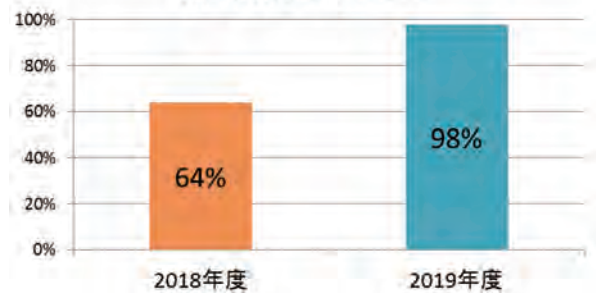
■ 認定施設基準

- ・「感染防止対策加算1」：8つの連携施設と年4回の合同カンファレンスを開催
- ・「感染防止対策地域連携加算」：広島西医療センター ICTと連携し、年1回の相互ラウンドを実施
- ・「抗菌薬適正使用支援加算」：抗菌薬の使用や検査の適正利用の為に体制整備による質の向上・評価や院内研修会を開催

■ 院内集合研修会

2019年度は職員の出席率100%を目指し、医局会への出前研修会や、時間内にいつでも受講できる特別研修会を開催しました。結果は98%の出席率でしたが、昨年度に比べて大幅に増加しました。

院内研修会出席率



■ 2019年度の活動 (Topics)

〈新型コロナウイルス感染症への対応〉

中国・武漢市で新型コロナウイルスに関連した肺炎 (COVID-19) の発症が相次ぎ、2020年1月に国内初の感染者が確認されました。広島県においてもPCR検査体制の整備が急がれる中、当院は感染症協力医療機関として2月末から帰国者・接触者外来を開設しました。環境や手順の整備を行いながら、運用が安定するまでの約2ヶ月間はICTが中心となって対応にあたりました。

また、面会規制や対応マニュアルの整備、必要物資の確保やコロナ病棟の編成など、関係各所と連携・協力しながら「院内感染ゼロ」に向けて組織横断的に活動を続けました。



心臓リハビリテーションチーム

■ 設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■ メンバー紹介

(*心臓リハビリテーション指導士、**慢性心不全看護認定看護師)

医師：小林平、藤原敬士、長谷川美紗

理学療法士：本間智明*、河野裕美、小島輝久*、

西谷喜子、高桑翼*、内山明子、井場和敏

看護師：東3階病棟、東7階病棟、内科系外来、

外科系外来、正木博之**

薬剤師：向井一樹、無漏田香穂、稲田淑江、

吉次紗也加

栄養士：森田菜津美、政田采花

相談員：山本良子、中川瑤子

その他：臨床検査技師、義肢装具士、臨床工学科

■ 活動内容

東3：循環器内科多職種カンファレンス

心臓血管外科多職種カンファレンス

東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診

心リハに関する活動	2019年度	2018年度	2017年度
開心術・大血管術後心リハ	113件	121件	162件
急性心筋梗塞後心リハ	68件	58件	79件
心肺運動負荷試験	29件	35件	68件
末梢動脈疾患手術後リハ	95件	85件	113件
心不全心リハ	285件	236件	211件
心リハ外来	51件	29件	53件
日本心臓リハビリテーション学会発表	5件	6件	4件

— 充実した運動療法の提供 —

2019年1月より開心術を受けた入院患者さまの心リハ室での有酸素運動、末梢動脈疾患に対する血行再建術を受けた患者さまの外来血管リハビリテーションを開始し、2019年度も継続しています。また、2019年8月より急性心筋梗塞患者さまに対する心リハを変更しました。改定されたガイドラインを参考にし、より充実した患者教育や運動療法が行えるようプログラムを作成しました。入院から外来に向けて、心リハチームで継続した支援が行えるよう工夫しています。



運動療法実施風景

— 心リハ外来カンファレンス —

2020年2月より、外来で心リハ通院する患者さまを対象としたカンファレンスを開始しました。自宅での疾病管理の状況を多職種で評価し、必要な介入について協議しています。外来での継続的な支援を行って、患者さまの不安軽減に努めています。



カンファレンス実施風景

認知症ケアサポートチーム (DST)

■ チーム概要

認知症ケアサポートチーム (DST) は、認知症に関する専門的知識をもつ多職種により構成されたチームで、当院では2017年4月より活動しています。

認知症による行動・心理症状や意思疎通が困難な入院患者さんに対して、身体疾患の治療を円滑に治療が受けられるよう、回診やカンファレンスを行い、主治医及び病棟看護師と協力しながら、療養環境の支援を行っています。

また2019年から廿日市市、野村病院と協働し、認知症が疑われる人やまたそのご家族を訪問し、支援等を行う「認知症初期集中支援チーム」のメンバーとして地域活動にも参加しています。

■ 認知症ケアサポートチームメンバーと役割

- ・脳神経外科・認知症ケアサポートチーム専任医師：
黒木 一彦
週一回病室に伺い認知症の症状に関する助言を行っています
- ・認知症看護認定看護師：大峯 珠己
認知症の症状に関する相談対応を行っています
地域の医療機関との連携も行っています
- ・MSW：林 理恵
退院後の療養先、生活等の相談対応を行います
- ・管理栄養士：八幡 謙吾
嗜好や摂食嚥下機能に合わせた食事調整を行います
- ・薬剤師：石津 克紘
症状改善のための薬の調整を提案しています
- ・作業療法士：名井 美香
認知機能低下予防・心身機能の維持を目的に介入しています

■ 活動内容

- ・DST ラウンド・カンファレンス
毎週水曜日 13:30～
- ・相談対応 (病棟・ご家族)
毎週火曜日・水曜日 8:30～17:00
- ・院内研修会 (2019年度はeラーニング)
- ・認知症リンクナース研修会 2ヶ月毎に実施
- ・廿日市認知症初期集中支援チームとの連絡会議
- ・院外研修会
- ・病棟との倫理カンファレンス開催

- ・退院前カンファレンスへの参加
- ・病棟との転倒転落予防対策
- ・医療安全相互チェック (広島西医療センター)

■ DST ラウンド件数

2019年4月1日～2020年3月31日のべ210件

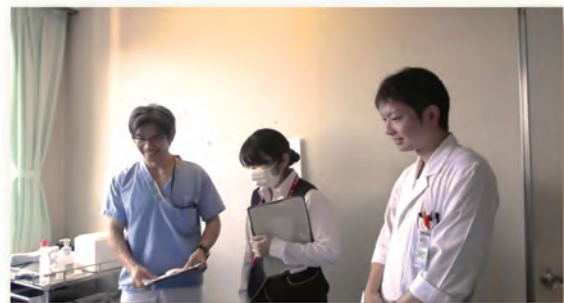
■ 2019年度のTopics

- ・「リンクナース」システム導入
2019年度より関係部署にリンクナースを設置し、DSTと認知症者とその家族、医師・病棟看護師の架け橋となって頂いています。認知症ケアに関する研修会等を行い、関係部署での伝達講習をお願いしています。
DST ラウンドにも参加し、患者さんの療養に関するカンファレンスにも関わって頂いています。
- ・「認知症ケア加算1」の算定開始
1日につき入院14日以内 150点
15日以上 30点
身体拘束した場合、60%の算定

■ 2019年度 院外での研修実績

月 日	内 容
4月23日	地域病院研修会 「介護・看護現場ですぐに役立つ認知症ケアと事例検討会」
7月4日	JA 広島中央 (東広島市) 「認知症の予防と介護」
9月12日	地域医療従事者研修 「優しさを伝えるケアのコツ」
10月12日	広島県医師会研修会 「病院医療従事者向け認知症対応向上研修」
11月10日	広島看護協会研修 「認知症ケアフォローアップ研修」
12月5日	地域施設研修会 (岩国市) 「優しさを伝えるケアのコツ」

■ 回診風景



「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

■はじめに

2012年から院内で開催しています「膵がん・胆道がん教室」ですが、今年で8年目を迎え、メンバーも増えてきました。当院でも遺伝子診断がスタートし、「がん教室」にも変化が求められる年になってきました。この様な中で、私たちが今年度に行ってきた活動についてご報告させていただきます。

■メンバー紹介（主要メンバー）

医師 藤本佳史、佐々木 秀、
新宅谷 隆太、梅田 直樹、
渡 正伸、近藤 文博
看護師 野村昌代、奥村 麻美、
古本直子、平野 有紀、
村上 優子、吉松 美咲、
立石 久子、村中 ひろみ
薬剤師 藪田 ゆみ、埋橋 賢吾、
白井 敦史
栄養科 河本 良美、三浦 満美子、
八幡 謙吾
リハビリテーション科 小林 恭子
MSW 正 畠 忠 貴
ボランティア 斎藤さん
外部講師 木村泰博先生、小笠原英敬先生、酒井亮先生、
坂本真里子先生（臨床心理士）。

■活動内容

a) 教室では、約1時間の講義を月に2回開催しています。各分野の専門家が15分程度の講義を行い、2ヵ月で終了するスケジュールです。これまでの教室では、内容を膵がんと胆道がんに絞って開催していましたが、がん拠点病院の活動としては、他の癌種の患者様にも役に立つ教室が必要であると考え、改革を試みました。これまでの教室の中で呼吸器外科：渡先生に「タバコの話」や「肺癌の話」を行っていただきましたところ好評でしたので、他臓器の癌に関わる皆様にも協力をお願いして、2019年11月からは「がん教室」としてスタートしました。毎回、患者様とご家族10～20名ほどが参加されています。

b) 12月には、大阪国際がんセンターで開催された「膵がん教室ワークショップ」に2演題を応募し、西7階病棟と化学療法部の看護師を中心に参加しました。



【演題1】「がん患者のための教室」をめざして：ヨガ講座を通じた取り組み：化学療法部の奥



村さんが発表しました。新たにヨガ講座を追加したことによる成果を報告しました。免疫アップを目指して、少しでも身体を動かす工夫をヨガでご指導いただいています。興味深い取り組みに反響がありました。

【演題2】膵がん・胆道がん教室不参加者の実態調査：西7階看護師の吉松美咲さんが、アンケートの結果を解析して報告しました。教室の過渡期において、不参加者に注目した検討は大変興味深く評価をいただきました。

c) 「パープルライト広島」：4月6日にはパンキャンジャパンとともに、宮島で膵がん患者の追悼イベントを開催しました。



■まとめ

膵がん教室は、2007年6月に国立がん研究センター中央病院で設立されて以降、約13年のあゆみが続けており、現在、全国の17施設において開催されています。当院はその中心的な施設として活動中です。がん拠点病院に合った教室運営を模索しながら、メンバーで協力して頑張っています。

各種委員会

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

A. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：中光篤志

委員：黒木一彦、橋本佳浩、福岡達仁、藤本七津美、川上多聞、山下寿実、磯貝明彦、向井恵子（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、嘉屋祥昭

B. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2019年度治験審査委員会開催概要

- ・ 第1回（2019／4／19）
審議事項 9 件（継続審査 5 件）
報告事項 4 件
- ・ 第2回（2019／5／18）
審議事項 7 件（継続審査 4 件）
報告事項 3 件
- ・ 第3回（2019／6／17）
審議事項 7 件（継続審査 4 件）
報告事項 3 件
- ・ 第4回（2019／7／26）
審議事項 3 件（継続審査 0 件）
報告事項 3 件
- ・ 第5回（2019／9／20）

- 審議事項 5 件（継続審査 2 件）
報告事項 3 件
- ・ 第6回（2019／10／25）
審議事項 5 件（継続審査 2 件）
報告事項 3 件
- ・ 第7回（2019／11／15）
審議事項 5 件（継続審査 1 件）
報告事項 4 件
- ・ 第8回（2020／1／24）
審議事項 6 件（新規案件 1 件、継続審査 1 件）
報告事項 4 件
- ・ 第9回（2020／2／21）
審議事項 6 件（継続審査 0 件）
報告事項 6 件
- ・ 第10回（2020／3／27）
審議事項 5 件（継続審査 1 件）
報告事項 4 件
- 3) 2019年度の実施治験総件数：15 件
 - (1) 前年度からの継続治験（9 件）
 - ① hsCRP 高値を示す、心筋梗塞後の安定した患者を対象とした canakinumab の event-driven 試験（ACZ885）（ノバルティス）
 - ②左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相（LCZ696）（ノバルティス）
 - ③下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの国際共同第Ⅲ相試験（VOYAGER PAD）（バイエル薬品）
 - ④保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象としたダルベポエチンアルファを対照とする比較試験（切替え試験）（ASP1517）（アステラス製薬）
 - ⑤ LJM452 の第Ⅱ相試験（ノバルティス ファーマ）
 - ⑥駆出率が低下した慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第Ⅲ相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
 - ⑦軽症～中等症の活動期潰瘍性大腸炎患者に FE999315 を 8 週間投与した際における有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、無作為

- 化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験（フェリングファーマ）
- ⑧クローン病の治療における MLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）
- ⑨田辺三菱製薬株式会社による第Ⅱ相試験（田辺三菱製薬）
- (2) 2019年度からの新規治験（1件）
- ①中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎の被験者を対象とした TD-1473 を用いた寛解導入療法及び寛解維持療法の有効性及び安全性を評価する第2b / 3相、多施設共同、ランダム化、二重盲検、反復投与、プラセボ対照、並行群間試験（テラバンス バイオファーマ）
- (3) 2019年度の終了治験（5件）
- ①hsCRP 高値を示す、心筋梗塞後の安定した患者を対象とした canakinumab の event-driven 試験（ACZ885）（ノバルティス）
- ②下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの国際共同第Ⅲ相試験（VOYAGER PAD）（バイエル薬品）
- ③保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象としたダルベポエチンアルファを対照とする比較試験（切替え試験）（ASP1517）（アステラス製薬）
- ④クローン病の治療における MLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）
- ⑤田辺三菱製薬株式会社による第Ⅱ相試験（田辺三菱製薬）

薬事委員会

委員長 徳毛宏則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（統括副院長、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長、薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。（但し、8月と12月は委員会を休会しています。）

5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局（薬剤部）に提出していただき、当委員会で審議することとなります。
- 3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。
- 4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全管理

医薬品安全性情報が新たに発布された場合、全医師に迅速に連絡、注意喚起を行います。他の医療機関での医薬品の適正使用に係わるトピックスについても、全スタッフに向け情報提供・注意喚起を発信し、医薬品の適正使用および安全管理に努めています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討しています。2019年度は8件を採用。後発医薬品係数取得に貢献しています。

8. 2019年度実績

2019年度も、代表的な高額医薬品としてPD-L1関連薬の使用状況の報告を継続しました。また、同効薬採用品整理のための資料作成・情報提供も継続して行っています。院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、今後も、情報提供・使用状況の監視と是正を励行いたします。

2020年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	105
内服薬	721		
注射薬	519		
外用薬	310		
その他	10		
一般採用 計	1,560		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他 (ワクチン類)	15		
採用品数合計			1,765
ジェネリック医薬品			305

2018年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品	総新規採用件数	52
医薬品	総削除件数	69

臨床検査適正化委員会

委員長 藤井 隆

1. 設立趣旨

この委員会は、臨床検査に関する問題と併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行うことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- ◎ 臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- ◎ 臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- ◎ 臨床検査の適正な使用に関すること
- ◎ その他、必要と思われる事項

1) 委員会の構成メンバー

医師 6名 看護師 2名 臨床検査技師 7名
事務部門 2名

2. 活動内容

- 1) 体成分分析装置 (InBody) 機器更新に伴う報告変更について
- 2) HbF の報告について
- 3) 保存検体の廃棄について
- 4) 医療法改正に伴う院内整備
- 5) 血清鉄・UIBC・フェリチンの測定について
- 6) 血清・尿中 BMG の外注について
- 7) 検査結果コメントの変更と追加について
- 8) 外注検査『グルカゴン』受託再開のお知らせ
- 9) 外注アレルギー検査『ハウスダスト 2』受託再開の報告
- 10) ソフトウェアアップデートに伴う一部項目の検査休止について
- 11) 入院患者のパニック値等、検査科からの報告方法について
- 12) 血中薬物検査の基準値等の改訂について
- 13) 血圧脈波検査 (CAVI) の算定に関して
- 14) 2019年度 日臨技臨床検査精度管理調査結果について
- 15) 院内免疫測定機器の試薬製品改良について
- 16) 外注検査項目中止のお知らせ
- 17) 「即位礼正殿の儀」における外注業務日程のお知らせ
- 18) 一部の外注検査項目の再測定について
- 19) 尿中 B-J 蛋白定性検査の手順判定の変更について
- 20) 『クロモグラニン A』検査キット変更のお知らせ
- 21) 2019 年年末年始血液製剤供給体制
- 22) 検査依頼画面のレイアウト変更について
- 23) 臨床研究検査科年末年始業務について
- 24) 依頼頻度の低い検査項目の外注化について
- 25) 外注検査内容等の変更について
- 26) トロポニン T および CA19-9 測定値の突発的高値について
- 27) ARCHITECT 反応セルの特定ロット不良によるデータ異常について
- 28) 2019 年度 第 53 回日本医師会臨床検査精度管理

調査の結果について

29) 2019 度 広島県臨床検査精度管理調査の結果
について

3. 外部精度管理調査報告

1) 日本臨床衛生検査技師会 (241 / 243)

99.2 点

2) 日本医師会 (651 / 655)

99.4 点

3) 広島県医師会 (116 / 116)

100 点

診療録管理委員会

委員長 石田 和 史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

【診療録管理委員会の構成】

オブザーバー：院長、事業局長、看護部長、事務部長

委員長：医師

委員：医師 5 名、薬剤師 1 名、看護師 3 名

事務部門 1 名、診療情報管理士 2 名

(計 17 名)

2. 主な活動内容

〈退院時サマリ 2 週間以内記載率〉

診療録管理体制加算 1 を取得しており、要件の 1 つである退院後 2 週間以内のサマリ記載率 90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行っています。

また、委員会・医局会への報告、院内ホームページへの掲載など普段から目に触れる機会を増やし、記載状況の把握や記載について意識してもらうための積極的な活動を行っています。

診療科別 退院時サマリ 2 週間以内記載率
2019 年 4 月～2020 年 3 月退院分 14,730 人 (転科を含む)

診療科	2 週間以内 記載率	診療科	2 週間以内 記載率
総合診療科	100.0%	呼吸器外科	100.0%
呼吸器内科	93.1%	心臓血管外科	99.6%
循環器科	92.8%	皮膚科	96.5%
腎臓内科	97.5%	泌尿器科	95.6%
糖尿病代謝内科	95.2%	産婦人科	99.7%
消化器内科	98.7%	眼科	100.0%
小児科	98.9%	耳鼻咽喉科	99.4%
外科	96.8%	放射線治療科	100.0%
整形外科	95.0%	歯科口腔外科	99.4%
形成外科	100.0%	緩和ケア科	100.0%
乳腺外科	97.9%	救急・集中治療科	100.0%
脳神経外科	99.9%		
平均科別 2 週間以内記載率			97.6%

〈質的 (同僚) 監査、量的点検〉

質的監査は、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。

電子カルテと退院時サマリの監査を年 3 回ずつ、年間で計 6 回行っています。

今年度も、監査を行い発生した問題点は委員会で話し合い、院内全体に周知が必要な場合は医局会で説明を行いました。

量的点検は、医師による日々の経過が記載されているか確認を行っています。

監査および点検結果は、医師へ還元すると共に、委員会・医局会でも報告し、診療録の改善を担っています。

〈量的監査〉

算定に基づいた必要な記載、書類が揃っているかを目的に全退院患者の監査を行っています。

結果は関係部署へ配布すると共に、各部署に働きかけ改善に取り組んでいます。

診療情報提供書は昨年度に引続き医局会で説明を行い、3.2%不備が減少しました。

悪性腫瘍特異物質治療管理料は医事課に働きかけをし、退院支援計画書、退院前ケアカンファレンス議事録は、総合医療相談室と話し合い、運用の見直

しをしました。

また、今年度は全退院患者の量的監査開始後、項目によって初めて不備が無い月がありました。

〈その他の業務改善の内容〉

同意書申請

- ・新規申請部数 9
- ・院外同意書確認部数 ※7

※院外で作成した全国的に使用している同意書の院内把握

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

衛生管理委員会

委員長 藤本吉範

労働安全衛生法第17条及び第18条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月1回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

副委員長：産業医

委員：診療部長2名・肝臓内科主任部長・薬剤部長・臨床工学科長・臨床研究検査科長補佐・放射線科長補佐・看護部副部長・栄養科長・感染防止対策室科長・事務部長（総務課長）・事務次長（施設資材課長）・人事課長・臨床研究検査科・看護科主任2名・健康管理課長・看護科（手術室）・放射線科副主任・栄養科・人事課

オブザーバー：事業局長、看護部長

〈2019年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に80時間以上の超過勤務が2ヶ月連続した職員、もしくはひと月の超過勤務が100時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の36協定における上限である月45時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年1回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して外部医師による面接の実施、部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向けて、検討しました。

また、当院の公認心理師によるメンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して、面談を行っています。

今年度、メンタルヘルス相談専用の「樹のある部屋」を新設しました。絵本作家に壁の一面に大きな樹を描いていただき、職員が落ち着いて相談できるよう配慮しています。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査を実施しています。B型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらにインフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に10月から12月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は94.3%となっています。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、Tスポット検査および年2回胸部X線検査を実施しています。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が97.2%、冬期が98.9%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、

診療放射線技師、画像診断部医師、検査科医師) に対し VDT (Visual Display Terminals) 健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6. 職場巡視

眼科外来を巡視し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善点について対応しました。

7. その他

衛生工学衛生管理者がドラフト装置の設置部署や有機溶剤等を取り扱う部署を点検・巡視しており、今回は洗濯場を点検しました。手洗い場の設置位置や衛生面に問題があったため、施設資材課に改修依頼し、新しいシンクの設置、高さの調整等を行ってもらい以前より体に優しく清潔な状況となりました。

地域医療連携推進委員会

委員長 中 光 篤 志

1. 設立趣旨

当院が、地域の中核病院としての役割を発揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的としています。委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指しています。

2. 活動内容

- ①地域医療連携に係わる活動実績に関すること（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなどに関する実績）
- ②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること
- ③地域医師会、関係機関との連携に関すること
- ④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動
- ⑤その他（地域医療連携に関すること）

3. 2019年度 地域医療連携推進委員会構成員

委員長：副院長・医療福祉支援センター長
副委員長：診療部長・健康管理科主任部長・健康管理センター長／看護部副部長・総合医療相談室長・地域医療連携室長

委員：医師 15 名、薬剤師 1 名、保健師 1 名、看護師 7 名、社会福祉士 1 名、事務 3 名

オブザーバー：病院長、事業局長、看護部長

4. 活動報告

2019年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため予定していた会議を中止し、書面にて近隣医療機関あいさつ回りで得られた意見とその対応状況について委員に報告を行いました。

近隣医療機関へのあいさつ回りでは、開業医の先生方からおよそ 90 件の意見をいただきました。特に改善を求められた意見については対応を協議し、病病連携・病診連携の強化に繋げていきたいと考えています。

臨床研修委員会

委員長 西 原 礼 介

臨床研修委員会は、初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

〈院内研修〉

- ・ Early Bird Lecture：毎週火曜日午前 7 時～ 8 時
研修医のプレゼン、上級医のレクチャー
- ・ オープンカンファレンス：毎月第 3 水曜、研修医の症例発表
- ・ 基本的臨床能力評価試験（2 月）

〈セミナー開催〉

- ・ 第 1 回イブニングセミナー（6 / 6）
大阪大学大学院 循環器内科 小関正博先生
- ・ 第 2 回イブニングセミナー（9 / 26）
済生会熊本病院 包括診療部 園田幸生先生
- ・ 第 3 回イブニングセミナー（10 / 11）
福岡青洲会病院 川下雄丈先生
- ・ 第 4 回イブニングセミナー（11 / 28）
兵庫県立尼崎医療センター 伊藤雄介先生
- ・ 漢方セミナー（2 / 6）
日高徳洲会病院 井齊偉矢先生

〈学術活動〉

- ・第30回佐伯医学会総会（11 / 3）発表 安岡悠希先生、住本遙香先生

〈院外実習〉

- ・地域医療研修（廿日市記念病院、吉和診療所、コーレルメディカルクリニック、日高徳洲会病院、やまと病院）
- ・精神科研修（草津病院、メープルヒル病院、瀬野川病院）
- ・ER アップデート、沖縄（7月）、東京（3月）
- ・ハワイ大学 SimTiki 研修（8月）柴田祥之先生、山本高嗣先生

〈研修医サポート〉

- ・メンター制度：研修医1人ずつに上級医1人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
- ・臨床心理士との面接（7月）
- ・西原委員長との面接（2月）
- ・臨床研修科 Facebook にて、研修医の活動を広く世界に紹介。

〈学生勧誘〉

- ・広島卒後臨床研修ネットワーク説明会（6月）
- ・レジナビフェア 2019 大阪（7月）

〈表彰〉

- ・アカデミー学術賞研修医部門：原田怜先生
- ・基本的臨床能力評価試験 優秀賞：入江耕平先生、森田智子先生
- ・Early Bird Lecture 最多出席賞：岩田和佳奈先生
- ・研修医が選ぶベストオブ指導医：高場章宏先生

〈西原委員長の活動〉

- ・第37回臨床研修研究会（4月、東京）

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

設立趣旨（設立の目的）

がんに関する自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者さんの

療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じるために、がん診療連携拠点病院運営委員会を設置しています。

その他にも、広島県がん診療連携協議会や評価・改善部会において、都道府県がん診療連携拠点病院や地域がん診療連携拠点病院等と情報共有や相互評価を行っています。

【地域がん診療連携拠点病院運営委員会の構成】

委員長：医師

副委員長：医師・看護師

委員：医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士

医療ソーシャルワーカー・事務等

活動内容

がん診療連携拠点病院として、

- 集学的治療の提供体制
- 緩和ケアの提供体制
- 地域の医療機関との連携
- がん治療に関する専門的知識・技能を有する職員の配置
- がん相談支援センターの設置
- セカンドオピニオンの提示体制
- 院内がん登録
- がん医療に携わる医療従事者への研修体制

上記の体制をより一層推進するために院内外の調整及び広島県がん診療連携協議会へ参加し、国のがんに関する現状や今後の展開について情報収集を行ない広島西医療圏のがん拠点病院としての機能を果たすべく取り組みを行なっています。

輸血療法委員会

委員長 香山 茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。

（6回開催）

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン

使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。また今年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを症例報告し検討を行いました。

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告
- ・アルブミン製剤使用分析
- ・輸血製剤・特定生物由来製品が適正使用検討
- ・輸血関連インシデント
- ・FFP 融解後の使用期限延長に伴うマニュアル改訂
- ・輸血血液製剤の保管不備の周知徹底

【院内合同研修会】

開催日 2019年12月9日

演題 輸血に関するQ & A

講師 広島県赤十字血液センター

山口 和美 先生

昨年度に引き続き、輸血製剤の使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組み、輸血管料・輸血適正使用加算の値を満たすことができました。今年度は輸血製剤の保管不備による廃棄が増加しましたが、院内への周知徹底に努めました。

来年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを検討し、各診療科へフィードバックしていきます。また、廃棄血については今年度増加していますが、今後も削減および輸血後感染症検査の実施率向上にむけて取り組みます。

2019年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3,258	108	RBC	3,258	3.2%
Ir-WRC-LR2	0	0			
FFP-LR240	916	54	FFP	916	5.6%
FFP-LR480	0	0			
Ir-PC-LR10	1720	20	PC	1720	1.1%
Ir-PC-LR20	0	0			

2019年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	54	45	9
産婦人科	6	4	2
合計	60	49	11

2019年度 特定生物由来製品使用状況

製品	本数
20%アルブミン	429
グロベニンI 2.5g	16
グロベニンI 5g	439
ケイセントラ静注用 1000	6
テタノブリン筋注 250 国際単位	72
ハプトグロビン静注	39
抗D人免疫グロブリン筋注	18
乾燥 HB グロブリン筋注	0
献血ノンスロン	29
フィブロガミンP	20
タコシール 3 × 2.5cm	85
タコシール 9.5 × 4.8cm	73
ベリプラストP 組織接着用 1ml	29
ベリプラストP 組織接着用 3ml	114
ベリプラストP 組織接着用 5ml	78
アブラキサン点滴静注 100mg	937
5%アルブミン 250ml	316

倫理委員会

委員長 中 光 篤 志

1. 設立主旨

当院で行われる様々な研究について、ヘルシンキ宣言における倫理的原則や臨床研究に関する倫理指針等に基づいて、インフォームド・コンセントや個人情報保護などを評価し、被験者となる患者さんの権利を保護しながら、研究が医学の進歩に寄与することを目的として設立されました。委員会の構成は、医師8名、看護師4名、パラメディカル4名、外部委員3名、事務4名です。外部委員も参加して頂き、多方面から臨床研究の評価を行っています。

2. 活動内容

委員会の開催は1ヶ月に1回、第3金曜日に行っており、2019年度の審査実績は、新規87件、変更7件、継続1件でした。最近では臨床研究の学会報告や論文投稿に際して、その研究が適正に組織された倫理委員会での承認を得ていることが常識になりつつあり、当院の倫理審査委員会も臨床研究の倫理

性確保と被験者保護に向けての取り組みに関して、さらなる努力を求められています。

コンプライアンス委員会

委員長 藤本吉範

1. 設立主旨

コンプライアンスとは、法令、内部規程、業務マニュアル等を遵守することは勿論のこと、社会規範や倫理に即して、公正かつ公平な業務遂行を行うことです。そして、これらを実践することにより、発生のある可能性のあるトラブルを事前に回避することにもなります。

当院の使命は、農家・組合員並びに地域住民の「命」と「健康」を守ることであり、その信頼に応えるためには、職員自らのたゆまぬ努力によりコンプライアンス態勢を確立していくことが重要です。また、コンプライアンスを重視した事業展開は、当院に対する信頼を高めるとともに、職員自身や職場を守ることに繋がります。

逆に、重大なコンプライアンスの違反（不祥事件）の発生は、農家・組合員並びに地域住民の期待と信頼を裏切り、社会的信用を失い、組織の存続さえ危ぶまれる事態になりかねません。

こうしたことを踏まえて、JA 広島厚生連は 2004 年 11 月にコンプライアンス・マニュアルを制定し、役職員が遵守すべき行動規範等を明らかにするとともに、その徹底をはかるための内部組織・体制等の明確化をはかりました。

当院ではコンプライアンス態勢の確立に向けて、2008 年 4 月にコンプライアンス委員会を設立しました。

2. 活動内容

- ・ 病院コンプライアンスプログラムの策定（毎年度）
- ・ コンプライアンス委員会の開催（年 3 回）
- ・ コンプライアンス・マニュアル等を利用した各部署でのコンプライアンス研修の開催依頼（毎月）
- ・ 内部講師・外部講師による院内集合研修の開催等

4 月 「接遇研修」

9.10 月 「個人情報保護・ハラスメントに関する研修」

3. 構成メンバー

委員長：病院長

委員：顧問・副院長・事業局長・診療部長・薬剤部長・臨床研究検査科長・看護部長・看護部副部長・事務部長・事務次長・地域医療連携室長・総務課長

広報委員会

委員長 藤井 隆

◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の 1 つが広報誌「せと」であり、もう 1 つが「ホームページ」です。この 2 つを作成・管理するのが本委員会です。

◆委員会活動

委員会は年 4 回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、「ホームページ」についても検討を行っています。

1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年 3 回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2019 年度は、腎臓内科、皮膚科、消化器内科、外科の紹介、健康管理センターより「人間ドック健診施設機能評価」施設認定取得について、市民公開講座のお知らせ、立体駐車場建設工事のお知らせを掲載しました。

2. ホームページ

年に1回ホームページアクセス解析を行い、相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めています。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話題やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。

インターネットの汎用性が高い現在、サイトのなりすましや、データ改ざん、データの盗聴などの危険性が高まっています。

そこで昨年度の委員会で決定したホームページのSSL化（Secure Sockets Layer）を進めました。

SSLは、個人情報やクレジットカード情報などの重要なデータを暗号化して、サーバーからPC間での通信を安全に行うことが出来るインターネットのシステムです。（図1）

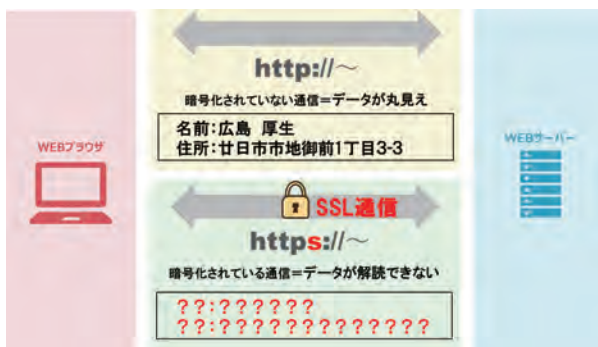


図1 SSL（Secure Sockets Layer）

SSLの使用により、当院のサイトの情報を悪意を持った第三者から守ることで、当院の情報が改ざんされていないことが証明され、ホームページを安心して閲覧できます。

全体の閲覧者数は2018年の283,676人から2019年は361,207人に増加しました（図2）。

その要因として、2019年度の目標であった古い記事の公開を削除し、当院の情報をリニューアルしたことが要因であると考えられます。また、年度末には、新型コロナウイルス感染症に関する当院の対応についての記事を随時公開したことも一因であると考えられます。

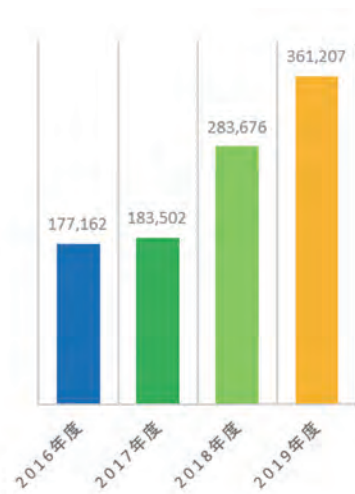


図2 当院のホームページ閲覧者数

アカデミック委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で2010年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を3回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第10回ふれあいポスター展

2019年11月12日～12月27日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター35作品を院内に展示し、地域住民等から選出された5作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部門	部署
優秀賞	最優秀賞	整形外科
	医局部門	消化器内科
	看護部門	糖尿病センター 療養相談室
	コメディカル部門	栄養科
	住民投票部門	栄養科

(2) 第10回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部 門	診療科	氏 名
内科系	循環器内科	赤 澤 良 太
外科系	外科	新 宅 谷 隆 太
コメディカル	放射線科	秋 里 恭 平
研修医	臨床研修科	原 田 怜

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

◆各診療科への支援状況

部 署	件 数
泌 尿 器 科	1
整 形 外 科	21
外 科	11
糖 尿 病 セ ン タ ー	3
産 婦 人 科	1
乳 腺 外 科	4
消 化 器 内 科	6
循 環 器 内 科	5
麻 酔 科	5
形 成 外 科	1
救 急 ・ 集 中 治 療 科	14
呼 吸 器 外 科	5
小 児 科	4
画 像 診 断 部	3
呼 吸 器 内 科	1
総 合 診 療 科	2
心 臓 血 管 外 科	4
眼 科	1
臨 床 研 修 科	3

(4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、2012年度より短期海外研修を実施しています。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は2名が参加しました。

出張記

■出張紀アメリカ膵臓学会に参加して

消化器内科 藤本佳史、進藤源太郎
初期研修医 原田 怜

2019年11月6～9日、日本膵臓学会の50周年記念大会がハワイで開催されました。この大会はアメリカと日本の膵臓学会の合同学会です。今回はハワイ州マウイ島のグランドワイレアウォルドーフアストリアリゾートにて開催されました。

当院からは、消化器内科の2人（藤本、進藤）と研修医1人（原田）の合計3名で参加しました。広島大学の同門（消化器・代謝内科）の先生がたや、JA尾道総合病院からの参加もあり、異国ながら和やかな雰囲気に参加できました。当然、学会で使用する言語は英語ですので、演者の2人の先生（進藤、原田）は多少緊張した様子でしたが、的確な答弁で、充実した学会となりました。発表時間が終了すると、テラスに設けられた懇親会会場に移り、すっきりくつろいで昼食をいただきました。

大会3日目には、JA尾道総合病院の花田敬士先生の招待講演がありました。「膵がんの早期診断」について日本の現状を講演され、会場でも注目を集めていました。また、大阪国際がんセンターの蘆田玲子先生が「膵臓ミルクティーエコー検査」について講演されました。広島総合病院の消化器内科は、この2施設との連携が特に強い診療科です。特に「ミルクティーエコー検査」については、通常の診療で行っている施設は、全国でも当院と大阪国際がんセンターにほぼ限られています。当院では、最先端の診断技術を取り入れて、膵がんの早期診断に取り組んでおり、アメリカでの紹介を目の当たりにして大変ほこらしく感じました。

〈当院の演題は以下の2題でした〉

演題 1. Six cases of Trousseau syndrome with pancreatic cancer. 演者は進藤源太郎先生でした。

近年、がん患者に血栓症を合併する症例が増えており、特に膵臓がんでは多い傾向にあります。脑梗

塞を生じた例をトルソー症候群と言いますが6例のまとめを報告しました。さらに深部静脈血栓症の症例も多くなっているため、これらを比較して報告しました。

演題 2. Acinar Cell Carcinoma with Tumor Expression into the Pancreatic Duct. 演者は、研修医2年目の原田怜先生でした。腺房細胞癌は膵腫瘍の中では比較的稀な腫瘍ですが、膵管内に進展する場合があります。膵管内に進展すると、珍しい形態を示すため、その1例について報告しました。

新型コロナウイルスの感染が広がり、国際学会なんて考えられない世界になってしまいました。またいつか、国を超えた学会で研鑽を積める日が来ることを願っています。



著書・論文

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Inguinoscrotal hernia containing the urinary bladder successfully repaired using laparoscopic transabdominal preperitoneal repair technique : A case report	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Uegami S, Shintakuya R, Imamura Y, Nakamitsu A	Asian Journal of Endoscopic Surgery	12・201-203	2019年
業務用エアージェットによる多発大腸損傷の1例	宇山拓澄 田崎達也 上神慎之介 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	日本腹部救急医学会雑誌	39・3 : 541-544	2019年
前方到達法で修復した両側上腰ヘルニアの2例—手術適応と術式選択に関する考察—	田崎達也 新原健介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 中光篤志	日本ヘルニア学会誌	5・2・22-29	2019年
術前診断に苦慮した胆嚢管原発神経鞘腫の1例	馬場健太 佐々木秀 新原健介 田崎達也 杉山陽一 香山茂平 臺丸 裕 中光篤志	日本消化器外科学会雑誌	52・10・572-581	2019年
Laparoscopic plug removal for chronic pain after inguinal hernia repair using the plug-and-patch technique : A case report	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Shintakuya R, Hirano T, Takahashi S, Nakamitsu A	International Journal of Surgery Case Reports	65・107-110	2019年
Sarcopenia is an independent predictor of delayed gastric emptying following pancreaticoduodenectomy : a retrospective study	Shintakuya R, Sasaki M, Nakamitsu A, Kohyama M, Tazaki T, Sugiyama Y, Hirano T, Kaiki Y	ANZ Journal of Surgery	89・433-437	2019年
大腿ヘルニア嵌頓に対する手術後に肺血栓塞栓症を発症した1例	平野利典 原田拓光 海氣勇気 田崎達也	日本腹部救急医学会雑誌	40・85-88	2020年

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Metalloestrogenic effects of cadmium are absent in long-term estrogen-deprived MCF-7 cells : Evidence for the involvement of constitutive ; γ activated estrogen receptor α and very low expression of G protein-coupled estrogen receptor 1.	Hirao-Suzuki M, Takeda S, Kodama Y, Takiguchi M, Toda A, Ohara M.	Toxicology letters	319 : 22-30	2020年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ナーシング・グラフィカ EX「疾患と看護⑦」運動器 頸椎性神経根症	山田清貴	メディカ出版	242-244	2019年
頸椎後方固定術（脊柱管拡大術、椎間孔開放術）	田中信弘 美濃智子	整形外科看護	24巻11号	2019年
「マジでオペをみているんじゃないかと思えるくらいに詳細な手術解説 マジオペ!! 脊椎」	田中信弘	メディカ出版 宮腰尚久（編）	P29-24	2019年
脊髄硬膜外血腫の治療経験	向井俊平 平松 武 福井博喜 田中信弘 山田清貴 橋本貴士 丸山俊明 吉田研一 櫻谷正明 藤本吉範	広島医学	Vol.73 No.5	2019年

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
冠動脈バイパス術後の運動療法継続の効果	小林 平 本間智明 上田雅美 村上嘉章 濱本正樹	日本冠疾患学会誌	1号 P1-4	2019年

皮膚科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
EGFR阻害薬による爪囲炎に対する部分抜爪の有用性について	梅田直樹 串畑あずさ 平野隆明	日本皮膚科学会雑誌	129巻、8号、1639-1644	2019年

著書・論文

画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
心配蘇生術に伴う肝損傷を認めた1例	近藤翔太	広島医学	Vol.72 No.7 p319	2019年
iPadを利用した病院外での画像読影の有用性について	西原礼介	GE today		2020年

救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
レジデントノート	高場章宏	救急でのエラーなぜ起きる？どう防ぐ？、羊土社	2019年10月号 vol.21 No.10	
月間呼吸器内科	高場章宏	特集 人工呼吸管理のすべて、科学評論社	第37巻第4号	
蘇生輸液における残された課題	櫻谷正明	敗血症 残された課題・救急医学、むへるす出版	2020年1号	
術前・術後のケアが全部分かる Part2 術後	櫻谷正明	月刊ナーシング、学研メディカル秀潤社	2020年1月号	

病理診断科・病理研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
肺 clear cell variant of solid pseudopapillary neoplasm の1例	永田郁子 高田 愛 岡本淳子 井町海太 墓丸 裕	日本臨床細胞学会雑誌	58巻3号 126-132.	2019年
2018年7月豪雨災害における医療救護支援活動報告～避難所でのDVT検診について～	水野誠士	広島臨床検査	第8巻 44-52.	2019年

東7階病棟

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
高齢夫婦を支える訪問看護師と外来看護師との連携からみえたもの	安藤知佳 中元美恵 加賀美昌美	看護実践の科学 看護の科学社	vol.44 No.6 p27-32	2019年

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
腎細胞癌の分子標的薬治療中に発症した後天性血栓性血小板減少性紫斑病の1例	長谷川文香	広島臨床検査	Vol.7 (2018) pp20-24	2018年
大動脈解離に対する大動脈人工血管術後のHCV抗体陽転化現象の検討ー外科用接着剤による抗ウシ血清アルブミン抗体産生に伴う偽陽性反応に関してー	村田竜也	医学検査	Vol.68 No2 (2019) pp281-286	2019年

中央放射線科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
整形外科領域における Revolution CT の使用経験ー物質密度画像の臨床応用を中心にー	秋里恭平 西原礼介 山口裕之	映像情報 Medical・産業開発機構株式会社	Vol.51 No.10 September 2019	2019年
Dual-Energy CT of Material Decomposition Analysis for Detection with Bone Marrow Edema in Patients with Vertebral Compression Fractures	Kyouhei Akisato, Reisuke Nishihara, Hajime Okazaki, Takanori Masuda, Ayako Hironobe, Kondo Shota, Hiroshi Yamaguchi, Yoshinori Funama	Academic Radiology	Acad Radiol 2020;27:227-232	2020年
Revolution CTにおける物質密度画像を用いた脊椎圧迫骨折に伴う骨髄浮腫の検出	秋里恭平 西原礼介 山口裕之	GE today	Vol.53	2020年

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
兵庫秀幸	Serum alanine aminotransferase, myocardial glucose uptake and visceral adipose tissue volume are associated with nonalcoholic fatty liver disease in 18F-FDG PET/CT imaging	査読者	BEND-D-19-00017R1	BMC Gastroenterology
兵庫秀幸	Simple resistance exercise decreases cytokeratin 18 and fibroblast growth factor 21 levels in patients with nonalcoholic fatty liver disease : a non-randomized controlled trial	査読者	BMGE-D-18-792R1	BMC Gastroenterology
兵庫秀幸	Effect of smartphone application-enabled daily intervention for patients with nonalcoholic steatohepatitis : a feasibility study	査読者	BMGE-D-19-00102R1	BMC Gastroenterology
兵庫秀幸	FTO gene polymorphisms associated with nonalcoholic fatty liver disease risks in a Chinese male population : a case-control study	査読者	BMGE-D-18-736	BMC Gastroenterology
兵庫秀幸	Nonalcoholic fatty liver disease in obesity : the oral glucose tolerance test as a diagnostic tool	査読者	LERC-2019-0130	Endocrine Research
兵庫秀幸	Circulating IGFBP-2 level is inversely associated with incidence of nonalcoholic fatty liver disease : a cohort study	査読者	Scientific report	Scientific report
兵庫秀幸	Liver fibrosis stage and insulin secretion capacity in Japanese patients with histopathologically-confirmed NAFLD	査読者	HEPRES-19-0266	Hepatology Research
兵庫秀幸	Association of TM6SF2 rs58542926 Gene Polymorphisms with the Risk of Nonalcoholic Fatty Liver Disease and Colorectal Adenoma in Chinese Han Population	査読者	BMBI-D-18-00079R3	BMC Biochemistry
兵庫秀幸	Association of TM6SF2 rs58542927 Gene Polymorphisms with the Risk of Nonalcoholic Fatty Liver Disease and Colorectal Adenoma in Chinese Han Population	査読者	BMBI-D-18-00079R4	BMC Biochemistry
徳毛宏則	胃瘻造設を検討された介護施設入所者に正常圧水頭症を認め、シャント術により経口摂取可能となった2例	査読者		PEG・在宅医療学会誌 在宅医療と内視鏡治療

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Clinical Medicine Insights : Case Reports	査読者		SAGE Journals

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	学術雑誌の査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	学術雑誌の査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	学術雑誌の査読者		麻酔と蘇生編集部

救急・集中治療科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
櫻谷正明	Respica 2020年 1号 特集	編集		メディカ出版
櫻谷正明	日本集中治療医学会雑誌	編集		学研

書籍・雑誌編集

薬剤部

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
吉廣尚大	日本版敗血症ガイドライン 2020 改訂版	システマティックレビュー班班員	SR 班の仕事は 2019 年度で終了 改訂作業中	日本集中治療医学会
吉廣尚大	日本集中治療医学会雑誌	reviewer		日本集中治療医学会

臨床研究検査科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
池田光泰	ポアメディアレポート 妊婦 GBS スクリーニング検査における GBS 選択培地・選択分離培地の有用性		Vol.4	栄研化学
荒瀬美幸	広島県医師会 臨床検査精度管理調査報告書 尿定性/一般検査フォトサーベイ		2019 年度	広島県医師会

学会発表

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院におけるトルバプタンの処方動向と有効例の検討	辻山修司 前田幸治 荘川知己 渡邊義和 藤原敬士 赤澤良太 石橋直樹 藤井 隆	第 68 回日本農村医学会 学術総会	2019 年 10 月 17 ~ 18 日	帯広市

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
微小変化型ネフローゼ症候群で透析導入が必要となったが、2ヶ月後に透析を離脱した1例	藤井賢治 新開 泰 進藤稔弘 荒川哲次	第 121 回日本内科学会中 国地方会	2019 年 10 月 5 日	岡山市

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
5年間のDPP-4阻害薬投与による神経障害進展阻止効果を propensity score matching (PS) で検証する	石田和史 三玉康幸 濱岡 彩 由田彩佳	第 62 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2019 年 5 月 23 ~ 25 日	仙台市
FGM 導入によるグルコース変動データが1型糖尿病患者の実臨床にもたらす影響の検討	三玉康幸 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史 安藤知佳 加賀美昌美 中元美恵	第 62 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2019 年 5 月 23 ~ 25 日	仙台市
DPP-4 阻害薬から週1回 GLP-1 受容体作動薬デュラグルチドへの切り替えは、如何なる症例で考慮すべきか？	由田彩佳 濱岡 彩 三玉康幸 石田和史	第 62 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2019 年 5 月 23 ~ 25 日	仙台市
血清 1,5-AG 値は2型糖尿病における SGLT2 阻害薬の血糖降下作用の予測因子となりうるか？	濱岡 彩 由田彩佳 三玉康幸 石田和史	第 62 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2019 年 5 月 23 ~ 25 日	仙台市
シンポジウム4 糖尿病地域連携、真に連携すべきものは何か？～糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	第 33 回日本臨床内科医 学会	2019 年 10 月 13 ~ 14 日	広島市
選択性の異なる SGLT-2 阻害薬における DPP-4 阻害薬との併用効果の比較検討	山本祐太郎 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市
RR 間隔を利用した SGLT-2 阻害薬が自律神経系へ与える影響の有無に関する検討	濱岡 彩 山本祐太郎 由田彩佳 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市
長年のインスリン強化療法からリラグルチド&持効型製剤への切替が成功した2型糖尿病の1例	洪早耶佳 山本祐太郎 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市
デュラグルチドと DPP-4 阻害薬の糖尿病神経障害進展阻止作用の比較	石田和史 濱岡 彩 由田彩佳 山本祐太郎	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市
糖尿病患者における膵臓癌の発生部位別にみた臨床特徴の比較検討	由田彩佳 山本祐太郎 濱岡 彩 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市
高齢者糖尿病患者の足病変が身体活動量に与える影響	中元美恵 安藤知佳 井場和敏 尾川 恵 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2019 年 12 月 6 ~ 7 日	徳島市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
非アルコール性脂肪性肝疾患におけるサルコペニアが糖代謝に与える影響	窪津祥仁 高橋宏和 兵庫秀幸 稲富千佳 岡田倫明 秋山 巧 安西慶三 江口有一郎	第 105 回日本消化器病 学会総会	2019 年 5 月 9 日	金沢市
縮小後に再増大した稀な膵腫瘍の1例	進藤源太郎 藤本佳史 山下未紗 石橋一樹 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	第 122 回日本消化器内 視鏡学会中国支部例会	2019 年 6 月 30 日	広島市
膵がん患者のサポータティブケア（メディカルスタッフセッション）：膵がん教室ワークショップの活動報告：第8回柏の葉開催を終えて	池田公史 坂本はと恵 井岡達也 尾坂将人 上野 誠 岸和田昌之 花田敬士 古川正幸 藤本佳史 伊藤鉄英 河邊 顕 古賀風太 藤枝真司 吉川成一 清水 伶 奥坂拓志	第 50 回日本膵臓学会 大会	2019 年 7 月 12 日	東京
当院における異物除去の現況	原田 怜 石橋一樹 相坂康之 山下未紗 進藤源太郎 野中裕広 古土井明 藤本佳史 兵庫秀幸 小松弘尚 徳毛宏則	第 68 回日本農村医 学会学術総会	2019 年 10 月 17 日	帯広市

学会発表

当院における肝細胞癌に対する BCLC stage 別の TACE 治療の現況とレンパチニブ治療の初期成績	石橋一樹 山下未紗 兵庫秀幸 徳毛宏則	野中裕広 古土井明 相坂康之	進藤源太郎 藤本佳史 小松弘尚	第 68 回日本農村医学会 学術総会	2019 年 10 月 17 日	帯広市
当院における大腸悪性狭窄に対する内視鏡的ステント留置術の現況	古土井明 進藤源太郎 藤本佳史 小松弘尚	徳毛宏則 山下未紗 兵庫秀幸	石橋一樹 野中裕広 相坂康之	第 68 回日本農村医学会 学術総会	2019 年 10 月 18 日	帯広市
Acinar Cell Carcinoma with Tumor Expression into the Pancreatic Duct	S.Harada, Y.Fujimoto, G.Shindo, M.Yamashita, K.Ishibashi, M.Nonaka, A.Furudoi, H.Hyougo, Y.Aisaka, H.Komatsu, H.Tokum			50th Anniversary Meeting of American Pancreatic Association	2019 年 11 月 7 日	Maui, Hawaii
Six Cases of Trousseau Syndrome With Pancreatic Cancer	G.Shindo, Y.Fujimoto, S.Harada, M.Yamashita, K.Ishibashi, M.Nonaka, A.Furudoi, H.Hyougo, Y.Aisaka, H.Komatsu, H.Tokumo			50th Anniversary Meeting of American Pancreatic Association	2019 年 11 月 7 日	Maui, Hawaii
超高齢者に対する大腸 ESD 治療の当院における現況	石橋一樹 藤本佳史 小松弘尚	古土井明 兵庫秀幸 徳毛宏則	野中裕広 相坂康之	JDDW 第 98 回日本消化 器内視鏡学会総会	2019 年 11 月 23 日	神戸市
大腸ステント留置により長期生存が得られた 1 例	石橋一樹 山下未紗 兵庫秀幸 徳毛宏則	古土井明 野中裕広 相坂康之	進藤源太郎 藤本佳史 小松弘尚	第 123 回日本消化器内視 鏡学会中国支部例会	2019 年 11 月 30 日	広島市

小児科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市		
回復期に浮腫と筋痛を契機に診断に至ったインフルエンザ心筋炎の 1 例	森本 彩 辻 徹郎	梶間理人 渡邊義和	小野大地	第 173 回日本小児科学会 広島地方会	2019 年 6 月 16 日	広島市
オマリズマブで治療し、心肺運動負荷試験 (CPX 検査) により運動耐容能をフォローした重症喘息児の 1 例	小野大地 梶間理人	岡島宏易 森本 彩	辻 徹郎 中島千恵子	第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会	2019 年 11 月 2～3 日	幕張市

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市		
International Guidelines for Groin Hernia Management 発表後の当科での術式選択	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 今村祐司	佐々木秀 新宅谷隆太 新原健介 中光篤志	香山茂平 平野利典	第 119 回日本外科学会定 期学術集会	2019 年 4 月 18～20 日	大阪府 大阪市
大きな陰嚢型鼠径ヘルニアに対する TAPP 法の有用性と困難性	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 今村祐司	佐々木秀 新宅谷隆太 新原健介 中光篤志	香山茂平 平野利典	第 17 回日本ヘルニア学 会学術集会	2019 年 5 月 24～25 日	三重県 四日市市
様々な腹膜前修復法が推奨されることによる、再発鼠径部ヘルニア治療の困難性	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 今村祐司	佐々木秀 新宅谷隆太 新原健介 中光篤志	香山茂平 平野利典	第 17 回日本ヘルニア学 会学術集会	2019 年 5 月 24～25 日	三重県 四日市市
前立腺全摘後鼠径ヘルニアに対する TAPP 法、Plug 法、Lichtenstein 法	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 今村祐司	佐々木秀 新宅谷隆太 新原健介 中光篤志	香山茂平 平野利典	第 17 回日本ヘルニア学 会学術集会	2019 年 5 月 24～25 日	三重県 四日市市
後期研修医による腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の習得への取り組み	新原健介 香山茂平 平野利典 今村祐司	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太	第 17 回日本ヘルニア学 会学術集会	2019 年 5 月 24～25 日	三重県 四日市市
前方到達法で修復した両側上腰ヘルニアの 2 例	岡本暢之 香山茂平 平野利典 今村祐司	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太 新原健介	第 17 回日本ヘルニア学 会学術集会	2019 年 5 月 24～25 日	三重県 四日市市
プラグ法後慢性疼痛に対して腹腔鏡下プラグ除去を行った 1 例	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太 岡本暢之	香山茂平 平野利典 柴田祥之	第 16 回中国四国ヘルニ ア手術研究会	2019 年 6 月 22 日	岡山県 岡山市
大腿ヘルニア嵌頓術後に肺血栓塞栓症を発生した 1 例	平野利典 栗田亜希 田崎達也	原田拓光 内藤浩之 立本直邦	海氣勇氣 小林 健	第 16 回中国四国ヘルニ ア手術研究会	2019 年 6 月 22 日	岡山県 岡山市

学会発表

当院で経験した大動脈十二指腸瘻の5例	海氣勇氣 平野利典 香山茂平 中光篤志	杉山陽一 新宅谷隆太 今村祐司	岡本暢之 田崎達也 佐々木秀	第74回日本消化器外科学会総会	2019年7月 17～19日	東京都
嵌頓鼠径部ヘルニアに対して腹腔鏡手術は第一選択となりうるか	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太 岡本暢之	香山茂平 平野利典 今村祐司	第74回日本消化器外科学会総会	2019年7月 17～19日	東京都
高齢者胃癌患者の術前サルコペニアが術後短期・長期成績に与える影響	杉山陽一 海氣勇氣 田崎達也 中光篤志	岡本暢之 平野利典 香山茂平	新原健介 新宅谷隆太 佐々木秀	第74回日本消化器外科学会総会	2019年7月 17～19日	東京都
臍頭十二指腸切除後の非アルコール性脂肪性肝疾患の発生と術前体組成の検討	新宅谷隆太 香山茂平 平野利典 岡本暢之	佐々木秀 田崎達也 海氣勇氣	中光篤志 杉山陽一 新原健介	第74回日本消化器外科学会総会	2019年7月 17～19日	東京都
原発性虫垂癌の術前CT評価と術式選択の検討	岡本暢之 平野利典 田崎達也 中光篤志	香山茂平 新宅谷隆太 佐々木秀	海氣勇氣 杉山陽一 今村祐司	第74回日本消化器外科学会総会	2019年7月 17～19日	東京都
成人臍ヘルニア嵌頓の治療成績	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 柴田祥之	佐々木秀 新宅谷隆太 岡本暢之 中光篤志	香山茂平 平野利典 向田敦史	第30回佐伯医学会総会	2019年11月 4日	廿日市市
TAPP法を第一選択としている当科における、非還納性鼠径ヘルニアに対するアプローチ	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 金子佑紀	佐々木秀 新宅谷隆太 岡本暢之 中光篤志	香山茂平 平野利典 向田敦史	第81回日本臨床外科学会総会	2019年11月 14～16日	高知県 高知市
成人臍ヘルニアの治療成績	田崎達也 杉山陽一	佐々木秀 新宅谷隆太	香山茂平 中光篤志	第72回広島医学会総会	2019年11月 24日	広島市
当院で経験した大動脈十二指腸瘻の5例	海氣勇氣 平野利典 香山茂平 中光篤志	杉山陽一 新宅谷隆太 今村祐司	岡本暢之 田崎達也 佐々木秀	第72回広島医学会総会	2019年11月 24日	広島市
Bilayer法術後遅発性メッシュ感染に対する手術の経験	田崎達也 杉山陽一 海氣勇氣 柴田祥之	佐々木秀 新宅谷隆太 岡本暢之 中光篤志	香山茂平 平野利典 向田敦史	第32回日本外科感染症学会総会	2019年11月 29～30日	岐阜県 長良川市
TAPP法において、鼠径部切開法より良好な成績を維持するために	田崎達也 杉山陽一 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太	香山茂平 平野利典	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019年12月 5～7日	神奈川県 横浜市
TAPP法におけるメッシュ選択の変遷とその成績、注意点	田崎達也 杉山陽一 中光篤志	佐々木秀 新宅谷隆太	香山茂平 平野利典	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019年12月 5～7日	神奈川県 横浜市
80歳以上高齢者胃癌における腹腔鏡下胃切除の有用性についての検討	杉山陽一 香山茂平 平野利典	中光篤志 田崎達也 海氣勇氣	佐々木秀 新宅谷隆太	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019年12月 5～7日	神奈川県 横浜市

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院実地臨床におけるER陽性乳癌に対するPalbociclibの使用経験	木村優里 板垣友子 大原正裕	第27回日本乳癌学会学術総会	2019年7月 11～13日	東京都
転移再発乳癌に対するEribulin投与の検討	板垣友子 木村優里 大原正裕 安井大介 川淵義治	第27回日本乳癌学会学術総会	2019年7月 11～13日	東京都
乳癌症例における背景正常乳腺のFDG-PETの取り込みに関わる因子の検討	大原正裕 木村優里 川淵義治	第27回日本乳癌学会学術総会	2019年7月 11～13日	東京都
HER2陰性進行・再発乳癌に対するBRCAanalysis診断によるコンパニオン診断の現状とOlaparibの治療経験	木村優里 板垣友子 大原正裕	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019年7月 18～20日	京都市

学会発表

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績と予後不良因子	山田清貴 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 福井博喜 藤本吉範	第48回日本脊椎脊髄病学会	2019年4月18～20日	横浜市
骨髄浮腫を伴う慢性腰痛に対する腰椎椎体間固定術の治療成績	丸山俊明 山田清貴 田中信弘 平松 武 橋本貴士 福井博喜 藤本吉範	第48回日本脊椎脊髄病学会	2019年4月18～20日	横浜市
骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの罹病期間別治療成績	山田清貴 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 福井博喜 藤本吉範	第91回西日本脊椎研究会	2019年5月31日	福岡市
骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの予後不良因子の検討	平松 武 山田清貴 田中信弘 橋本貴士 丸山俊明 福井博喜 藤本吉範	第91回西日本脊椎研究会	2019年5月31日	福岡市
Surgical outcomes of segmental posterior lumbar interbody fusion for low back pain associated with vertebral bone marrow edema	Toshiaki Maruyama, Kiyotaka Yamada, Nobuhiro Tanaka, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Hiroki Fukui, Yoshinori Fujimoto	46th International Society for the Study of the Lumbar Spine	2019年6月3～7日	京都市
Surgical outcomes of percutaneous endoscopic discectomy for adolescent lumbar disc herniation	Kiyotaka Yamada, Nobuhiro Tanaka, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Toshiaki Maruyama, Hiroki Fukui, Yoshinori Fujimoto	46th International Society for the Study of the Lumbar Spine	2019年6月3～7日	京都市
プロスポーツ選手に対する椎間孔・全内視鏡的腰椎椎間板ヘルニア摘出術	山田清貴 中前稔生 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 福井博喜 安達伸生 藤本吉範	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2019年6月13～15日	札幌市
Polymethylmethacrylate injection into the lumbar intervertebral-vacuum for low back pain and leg pain in elderly lumbar scoliosis	Takeshi Hiramatsu, Kiyotaka Yamada, Nobuhiro Tanaka, Takashi Hashimoto, Toshiaki Maruyama, Hiroki Fukui, Yoshinori Fujimoto	PASMISS2020	2019年8月8～10日	中国蘇州
骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの罹病期間別治療成績	山田清貴 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 福井博喜 藤本吉範	第27回日本腰痛学会	2019年9月13～14日	神戸市
骨髄浮腫を伴う慢性腰痛に対する腰椎椎体間固定術の治療成績	丸山俊明 山田清貴 田中信弘 平松 武 橋本貴士 福井博喜 藤本吉範	第27回日本腰痛学会	2019年9月13～14日	神戸市
Bone bonding rate of novel hybrid hydroxyapatite spacers in cervical laminoplasty.	Tanaka N, Nakanishi, K, Nakamae T, Yamada K, Adachi N, Fujimoto Y	34th Annual meeting Noth American Spine Society	September 25-28, 2019	Chicago, IL
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法の中長期成績	山田清貴 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 福井博喜 藤本吉範	第92回西日本脊椎研究会	2019年11月2日	広島市
高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄に対する低侵襲手術	平松 武 山田清貴 田中信弘 橋本貴士 丸山俊明 福井博喜 藤本吉範	第92回西日本脊椎研究会	2019年11月2日	広島市
特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験	福井博喜 田中信弘 山田清貴 橋本貴士 平松 武 丸山敏明 藤本吉範	第52回中四国整形外科学会	2019年11月23～24日	岡山県

形成外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
バイパス術後に植皮を行い治癒を得た重症虚血肢潰瘍の治療経験	長谷川美紗	第11回日本創傷外科学会総会・学術集会	2019年7月4～5日	長崎市

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
術前肺機能外来における診断治療の変遷	渡 正伸 熊田高志	第59回日本呼吸器学会	2019年4月12～14日	東京都
腹痛を契機に発見された13歳肺葉外分画症の1例	熊田高志 渡 正伸	第36回日本呼吸器外科学会	2019年5月16～17日	大阪市
肺癌術後の多臓器転移に対する化学療法中に肝病変のみ増大した症例	渡 正伸 熊田高志	第36回日本呼吸器外科学会	2019年5月16～17日	大阪市

学会発表

肺癌肺葉切除後の無症候性発作性心房細動の探索	渡 正伸 熊田高志	第36回日本呼吸器外科学会	2019年5月16～17日	大阪市
前縦隔軟部陰影に対して悪性リンパ腫を疑い生検術を実施した1例	渡 正伸 熊田高志	第68回日本農村医学会	2019年10月17～18日	帯広市
肺膿瘍破裂による続発性気胸に対し胸腔鏡下手術を行った1例	熊田高志 渡 正伸	第81回日本臨床外科学会	2019年11月14～16日	高知市
胸腔鏡下胸腺摘出術の術後7日目に出血を認め鏡視下に止血した1例	熊田高志 渡 正伸	第32回日本内視鏡外科学会	2019年12月5～7日	横浜市

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
5Fr 対応 LifeStent solo の有用性	小林 平 濱本正樹 小澤優道 原田拓光	日本血管外科学会	2019年5月22～24日	愛知県
重症虚血肢に対するチーム医療の意義	小林 平 濱本正樹 小澤優道 白川賢司	日本下肢救済・足病学会	2019年6月28～29日	兵庫県
腸骨動脈閉塞性病変に対する Viabahn VBX の初期成績	原田拓光 小林 平 濱本正樹 小澤優道	日本血管外科学会中四国地方会	2019年8月3日	山口県
CLI に対する外科手術と EVT の一期的血行再建は妥当か？	小林 平 濱本正樹 小澤優道 原田拓光	日本下肢救済・足病学会中四国地方会	2019年9月14日	鳥取県
透析患者の重症下肢虚血に対する治療戦略	小林 平 濱本正樹 小澤優道 原田拓光	日本脈管学会	2019年10月10～12日	東京都
間欠性跛行患者に対する血行再建術後の運動療法継続の効果	原田拓光 小林 平 濱本正樹 小澤優道	日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	2020年2月8日	岡山県

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
piezogenic pedal papules の1例	天野愛純香 田中友里恵 梅田直樹	日本皮膚科学会広島地方会	2019年9月1日	広島市
Atypical lipomatous tumor の1例	田中友里恵 天野愛純香 梅田直樹	日本皮膚科学会広島地方会	2019年9月1日	広島市
頭部血管肉腫の1例	天野愛純香 田中友里恵 梅田直樹	日本皮膚科学会広島地方会	2019年9月1日	広島市
ステロイド局注が奏効した肉芽腫性口唇炎の1例	田中友里恵 天野愛純香 梅田直樹	日本皮膚科学会広島地方会	2019年9月1日	広島市

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
気腫性膀胱炎を契機に診断された膀胱悪性リンパ腫の1例	田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会総会	2019年4月19日	名古屋市
過活動膀胱に対するピベグロンの臨床的検討	加藤昌生 田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 小深田義勝	日本排尿機能学会	2019年9月12日	東京都
腎細胞癌に合併した IgG4 関連腎臓病の1例	増本弘史 田坂 亮 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会東部総会	2019年10月5日	東京都
当院における腹腔鏡下仙骨腫固定術の初期経験	加藤昌生 田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 小深田義勝	広島泌尿器内視鏡研究会	2019年10月12日	広島市
腹腔鏡下に摘出した巨大ダンベル型神経鞘腫の1例	田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	広島泌尿器内視鏡研究会	2019年10月12日	広島市
非転移性去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの臨床的検討	田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会中部総会	2019年11月1日	大阪市
当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期治療成績	増本弘史 田坂 亮 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器内視鏡学会総会	2019年11月22日	京都市
当院における腹腔鏡下仙骨腫固定術の初期経験	加藤昌生 田坂 亮 赤坂保行 増本弘史 小深田義勝	農村医学会	2020年2月15日	広島市

学会発表

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院におけるエジンバラ産後うつ病自己調査表の結果と患者背景の検討	菅裕美子 小西晴久 佐々木美砂 高本晴子 中西慶喜	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	2019年4月 11～14日	名古屋市
卵巣原発印環細胞癌の1例	日比野佑美 佐々木美砂 小西晴久 高本晴子 中西慶喜	第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2019年7月 4～6日	新潟市
卵巣原発印環細胞癌の1例	日比野佑美 佐々木美砂 八幡美穂 中本康介 高本晴子 中西慶喜	第70回広島産科婦人科学会総会	2019年8月 25日	広島市
子宮内膜肥厚をきっかけに診断に至った卵巣顆粒膜細胞腫の1例	八幡美穂 中西慶喜 日比野佑美 小西晴久 佐々木美砂 高本晴子	第72回中国四国産科婦人科学会学術講演会	2019年9月 21～22日	米子市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
JA 広島総合病院における SLT の治療成績	馬場太郎 二井宏紀	第78回広島地方眼科学会	2019年11月 24日	広島市

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
胃透視後のバリウム貯留によるS状結腸穿孔の2例	谷本将一	第132回日本医学放射線学会中国四国地方会	2019年6月 14～15日	米子市
恥骨骨髄炎に腹直筋膿瘍および内転筋膿瘍を合併した1例	前田章吾	第133回日本医学放射線学会中国四国地方会	2019年12月 14～15日	松山市
iPadを利用した病院外での画像読影の有用性について	西原礼介	第133回日本医学放射線学会中国四国地方会	2019年12月 14～15日	松山市

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Perioperative anesthesia management for an autism spectrum disorder patient who was thought to be difficult to be hospitalized	Aya Oda	Asia Association for Disability and Oral Health (AADOH)	2019年4月 12～14日	Kaohsiung City Taiwan
3次元加速度センサーを用いた筋弛緩モニターの可能性	中尾正和 本多亮子 佐々木幹子 渡辺るみ 望月さや 松本千香子	日本麻酔科学会第66回学術集会	2019年5月 30日～6月 1日	神戸
ロクロニウムからの回復過程で、TOF数1出現とTOF数2出現の時間間隔から次のTOF数3、TOF数4の出現が予測できる	竹野典子 中尾正和 佐藤浩毅 山賀綾乃 古賀知道 村上俊介	日本麻酔科学会第66回学術集会	2019年5月 30日～6月 1日	神戸
デクスメトミジン塩酸塩にミダゾラムを併用した静脈内鎮静法管理症例の臨床統計学的研究	小田 綾	第47回日本歯科麻酔学会総会・学術集会	2019年10月 25～27日	岡山
骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨隆固定術の麻酔管理経験	清水美羽 中尾正和 古賀知道 本多亮子 佐々木幹子 佐藤浩毅 望月さや 河本佐誉子	日本臨床麻酔学会第39回大会	2019年11月 7～9日	軽井沢
本院障害者歯科で行った物理的コントロール併用意識下静脈内鎮静法管理症例に対する臨床統計学的研究	小田 綾	第36回日本障害者歯科学会総会および学術大会	2019年11月 22～24日	岐阜

歯科口腔外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
冷凍保存歯を利用した歯の自家移植を行った8例の検討	清野紗矢香 島末 洋 水田邦子 原田 直 武知正晃	第64回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会	2019年10月 25～27日	札幌市

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
蜂窩織炎との鑑別に苦慮し対応が遅れた壊死性筋膜炎の1例	堂埜恵理 岩本 桂 高場章宏 山本高嗣 河村夏生 加藤之紀 櫻谷正明 吉田研一	第35回日本救急医学会中国四国地方学術集会	2019年5月 17～18日	倉敷市

学会発表

シームレスな呼吸ケア・リハビリテーションを目指して	櫻谷正明	第5回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会	2019年7月27日	神戸市
抜管後呼吸不全予防における nasal NPPV と HFNC の比較	櫻谷正明 岩本 桂 荒田晋二 近藤文博	第41回日本呼吸療法医学会学術集会	2019年8月3～4日	大阪市
脳血管攣縮の増悪に伴い、経頭蓋エコーで中大脳動脈が同定できなくなった一例	堂埜恵理 岩本 桂 高場章宏 山本高嗣 河村夏生 加藤之紀 櫻谷正明 吉田研一	第48回日本救急医学会総会・学術集会	2019年10月2～4日	東京都千代田区
当院における脊髄硬膜外血腫のCTでの判別	岩本 桂 高場章宏 山本高嗣 堂埜恵理 筒井 徹 河村夏生 加藤之紀 櫻谷正明 吉田研一	第11回 Acute Care Surgery 学会学術集会	2019年10月25～26日	沖縄県国頭郡恩納村谷茶
日本版敗血症ガイドライン 2016 (J-SSCG2016) は一般医にも普及しているか	高場章宏 櫻谷正明 河村夏生 加藤之紀 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
当院におけるER受診患者のCT見逃し防止のための取り組みとその検討 (続報)	岩本 桂 高場章宏 山本高嗣 堂埜恵理 筒井 徹 河村夏生 加藤之紀 櫻谷正明 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
当院での急性期脳梗塞に対する初期診療プロトコルの使用に関する過去起点コホート	堂埜恵理 櫻谷正明 築家秀和 加藤之紀 河村夏生 高場章宏 松本丈雄 吉田研一 細貝昌弘 黒木一彦	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
チューブ内腔のインフレーションライン損傷によるカフリークのため気管チューブの入れ替えを行った症例	川口 晃 櫻谷正明 岩本桂 堂埜恵理 山本高嗣 高場章宏 河村夏生 加藤之紀 中尾正和 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
日本版敗血症診療ガイドライン 2020: 初期蘇生・ステロイドを知る	櫻谷正明 廣瀬智也 垣花泰之 松嶋麻子 ほか	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
当院で妊娠中にPICCを挿入した7症例についての考察	向井俊平 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 山本高嗣 河村夏生 加藤之紀 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
甲状腺クリーゼによる心停止、自己心拍再開後の循環不全に対し、VA-ECMOを導入し、救命した1例	松本丈雄 櫻谷正明 加藤之紀 河村夏生 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 山本高嗣 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
慢性腎臓病がなく適切な用量の酸化マグネシウム内服にもかかわらず、重度の高マグネシウム血症を来した1例	岩田和佳奈 櫻谷正明 加藤之紀 河村夏生 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 山本高嗣 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
壊死性腸炎の経過中に薬剤性過敏性症候群の合併を認めた1例	山本高嗣 加藤之紀 櫻谷正明 河村夏生 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市
突然の後頸部痛と左片麻痺を主訴に受診した脊髄内出血の1例	波多間浩輔 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 山本高嗣 河村夏生 加藤之紀 吉田研一	第47回日本集中治療医学会学術集会	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市

実績

地域救命救急センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
個人を対象とした動物介在活動と高齢者の情緒的健康・社会的で気配りのできるA氏の事例ー	坂本弥栄	日本看護研究学会第45回学術集会		大阪、大阪国際会議場
フィッシュの働きかけによるスタッフのモチベーションの向上効果ーハッピーメッセージ導入前後を比較してー	坂口伽奈 坂井利名 岡崎裕美	第68回日本農村医学会学術総会		北海道、とかちプラザ

東3階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
心不全患者の生活指導の現状～看護師アンケートから振り返る～	津之下真海 門内美鈴 石川恵子 新田克己 本間智明 藤原敬士 小林 平	第25回心臓リハビリテーション学会学術集会	2019年7月13～14日	大阪市
循環器病棟看護師における心不全緩和ケアに対する認識調査	佐藤里紗 門内美鈴 坂井里帆 赤澤良太 辻山修司	第23回日本心不全学会学術集会	2019年10月5～6日	広島市
心不全患者の生活指導の現状～看護師アンケートから振り返る～	津之下真海 門内美鈴 石川恵子 新田克己 本間智明 藤原敬士 小林 平	第68回日本農村医学会学術総会	2019年10月17～18日	帯広市

学会発表

東 6 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
保存期 CKD 患者に対する腎教育入院は腎機能維持に役立つのか	高見賢二	第 10 回日本腎臓リハビリテーション学会		東京

東 7 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
救済を目的としたチーム医療における看護師の役割と今後の課題	岡崎祐也 川室絵麻理 小林 平	第 1 回下肢救済フットケア学会中四国地方会	2019 年 9 月 14 日	倉吉市
医療と介護の連携強化に向けて～急性期病院と地域ケアマネージャーの交流会から～	辻 幸枝 中村 希 奥元直美 藤村雅子 川村洋子 馬場崎喜美子	第 68 回日本農村医学会学術総会	2019 年 10 月 17～18 日	帯広市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
外来心臓リハビリテーションへの薬剤師の関わり～冠危険因子に関する薬の調節～	向井一樹 大原由希子 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第 25 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2019 年 7 月 13～14 日	大阪
シンポジウム 6「さらなる救急・集中治療の秘薬を目指して」地域の拠点病院で薬剤師が行う臨床研究の可能性と障壁：アンケート調査と JSEPTIC-DIC dataset を用いた研究からの一考察	吉廣尚大	医療薬学フォーラム 2019	2019 年 7 月 13～14 日	広島
外来心臓リハビリテーションへの薬剤師の関わり～冠危険因子に関する薬の調節～	向井一樹 大原由希子 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第 29 回日本医療薬学会	2019 年 11 月 2～4 日	福岡
当院におけるナルデメジントシル酸塩使用状況調査	小川智恵子 磯貝明彦 藤原俊輔 橋本佳浩	第 29 回日本医療薬学会	2019 年 11 月 2～4 日	福岡
地域の拠点病院に勤務する薬剤師の臨床に関する調査・アンケート結果	小野塚和人 吉廣尚大 只佐正嗣 堀川俊二 橋本佳浩	第 29 回日本医療薬学会	2019 年 11 月 2～4 日	福岡
シンポジウム 臨床研究実施に必要な救急認定薬剤師の能力は何か？重症呼吸不全の敗血症に対する遺伝子組み換え型ヒト可溶性トロンボモジュリンの観察研究からの一考察	吉廣尚大	第 140 回日本薬学会	発表クレジット	京都
パネルディスカッション 30「PICS 予防・治療に対する栄養療法と早期リハビリテーション」集中治療退室後患者の自己管理能力に関する調査(第 2 報)	吉廣尚大 富田隆志 櫻谷正明 無漏田香穂 向井一樹 小野塚和人 橋本佳浩	第 47 回日本集中治療医学会年会	発表クレジット	愛知
優秀演題部門 集中治療退室後患者の自己管理能力に関する調査(第 2 報)	吉廣尚大 富田隆志 櫻谷正明 無漏田香穂 向井一樹 小野塚和人 橋本佳浩	第 47 回日本集中治療医学会年会	発表クレジット	愛知
パネルディスカッション 6「PICS 対策の実践～私たちはこうやっている～」What can pharmacists for PICS?	吉廣尚大 櫻谷正明 小野塚和人 無漏田香穂 向井一樹 富田隆志 加藤之紀 高場章宏 吉田研一 橋本佳浩	第 47 回日本集中治療医学会年会	発表クレジット	愛知
末梢動脈疾患患者における薬剤師の介入意義	吉次紗也加 向井一樹 稲田淑江 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第 5 回日本心臓リハビリテーション学会中国支部地方会	2020 年 2 月 8 日	岡山

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
分子疫学的解析 POT 法導入後の当院における MRSA の感染対策効果と動向	池部晃司 関 未来 長谷川文香 池田光泰 外丸香織 三舛正志 水野誠士	第 68 回日本医学検査学会	2019 年 5 月 18～19 日	下関市
血中 PCSK9 測定での若干の知見	福岡達仁 丸山恭平 水野誠士 藤井 隆 碓井裕史	第 59 回日本臨床化学会年次学術集会	2019 年 9 月 27～29 日	仙台市
経胸壁心エコー検査を契機に診断に至った冠静脈洞左房交通症の 1 例	本堂夏美 原千花子 北村紀恵 霜津宏典 川崎京子 小松浩基 水野誠士 渡邊義和 濱本正樹 藤井 隆	第 68 回日本農村医学会学術総会	2019 年 10 月 17～18 日	帯広市
当院の血液培養陽性症例における SOFA に基づく検出と臨床的背景の調査	関 未来	第 52 回中四国支部医学検査学会	2019 年 11 月 2～3 日	松江市
NST 回診における検査システムタブレット導入の実績と評価	小野 溪 村田竜也 池田光泰 福岡達仁 水野誠士	第 52 回中四国支部医学検査学会	2019 年 11 月 2～3 日	松江市

学会発表

自己検査用グルコース測定器（SMBG 機器）保守点検導入の取り組み	尾川 恵 丸山恭平 福岡達仁 水野誠士	第 52 回中四国支部医学 検査学会	2019 年 11 月 2～3 日	松江市
心雑音を契機に発見された若年者の心臓脂肪腫の一例～粘液腫との鑑別を含めて～	田淵奈津美 原千花子 北村紀恵 霜津宏典 小松浩基 水野誠士 濱本正樹 藤井 隆	第 52 回中四国支部医学 検査学会	2019 年 11 月 2～3 日	松江市
当院における緊急時の異型適合血の使用について	村田竜也 山本加代子 福岡達仁 水野誠士	第 30 回佐伯医学会	2019 年 11 月 4 日	廿日市市
広島県における ESBL 産生菌と CRE 検出の年次推移（2008～2018）	池田光泰	第 67 回日本化学療法学 会西日本支部総会	2019 年 11 月 7～9 日	浜松市
自己検査用グルコース測定器（SMBG 機器）保守点検導入の取り組み	尾川 恵 丸山恭平 福岡達仁 水野誠士	第 57 回日本糖尿病学会 総会	2019 年 12 月 6～7 日	徳山市
中国地区で検出されたカルバペネム耐性大腸菌の分子疫学解析	池田光泰	第 31 回日本臨床微生物 学会総会	2020 年 1 月 31 日～2 月 2 日	金沢市
術中脊髄神経モニタリング時における表面電極の使用について	丸山恭平 平松 武 今澤夏実 藤岡朋子 長尾 専 水野誠士 山田清貴 田中信弘 橋本貴士 藤本吉範	第 41 回脊髄機能診断研 究会	2020 年 2 月 1 日	東京都
全自動血液学検査機器における患者新鮮血と管理試料を用いた内部精度管理の試み	中島淑貴 猪丸祐美子 岡田未来依 本田 愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士	第 37 回広島県医学検査 学会	2020 年 2 月 15～16 日	広島市
経胸壁心エコー検査を契機に診断に至った冠静脈洞左房交通症の 1 例	本堂夏美 原千花子 北村紀恵 霜津宏典 川崎京子 小松浩基 水野誠士 渡邊義和 濱本正樹 藤井 隆	第 37 回広島県医学検査 学会	2020 年 2 月 15～16 日	広島市

実績

中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Dual Energy CT の物質密度画像を用いた脊椎圧迫骨折に伴う骨髄浮腫の検出	秋里恭平 西原礼介 岡崎 肇 廣延綾子 舛田隆則 山口裕之 船間芳憲	日本放射線技術学会	2019 年 4 月 11～14 日	横浜
Dual Energy CT の物質密度画像を用いた脊椎圧迫骨折に伴う骨髄浮腫の検出—胸椎と腰椎との比較—	秋里恭平 舛田隆則 山口裕之 西原礼介 岡崎 肇 廣延綾子 船間芳憲	日本放射線技術学会	2019 年 10 月 7～19 日	大阪

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
RST 立ち上げ時の苦悩と課題	荒田晋二	第 41 回日本呼吸療法医 学会学術集会	2019 年 8 月 3～4 日	大阪

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後に起こる嚥下障害発症要因とその対応—心臓リハビリテーションメンバーとして言語聴覚士ができることとは？—	上田雅美 後藤優佳 中谷すすか 杉本美里 小林 平	第 20 回日本語聴覚学 会	2019 年 6 月 28～29 日	大分市
PAD 患者のカンファレンスが持つ意義	本間智明 小林 平 村上嘉章 井場和敏 高桑 翼	第 25 回日本心臓リハ ビリテーション学会学術集 会	2019 年 7 月 13～14 日	大阪市
屋外歩行能力は PAD 患者の生命予後を改善する	高桑 翼 村上嘉章 本間智明 河野裕美 小島輝久 西谷喜子 小林 平	第 25 回日本心臓リハ ビリテーション学会学術集 会	2019 年 7 月 13～14 日	大阪市
心不全患者の嚥下障害を改善させるために何が 必要か？	上田雅美 小林 平 後藤優佳 中谷すすか 杉本美里 藤原敬士	第 25 回日本心臓リハ ビリテーション学会学術集 会	2019 年 7 月 13～14 日	大阪市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する Timed Up and Go Test の有用性	井場和敏 山田清貴 田中信弘 橋本貴士 平松 武 丸山俊明 福井博喜 村上嘉章 藤本吉範	第 27 回日本腰痛学会	2019 年 9 月 13～14 日	神戸市
小児重症喘息児に対して治療と心肺運動負荷試験 (CPX) を併用しながら運動耐容能をフォローした 3 症例	飛鷹恵理 辻 徹郎 岡島宏易 小野大地	第 29 回日本呼吸ケア・ リハビリテーション学会 学術集会	2019 年 11 月 11～12 日	名古屋市

学会発表

肺癌周術期に対する包括的呼吸リハビリテーション導入および術後合併症の予測指標について	飛鷹恵理 渡 正伸 熊田高志 近藤文博	第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	2019 年 11 月 11～12 日	名古屋市
当院糖尿病センター来院中患者の身体活動量と体組成の関係	井場和敏 佐藤昌永 村上嘉章 尾川 恵 中元美恵 河本良美 石田和史	日本糖尿病学会中国四国 地方会第 57 回総会	2019 年 12 月 6～7 日	徳島市
心リハ中の安全管理—急変対応シミュレーション勉強会の効果—	本間智明 藤原敬士 辻山修司 加藤之紀 吉田研一 竹野香織 村上嘉章 高桑翼 井場和敏 小林 平	第 5 回日本心臓リハビリ テーション学会中国支 部会	2020 年 2 月 8 日	岡山市
開心術後に脳幹梗塞を合併し嚥下障害を来した一例～二度の挿管から食事が自立できるまで～	新川すずか 上田雅美 後藤優佳 杉本美里 小林 平	第 5 回日本心臓リハビリ テーション学会中国支 部会	2020 年 2 月 8 日	岡山市
CKD 患者における早期リハビリテーションの重要性	井場和敏 小林 平 村上嘉章 藤原敬士	第 10 回日本腎臓リハ ビリテーション学会学術 集会	2020 年 2 月 22～23 日	東京都

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
AMI 患者に対する個別化栄養指導と行動変容	森田菜津美 河本良美 上田雅美 本間智明 小林 平	第 33 回日本冠疾患学会 学術集会	2019 年 12 月 13～14 日	岡山
重症下肢虚血患者に対する栄養介入について	政田采花 神田史那 河本良美 本間智明 小林 平	第 5 回日本心臓リハ ビリテーション学会中国 地方会	2020 年 2 月 8 日	岡山

学会での座長

腎臓内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第25回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	荒川哲次	一般演題ポスター17 看護一般2	2019年11月23～24日	広島市

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第62回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	糖尿病療養指導（運動・リハビリ療法1）	2019年5月25日	仙台市

消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第122回、日本消化器内視鏡学会中国支部例会	藤本佳史	一般演題 胆膵3	2019年6月30日	広島市
第123回、日本消化器内視鏡学会中国支部例会	藤本佳史	専修医奨励賞「胆・膵」	2019年11月30日	広島市
第123回、日本消化器内視鏡学会中国支部例会	古土井明	一般演題「食道」	2019年12月1日	広島市

小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第36回日本小児臨床アレルギー学会	辻 徹郎	一般演題	2019年7月27～28日	和歌山市
第56回日本小児アレルギー学会学術大会	辻 徹郎	ポスターセッション	2019年11月2～3日	幕張市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第17回日本ヘルニア学会学術集会	田崎達也	抗血栓療法患者に対する治療戦略	2019年4月18～20日	三重県四日市市
第16回中国四国ヘルニア手術研究会	田崎達也	一般演題	2019年6月22日	岡山県岡山市
第32回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	ヘルニア 手術手技 会陰ヘルニア・腰ヘルニア	2019年12月5～7日	神奈川県横浜市

整形外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第24回日本脊椎脊髄病学会	田中信弘	一般演題42（頸椎 OPLL）	2019年4月18～20日	横浜市
第92回日本整形外科学術集会	田中信弘	一般演題ポスター OPLL	2019年5月9～12日	横浜市
ICORS (International Combined Orthopaedic Research Societies)	Nobuhiro Tanaka	From virtual to real	2019年6月19～22日	Montreal
第27回日本腰痛学会	田中信弘	ランチョンセミナー	2019年9月13～14日	神戸市
第133回中部日本整形外科災害外科学会	田中信弘	主題10「神経根障害」	2019年9月20～21日	神戸市
運動器の健康を考える会 in Hiroshima	藤本吉範	講演II「骨粗鬆症治療戦略」	2019年10月5日	広島市
第34回日本整形外科学会基礎学術集会	田中信弘	一般演題ポスター「画像解析1 脊椎」	2019年10月17～18日	横浜市
第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	田中信弘	一般演題6「胸椎・胸腰椎・外傷」	2019年11月15～16日	つくば市
第52回中国・四国整形外科学会	田中信弘	症例報告10（脊椎内視鏡）	2019年11月23～24日	岡山市
第10回最小侵襲脊椎治療学会	山田清貴	主題5 脊椎骨粗鬆症に対するMIST1	2020年2月14～16日	神戸市

心臓血管外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本冠疾患学会	小林 平	シンポジウム	2019年12月14日	岡山県岡山市

学会での座長

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本麻酔科学会学会	中尾正和	P-MN03 ポスター モニター機器・麻酔器	2019年5月30日	神戸

救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第47回日本集中治療医学会学会	櫻谷正明	一般演題ポスター22	2020年3月6～8日 (誌上開催)	名古屋市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第68回日本医学検査学会	嶋田恵美	PSG 演題 273-275	2019年5月18～19日	山口市
第52回中四国支部医学検査学会	川崎京子	一般演題生理 97-99	2019年11月2～3日	松江市

中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本核医学技術学会	高畑 明	心臓収集・補正	2019年11月1日	愛媛県 松山市

感染防止対策室 (ICT・AST)

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第8回日本感染管理ネットワーク学会学会	今本紀生	ベーシックレクチャー	2019年5月24日	徳島市
第8回日本感染管理ネットワーク学会学会	今本紀生	一般演題	2019年5月24日	徳島市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
中国・四国エリア Web Seminar for VTE	VTE → 薬物療法と当院の院内対策→	辻山修司	2019年5月15日 Web	ブリストル・マイヤーズ スクイブ/ファイザー
大崎地区学術講演会	心不全いきいき施設の取り組み～心不全医療連携～	辻山修司	2019年6月19日 アイン/パルラ浦島（宮城県大崎市）	大崎地区医師会連合会/ 大崎薬師会/大塚製薬
地域で診る心不全と心房細動	心不全と心房細動～実地医家のための心不全講座～	辻山修司	2019年9月11日 廿日市市商工会議所	バイエル
第2回郡山心不全診療ネットワーク学術講演会	心不全診療における病診連携の重要性～心不全パンデミックに備えて～	辻山修司	2019年11月13日 ホテルプリシード郡山（福島県郡山市）	郡山心不全地域連携を考える会/大塚製薬
佐伯地区医師会学術講演会	心不全治療における体液管理のポイント～実地医家のための心不全講座2～	辻山修司	2020年2月25日 佐伯地区医師会館	佐伯地区医師会/佐伯区内科会/大塚製薬

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第33回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	明日からできる！1日1回インスリン治療のマネージメント	石田和史	2019年4月10日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本イーライリリー
庄原市医師会学術講演会	明日から実践！1日1回インスリン治療のマネージメント	石田和史	2019年4月11日 庄原赤十字病院（広島県庄原市）	庄原市医師会・広島県病院薬剤師会北支部・庄原赤十字病院・サノフィ
第34回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	処方工夫で改善した2型糖尿病症例	石田和史	2019年8月7日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・三和化学
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病の病態・生理と治療	石田和史	2019年8月30日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
第2回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー	ますます多彩になった経口血糖降下薬！今日こそ頭の中を整理しましょう！	石田和史	2019年9月15日 広島コンベンションホール（広島市東区）	第2回 中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー・小野薬品工業
糖尿病治療を考える会 in 三原	糖尿病地域連携、真に連携すべきものは何か？～糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2019年11月1日 三原シティホテル（広島県三原市）	小野薬品工業・アストラゼネカ
第35回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	処方工夫で改善した2型糖尿病症例 PART 2	石田和史	2019年12月11日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・協和発酵キリン

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
肝臓と糖代謝研究会	非アルコール性脂肪性肝疾患 NAFLD と2型糖尿病の両方向性マネージメントの重要性	兵庫秀幸	2019年4月11日 熊本市	肝臓と糖代謝研究会
第121回広島消化器病研究会	縮小後に再増大した稀な膵腫瘍の1例	原田 怜 石橋一樹 隅岡昭彦 古土井明 相坂康之 徳毛宏則	2019年4月13日 広島市	広島消化器病研究会
第121回広島消化器病研究会	膵がんの早期診断を目指した当院での取り組み	石橋一樹 野中裕広 兵庫秀幸 小松弘尚	2019年4月13日 広島市	広島消化器病研究会
第303回広島胃と腸疾患研究会	症例検討	石橋一樹	2019年4月23日 広島市	広島胃と腸疾患研究会、エーザイ

研究会講演・発表

第9回肥満と消化器疾患研究会	肝疾患における筋痙攣の実態調査	兵庫秀幸	2019年5月8日 金沢市	大塚製薬株式会社
第9回肥満と消化器疾患研究会	肝疾患における筋痙攣の現状と課題	兵庫秀幸	2019年5月8日 金沢市	大塚製薬株式会社
カルニチン欠乏症を考える会	カルニチン補充による肝臓サポート	兵庫秀幸	2019年5月14日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、大塚製薬株式会社
第20回岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会	膵がんの早期診断を目指した当院での取り組み	山下未紗 藤本佳史 進藤源太郎 野中裕広 石橋一樹 兵庫秀幸 古土井明 小松弘尚 相坂康之 徳毛宏則	2019年5月23日 大竹市	岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
Abbvie Liver Seminar	内服で治癒するC型肝炎	相坂康之	2019年6月18日 広島市	アブヴィ合同会社
第26回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	食道静脈瘤症例について～硬化療法と地固め療法～	山下未紗	2019年6月26日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、第一三共株式会社
第6回広島胆膵内科合同カンファレンス	閉塞性黄疸の1例	石橋一樹	2019年8月22日 広島市	大鵬薬品工業株式会社
広島胆膵カンファレンス	内科症例：膵体部腫瘍の1例	藤本佳史	2019年9月9日 広島市	広島胆膵グループ、株式会社ヤクルト
広島県西部地区 UC セミナー	診断に苦慮した5ASA 不耐の1例	古土井明	2019年9月26日 廿日市市	持田製薬
消化器懇話会スペシャル	膵癌と血栓症	進藤源太郎	2019年10月18日 廿日市市	大鵬薬品工業
第15回広島県消化器内視鏡技師研究会	今さら聞けないあんなこと Q & A ～内視鏡都市伝説～	小松弘尚	2019年10月27日 広島市	広島県消化器内視鏡技師会
広島西 IBD 医療連携講演会	長期寛解維持後に再燃した潰瘍性大腸炎の1例	山下未紗	2019年12月18日 廿日市市	杏林製薬

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第47回西日本小児アレルギー研究会	オマリズマブで治療し、心肺運動負荷試験（CPX 検査）により運動耐容能をフォローした重症喘息児の1例	小野大地	2019年8月17～18日 福岡市	西日本小児アレルギー研究会

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第18回 LPEC 研究会	成人女性鼠径部ヘルニアにおける腹腔鏡手術の利点と LPEC 法の位置づけ	田崎達也 岡本暢之 新原健介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇氣 中光篤志	2019年5月23日 三重県四日市市	
第20回岩国広島西部地区消化器疾患懇話会	急性腹症として発症した低異型度虫垂粘液性腫瘍の1例	岡本暢之 柴田祥之 金子佑妃 向田敦史 海氣勇氣 平野利典 新宅谷隆太 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	2019年5月23日 広島西医療センター	
広島西部地区 消化器がんセミナー	当院における Nivolumab 使用経験	海氣勇氣 杉山陽一 柴田祥之 向田敦史 岡本暢之 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	2019年7月5日 廿日市市	

研究会講演・発表

第15回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会	私が考えるシンプルな TAPP 法手技ーヘルニア嚢処理と背側剥離ー	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 中光篤志	2019年9月28日 宮城県仙台市	
第18回同門会研究報告会	原発性虫垂癌の術前 CT 評価と術式選択の検討	岡本暢之 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 向田敦史 柴田祥之	2019年10月26日 広島市	
科研製薬社外講師勉強会	腹部ヘルニア手術とセプラフィルム	田崎達也	2019年12月20日 広島市	科研製薬
第19回日本 LPEC 研究会	当科での成人 LPEC 法手技と成績ーLPEC 法は難しいー	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 向田敦史 柴田祥之 中光篤志	2020年1月12日 沖縄県那覇市	

実績

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第49回広島乳腺疾患研究会	HER2 陰性進行・再発乳癌に対する BRCAanalysis 診断によるコンパニオン診断の現状と Olaparib の治療経験	木村優里	2019年4月6日 広島市	広島乳腺疾患研究会・アストラゼネカ

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島廿日市市ロータリークラブ例会卓話	腰痛治療の最前線	田中信弘	2019年6月11日 広島市	広島廿日市市ロータリークラブ
第19回 ATST ミーティング 2019	腰椎椎体終板障害による腰痛に対する後方固定術	山田清貴	2019年7月20日 東京都	日本スライカー株式会社
第236回広島整形外科研究会	特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験	福井博喜	2019年7月20日 広島市	広島大学整形外科
第34回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病と骨粗鬆症性椎体骨折	山田清貴	2019年8月7日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会
AOSpine Advanced Course	頰椎変性疾患 手術適応、術式選択の決定のための重要なポイント	田中信弘	2019年8月30～31日 名古屋	AOSpine Japan
AOSpine Advanced Course	腰椎後方侵入手術：除圧固定術の完成度を高めるための工夫	田中信弘	2019年8月30～31日 名古屋	AOSpine Japan
第一三共社内講演会	脊椎疾患に対する疼痛治療の実際	田中信弘	2019年9月2日 広島市 第一三共広島支店	第一三共
第8回山口県運動器疼痛を考える会	骨粗鬆症性椎体骨折の治療法	山田清貴	2019年9月12日 山口市	山口県運動器疼痛を考える会
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	椎体骨折の治療意義と診断・治療の実際	山田清貴	2019年12月14日 東京都	メドトロニックソファモアダネック株式会社
Spine Basic Trainign Course	腰椎顕微鏡下除圧と CBT	山田清貴	2019年12月21～22日 川崎市	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー
第34回広島臨床骨関節研究会	頰椎性脊髄症の手術適応についてー骨粗鬆症、変形性関節症の治療も含めて	田中信弘	2019年10月4日 広島市	広島臨床骨関節骨関節研究会
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	骨粗鬆症性椎体骨折の治療選択肢と BKP 治療の実際	山田清貴	2020年1月18日 盛岡市	メドトロニックソファモアダネック株式会社
骨粗鬆症性椎体骨折治療のゴールと BKP の適応を考える会	罹病期間による BKP の治療成績と安全性の比較	山田清貴	2020年2月1日 東京都	メドトロニックソファモアダネック株式会社
AOSpine Principles Course	腰椎椎間板ヘルニア 病態・自然経過と診断法	田中信弘	2020年2月7～8日 川崎市	AOSpine Japan
AOSpine Principles Course	頸部神経根症・頸椎椎間板ヘルニア 保存療法、その限界と適応	田中信弘	2020年2月7～8日 川崎市	AOSpine Japan

研究会講演・発表

AOSpine Principles Course	臨床研究の実際 Use of AOPEER and Whats next in your research education	田中信弘	2020年2月7～8日 川崎市	AOSpine Japan
AOSpine Principles Course	脊椎・脊髄損傷 胸腰椎損傷：前方再建術と合併症対策	田中信弘	2020年2月7～8日 川崎市	AOSpine Japan

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第113回広島がん治療研究会	キートルーダを用いた3剤併用療法で連続性、同時多発性に免疫関連有害事象が出現した1例	渡 正伸 熊田高志	2019年8月24日 広島市	広島がん治療研究会

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第63回広島循環器病研究会	腸骨動脈閉塞性病変に対するViabahn VBXの初期成績	小林 平	2019年6月1日 広島市	広島循環器病研究会
第64回広島循環器病研究会	総大腿動脈閉塞性病変に対する内膜摘除術の遠隔期成績	原田拓光	2019年12月7日 広島市	広島循環器病研究会

皮膚科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区皮膚科症例検討会	紹介患者の症例報告	天野愛純香	2019年10月17日 廿日市市	鳥居薬品

泌尿器科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島泌尿器科医会	当院におけるタダラフィルの使用経験	加藤昌生	2019年7月27日 広島市	日本新薬
佐伯地区医師会学術講演会	排尿障害の最近の話題	加藤昌生	2019年12月24日 廿日市市	佐伯地区医師会

眼科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第286回広島眼科症例検討会	新しい眼内レンズ挿入システム XY1-SPの使用経験	二井宏紀	2019年5月26日 広島市	広島大学

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第317回広島放射線診断カンファレンス	Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例	岩田和佳奈	2019年4月4日 広島大学	
第323回広島放射線診断カンファレンス	胃透視後のバリウム貯留によるS状結腸穿孔の1例	谷本将一	2019年6月6日 広島大学	
第335回広島放射線診断カンファレンス	腸管気腫症の1例	安岡悠希	2019年10月3日 広島大学	
第337回広島放射線診断カンファレンス	特発性肺線維症について 2018年IPFガイドライン	前田章吾	2019年10月24日 広島大学	
第30回佐伯医学会総会	α -グルコシダーゼ阻害薬による腸管気腫症の1例	安岡悠希	2019年11月4日 廿日市市商工保健会館	
第346回広島放射線診断カンファレンス	脳静脈血栓症の1例	前田章吾	2020年2月6日 広島大学	
第4回広仁会佐伯支部総会	当院救命救急センターで経験した珠玉の症例の数々	西原礼介	2020年2月13日 宮島コーラルホテル	

研究会講演・発表

救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
呼吸療法セミナーⅡ 疾患について	ARDS 異質性と個別化	櫻谷正明	2019年11月16日 名古屋	愛知県臨床工学技士会

健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
農村医学に関する調査研究報告会	超音波エラストグラフィを用いた非アルコール性脂肪肝疾患対策	碓井裕史	2019年11月29日 高岡厚生連病院（富山）	

看護科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
看護管理学	看護管理	佐藤澄香	2019年5月13日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
看護管理学	看護管理	佐藤澄香	2019年5月22日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
医療安全	医療安全	村中好美	2019年7月18～19日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
ジェネラリスト研修	運動器疾患の理解とケア	馬場崎喜美子	2019年11月4日 広島県看護協会	広島県看護協会

西7階病棟

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
膵がん教室ワークショップ2019	膵がん・胆道がん教室不参加者の実態調査	吉松美咲	2019年12月7日 大阪国がんセンター	膵がん教室研究会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第33回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病合併症心不全患者へのSGLT-2阻害薬併用例	瀧口幸子	2019年4月10日 広島県廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会／広島県医師会糖尿病対策推進会議／日本イーライリリー
2019年度院内集合研修第1回NST研修会	TPN導入・中止時の代謝性合併症予防について	山崎貴司	2019年5月17日 JA広島総合病院	
第1回院内感染対策研修会・AST研修会	抗菌薬適正使用について	角井 碧	2019年5月24日 JA広島総合病院	
第2回医療安全研修会	薬剤安全研修 誤薬について「患者誤認事例から考える」	角井 碧	2019年6月20日 JA広島総合病院	
広島西部地区 消化器がんセミナー	当院におけるNivolumab治療の現状	埋橋賢吾	2019年7月5日 JA広島総合病院	小野薬品／プリストルマイヤーズスクイブ／JA広島総合病院
第8回JSEPTIC薬剤師部会セミナー	Neuro-pharmaceutical management	吉廣尚大	2019年8月3日 大阪市立大学附属病院	JSEPTIC
広島感染制御薬剤師セミナーアドバンスコース	左視床出血後発熱を呈した症例	吉廣尚大	2019年9月3日 広島大学病院広仁会館	広島県病院薬剤師会／MSD
第3回院内感染対策研修会・AST研修会	抗菌薬の基礎	角井 碧	2019年9月10日 JA広島総合病院	
消化器懇話会スペシャルー地域医療従事者のための研修会ー	肺癌に対する化学療法の現状	藤原俊輔	2019年10月18日 JA広島総合病院	大鵬薬品工業
2019年度広島県病院薬剤師会研究発表会	保険薬局を対象とした病院薬剤師との連携に関するアンケート調査	白井敦史	2019年11月16日 広島県薬剤師会館	広島県病院薬剤師会
第7回医療安全研修会	麻薬の管理について	角井 碧	2019年11月27日 JA広島総合病院	
第5回院内感染対策研修会	インフルエンザについて 共同演者	角井 碧	2019年12月5日 JA広島総合病院	

研究会講演・発表

第 17 回市民公開講座	抗がん剤治療って本当のところどうなの？	埋橋賢吾	2019年12月8日 廿日市文化ホール	JA 広島総合病院／廿日市市・差益地区医師会／大竹市／大竹市医師会／JA 佐伯中央
地域癌診療連携拠点病院緩和ケア研修会	緩和ケアの基本的「き」がん性疼痛編 医療用麻薬の基本～オピオイドってどう使うの？～	藤原俊輔	2019年12月12日 JA 広島総合病院	
第 20 回広島循環器薬物治療研究会	慢性心不全の急性増悪を繰り返す症例に対する薬剤師の関わり～HFref患者の症状緩和に介入した1例～	無瀬田香穂	2020年2月3日 広島市民病院講堂	広島循環器薬物治療研究会／広島県病院薬剤師会／トーアエイヨー

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 2 回臨床一般部門研修会	2019年度広島県医師会フォトサーベイ一般報告	荒瀬美幸	2019年8月24日 広島赤十字原爆病院	広臨技 一般部門
第 46 回広島感染症研究会	中国地区で検出されたカルバペネム耐性大腸菌の分子疫学解析	池田光泰	2019年11月23日 広島市	Meiji Seika ファルマ

中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
CTテクノロジー第57回勉強会	当院の3D～家内制手工業～	都築晋治	2019年8月20日 エーザイ広島コミュニケーションオフィス	広島CT技術研修会・エーザイ
診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー	当直で役立つ救急CTを学ぼう	山口裕之	2019年8月25日 広島大学病院	日本診療放射線技師会
第42回安芸RI倶楽部勉強会	核医学検査の状況と骨シンチの運用、検査の実際	高畑 明	2019年9月26日 JR 鉄道病院	富士フィルム富山化学
奈良CR研究会	1Shot法によるエネルギーサブトラクション FPDの可能性	柳井 環	2019年11月16日 大和郡山市商工会	奈良CR研究会
中国・四国部会第43回核医学夢工房	SPECT画像の分解能	高畑 明	2020年1月25日 岡山大学病院	日本放射線技術学会

臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第15回広島県消化器内視鏡技師研究会および機器取り扱い講習会	内視鏡洗浄消毒装置の更新について～デモンストレーションによる比較検討～	藤田雄樹	2020年10月27日 広島県	

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	骨折しないための運動	井場和敏	2019年8月7日 広島	三和科学研究所
広島動脈硬化化活動を考える会	きって歩いてこそPAD患者に対するリハビリテーション	本間智明	2019年11月16日 広島	広島動脈硬化化症を考える会 興和創薬株式会社

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Diabetes Seminar ～基本から見直す糖尿病診療～	患者さんの味方になる栄養指導	河本良美	2020年2月1日 シェラトングランドホテル	小野薬品工業
第42回広島県農村医学研究会	高齢者2型糖尿病患者の体組成と食事に関する検討	松下有紀	2020年2月15日 JAビル	JA 広島厚生連

研究会講演・発表

感染防止対策室 (ICT・AST)

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
NPO 法人ひろしま感染症ネットワーク研修会	感染管理に関する医療材料の導入と適正使用への取り組み	今本紀生	2019年6月22日 広島大学 (広仁会館)	NPO 法人ひろしま感染症ネットワーク 杏林製薬株式会社ヘルスケア事業部

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
薬物療法セミナー～腎機能と抗血栓療法を考える～	辻山修司	①抗血栓療法とビタミンKの重要性 ②心房細動合併虚血性心疾患に対するこれからの併用療法	①中島 歩②塩出宣雄	2019年5月27日 ホテル広島サンプラザ	ブリストル・マイヤーズスクイブ／ファイザー
心不全緩和ケアを考える会	辻山修司	①患者が求める心不全緩和医療 ACP から考えてきたこと ②治療と併存する心不全の緩和ケア	①赤澤良太②大石醒悟	2019年10月25日 JA 広島総合病院大会議室	佐伯地区医師会／大塚製薬
広島動脈硬化治療を考える会	辻山修司	一般演題①大切断前に血行再建を行えた膝関節壊死の1例 ②立って歩いてこそ～PAD患者に対するリハビリテーション～	①吉武美香②本間智朗	2019年11月12日 シェラトングランドホテル広島	興和／興和創薬

腎臓内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	透析患者にカルニチン補充療法は必要か？	阿部雅紀	2019年5月14日 JA 広島総合病院大会議室	大塚製薬株式会社／佐伯地区医師会／佐伯地区内科会
Fluid Management Seminar	荒川哲次	腎生検と検査値から見つかる血液疾患	平塩秀磨	2019年9月5日 廿日市市	武田薬品工業株式会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	慢性腎不全の進展予防～病態に応じた治療戦略～	入福泰介	2019年9月24日 廿日市市	佐伯地区医師会／佐伯地区内科会／田辺三菱製薬株式会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	原発性アルドステロン症の診断と治療	沖 健司	2019年11月21日 広島市	第一三共株式会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	CKD 患者における高カリウム血症	土井盛博	2019年12月9日 広島市	興和創薬株式会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	CKD 患者の糖尿病治療～SGLT2 阻害剤の使用経験～	土井盛博	2020年1月20日 広島市	興和創薬株式会社

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会学術講演会	石田和史	糖尿病患者さんに寄り添う神経障害の診療～ミロガバリンへの期待～	鹿児島大学病院 糖尿病・内分泌内科 診療講師 出口尚寿先生	2019年4月23日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	第一三共
Diabetes Seminar in Hiroshima	石田和史	CGM、CSII、SAP — update —	東京慈恵医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 西村理明先生	2019年11月8日 TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋（広島市南区）	サノフィ

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
臨床内科研究会 in Saiki	徳毛宏則	酸分泌抑制剤の安全師を考える	春間 賢	2019年6月17日 廿日市市	武田薬品、大塚製薬
第26回、Regional Interactive G.I. Doctors' Network	相坂康之	肝疾患薬物療法 UP DATE	相方 浩	2019年6月26日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、第一三共株式会社
第15回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム	兵庫秀幸	セッションIV NASH・線維化・再生		2019年7月6日 広島市	広島肝臓プロジェクト研究センター
広島県西部地区 UC セミナー	小松弘尚	実地医家における潰瘍性大腸炎の基本治療	横山 正	2019年9月26日 廿日市市	持田製薬
IDB EXPERT SEMINAR in Hiroshima	徳毛宏則	潰瘍性大腸炎治療の GMA をサポートするアミノサリチル酸製剤の世界	吉岡京子	2019年9月27日 廿日市市	株式会社 GIMRO
消化器懇話会スペシャル	藤本佳史	膵胆道疾患に対する内視鏡診療の進歩	原 和生	2019年10月18日 廿日市市	大鵬薬品工業

研究会座長

広島西 IBD 医療連携講演会	古土井明	長期寛解維持後に再燃した潰瘍性大腸炎の一例	山下未紗	2019年12月18日 廿日市市	杏林製薬
広島西 IBD 医療連携講演会	小松弘尚	UC 治療における 5-ASA 製剤の適正化と島根県の IBD 医療連携の現状	川島耕作	2019年12月18日 廿日市市	杏林製薬

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
台 14 回広島気道アレルギー研究会	岡島宏易	小児アレルギー疾患のアドヒアランスについて	長尾みづほ	2019年10月11日 広島市	
重症喘息 Meeting in Hiroshima	岡島宏易	小児重症喘息の最新治療ストラテジー	吉原重美	2019年11月21日 広島市	ノバルティスファーマ株式会社

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部地区 消化器がんセミナー	中光篤志	胃がんにおける最先端の治療戦略	高張大亮	2019年7月5日 廿日市市	小野薬品工業株式会社 プリストルマイヤーズスクイブ株式会社
第 19 回日本 LPEC 研究会	田崎達也	ビデオシンポジウム「小児 LPEC 法の手技」		2020年1月20日 沖縄県那覇市	

整形外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 236 回広島整形外科研究会	橋本貴士	第 1 部	渡辺 能 他	2019年 広島市	広島大学整形外科
第 236 回広島整形外科研究会	平松 武	第 2 部	岡田庸平 他	2019年 広島市	広島大学整形外科
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	山田清貴	予後予測に基づいた BKP の至適介入時期	豊田宏光	2019年12月14日 東京都	メドトロニック ファモアダネック株式会社
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	山田清貴	ADL 維持のための BKP 介入時期による比較検討	山本至宏	2019年12月14日 東京都	メドトロニック ファモアダネック株式会社
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	山田清貴	BKP 治療における骨粗鬆症治療の重要性	安岡宏樹	2019年12月14日 東京都	メドトロニック ファモアダネック株式会社
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	山田清貴	骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨粗鬆症リエゾンサービス介入の必要性	酒井 翼	2019年12月14日 東京都	メドトロニック ファモアダネック株式会社
骨粗鬆症性椎体骨折治療を考える会	山田清貴	地域医療における BKP 治療の実際	小熊大士	2020年1月18日 盛岡市	メドトロニック ファモアダネック株式会社

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 63 回広島循環器病研究会	小林 平	セッション 1	医師	2019年6月1日 広島市	広島循環器病研究会
広島動脈硬化を考える会	小林 平	Special lecture	曾我芳光	2019年11月12日 広島市	興和創薬株式会社
第 64 回広島循環器病研究会	小林 平	講演第 1 部	医師	2019年12月7日 広島市	広島循環器病研究会
Fusion EVT Conference 2020	小林 平	一般演題	医師	2020年1月11日 広島市	カネカメディックス株式会社
第 22 回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	小林 平	講演第 1 部	医師	2020年1月18日 岡山県	日本メドトロニック株式会社

研究会座長

皮膚科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区皮膚科症例検討会	梅田直樹	紹介患者の症例報告	天野愛純香	2019年10月17日 廿日市市	鳥居薬品
佐伯地区皮膚科症例検討会	梅田直樹	紹介患者の症例報告	田中友里恵	2019年10月17日 廿日市市	鳥居薬品

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	生殖医療における漢方診療の 基本と秘訣	中山 毅	2019年6月13日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会、西 部地区産婦人科医 会、クラシエ薬品株 式会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	子宮内膜症に対する腹腔鏡手 術と薬物療法	明樂重夫	2019年9月26日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会、西 部地区産婦人科医 会、バイエル薬品株 式会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	便秘診療についての最近の話 題	上野義隆	2019年11月7日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会、西 部地区産婦人科医 会、持田製薬株式会 社

耳鼻咽喉科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯区医師会 学術講 演会	高本宗男	特別講演『One airway, one disease』に基づくアレルギー性 鼻炎の治療』	石野岳志 (広島大学病院 講師)	2019年6月25日 廿日市市 佐伯区医 師会館	佐伯地区医師会・佐 伯地区内科会・大鵬 薬品工業株式会社

看護科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第42回広島県農村医 学研究會	村中好美	Aグループ (3席)		2020年2月15日 JAビル10階講堂	広島県農村医学研究 會
第30回佐伯医学会総 会	佐藤澄香	一般演題		2020年11月4日 廿日市市商工保健会 館	一般社団法人 佐伯 地区医師会

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第29回広島腎と薬剤 研究会	角井 碧	抗菌薬適正使用支援チームと 腎～UTIに関して～	山田啓太	2020年2月7日 TKP ガーデンシティ 広島	広島腎と薬剤研究会

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第2回感染症対策・未 来創造ミーティング中 国四国地区	池部晃司	VITEK だからこう使える!!	須々井尚子	2019年10月19日 岡山市	ピオメリュー・ジャ パン
第2回感染症対策・未 来創造ミーティング中 国四国地区	池部晃司	FilmArray を検討してみよう!!	田寺加世子	2019年10月19日 岡山市	ピオメリュー・ジャ パン
第2回感染症対策・未 来創造ミーティング中 国四国地区	池部晃司	迅速検査で臨床貢献しよう!!	岩崎沙織	2019年10月19日 岡山市	ピオメリュー・ジャ パン
第3回 臨床一般部門 研修会	荒瀬美幸	UF-5000 での新たな臨床貢献	姥名秀峰	2020年1月18日 広島赤十字原爆病院	広臨技 一般部門

研究会座長

中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第18回高速らせんCT技術セミナー	田丸隆行	最新の話	Hao.Zhong / 山崎和人	2019年6月8日 広島市民病院	富士製薬工業株式会社
第18回高速らせんCT技術セミナー	山口裕之	心臓CTの新たな潮流～CT Perfusionを臨床に活かす～	城戸輝仁	2019年6月8日 広島市民病院	富士製薬工業株式会社
広島国際フォーラム	秋里恭平	異なる造影剤濃度が仮想単純CT画像に与える影響についての検討	河本佳則	2019年8月3日 広島インテス	バイエル薬品株式会社
広島県診療放射線技師会 2019年度第2回研修会	山口裕之	前立腺癌の診断と治療～ロボット支援手術～	望月英樹	2019年9月1日 広島赤十字・原爆病院	広島県診療放射線技師会
第30回広島GEMRIユーザーズミーティング2019	本山貴志	MRエラストグラフィー	穂山雄次	2019年9月7日 広島市安佐南区民分 化センター	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
広島GE-MRユーザーズミーティング第54回初級者コース	重田祐輔	「手関節の撮像について」「MRI FAQ よくある質問コーナー」	藤原 稔 須釜 亨	2019年11月8日 広島市西区民文化センター	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
第43回安芸RI倶楽部勉強会	高畑 明	核医学の安全管理	渡邊 浩	2020年2月12日 JR鉄道病院	富士フィルム富山化学

栄養科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
NSTを本音で語る会 秋期合宿	八幡謙吾	一般演題		2019年9月22日 安芸グランドホテル	共催：日本静脈経腸栄養学会、NSTを本音で語る会、株式会社クリニコ、アボットジャパン株式会社、テルモ株式会社

地域活動

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
あいプラザまつり「測ります!! あなたの筋肉貯きん(筋)～糖尿病予防のカギはサルコペニア(筋肉減少症) 予防にあり～」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2019年11月3日 廿日市市	あいプラザ(広島県廿日市市)	59人
2019年度廿日市市糖尿病予防教室 公開講座「血糖値が高いことは何を意味するのか?～糖尿病予防の重要性～」	石田和史	糖尿病予備群を指摘された一般住民	2019年11月17日 廿日市市	あいプラザ(広島県廿日市市)	72人

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
パープルライト in 広島 2019 メッセージをよせて	藤本佳史	一般市民	2019年4月6日 廿日市市	NPO法人パンキャンジャパン、NPO法人パンキャンジャパン広島支部、NPO法人広島がんサポート	
どうする臍のう胞?～臍疾患のup to date～	藤本佳史	一般市民	2019年4月9日 廿日市市	佐伯区医師会	
ひろしま医療情報ネットワーク(HMネット) 2019年度 開示病院の意見交換会「廿日市市胃内視鏡検査の二重読影」	徳毛宏則	関係者	2019年11月28日 広島市	広島県、広島県医師会	約40人
在宅緩和ケア研修「緩和ケアの総論」	小松弘尚	医療従事者	2019年12月19日 大竹市	広島県西部地域保健対策協議会、大竹市医師会、佐伯地区医師会	

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
廿日市市保育士研修会	辻 徹郎	保育士	2019年8月6日 あいプラザ	廿日市市	109人
廿日市市保育士研修会	辻 徹郎	保育士	2019年11月12日 あいプラザ	廿日市市	
食物アレルギー講習会	辻 徹郎	医療関係者、園・学校関係者	2019年11月9日 広島県医師会館	広島県医師会	
食物アレルギー講習会	辻 徹郎	医療関係者、園・学校関係者	2019年11月30日 県民文化センターふくやま	広島県医師会	

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
まちなかりボンサロン	大原正裕	乳がん患者	2019年4月6日 広島市	NPO法人まちなかピンクリボンプロジェクト	50人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	2019年9月10日 津田市民センター	廿日市市	20人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	2019年10月10日 串戸市民センター	廿日市市	10人
広島乳がんアカデミア	大原正裕	一般市民	2019年10月20日 広島市	NPO法人まちなかピンクリボンプロジェクト	500人
みんなで知ろう乳癌のこと	厚井裕三子	一般市民	2019年11月29日 平良市民センター	廿日市市	10人
みんなで知ろう乳癌のこと	梶谷桂子	一般市民	2020年1月31日 大野市民センター	廿日市市	10人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	2020年2月6日 地御前市民センター	廿日市市	100人
みんなで知ろう乳癌のこと	大原正裕	一般市民	JA 宮内	JA	8人

地域活動

呼吸器外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
がん教育に関する講演	渡 正伸	学校関係者、 学校医など	2019年6月29日 廿日市市交流会館	廿日市市学校保健会総会	約200人

緩和ケア科／緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
在宅緩和ケア研修「緩和ケアの総論」	小松弘尚	医療従事者	2019年12月19日 大竹市	広島県西部地域保健対策協議会、大竹市医師会、佐伯地区医師会	
在宅緩和ケア研修「緩和ケア総論と今後」	小松弘尚	地域包括支援センター、医療・福祉関係機関、介護保険施設等で介護に従事する者、在宅医療・介護連携の相談支援窓口に従事する者、在宅緩和ケアの知識を深めたい者 等	2020年2月26日 広島県西部保健所	広島県西部地域保健対策協議会	78人
在宅緩和ケア研修「病院から在宅へワンチームで～多職種でみる在宅緩和ケア～相談員編」	正島忠貴	地域包括支援センター、医療・福祉関係機関、介護保険施設等で介護に従事する者、在宅医療・介護連携の相談支援窓口に従事する者、在宅緩和ケアの知識を深めたい者 等	2020年2月26日 広島県西部保健所	広島県西部地域保健対策協議会	78人
在宅緩和ケア研修「病院から在宅へワンチームで～多職種でみる在宅緩和ケア～在宅編」	古本直子	地域包括支援センター、医療・福祉関係機関、介護保険施設等で介護に従事する者、在宅医療・介護連携の相談支援窓口に従事する者、在宅緩和ケアの知識を深めたい者 等	2020年2月26日 広島県西部保健所	広島県西部地域保健対策協議会	78人

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
頭と体の体操	秋元深雪	JA 組合員 女性部	2019年6月26日 大野第2集会所	JA 佐伯中央	23人
骨粗しょう症予防の健康教室	南浦美樹	JA 組合員 女性部	2019年7月29日 JA 安芸小屋浦支店	JA 安芸	27人
生活習慣病予防	林 彩	新規就農者	2020年2月12日 JA 中央会	JA 広島中央会	20人
人生100年時代のフレイル対策	関 江里	JA 組合員 女性部	2020年2月20日 大野第3区集会所	JA 佐伯中央	29人

看護科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年3月18日 五日市記念病院	五日市記念病院	20人程度
「医療安全」講師	村中好美	佐伯区医師会 会員病院職員	2020年5月16日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	60人程度
地域医療従事者研修会講師	村中好美	地域医療従事者	2020年5月23日 JA 広島総合病院 大会議室	JA 広島総合病院 地域医療連携室	20人程度
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年7月4日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	60人程度
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年10月10日 大野浦病院	大野浦病院	80人
「医療安全」講師	村中好美	佐伯区医師会 会員病院職員	2020年11月21日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	50人程度

地域活動

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS	吉廣尚大	初期研修医	2019年4月6日 JA 広島総合病院	教育研修科	10人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2019年6月22～23日 大阪市立総合医療センター	CCPAT	60人
地御前ご長寿会講演	中島恵子	地域住民	2019年7月4日 地御前公民館	地御前町内会	60人
堀中町・堀森町町内会 合同敬老会講演	中島恵子	地域住民	2019年10月6日 堀中町公民館	堀中町町内会	30人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2019年11月9～10日 大阪市立総合医療センター	CCPAT	60人
地御前地区自治会 講演会	中島恵子	地域住民	2019年11月22日 地御前公民館	地御前町内会	50人
JMECC	吉廣尚大	医師	2020年1月18日 JA 広島総合病院	日本内科学会	5人
FCCS	吉廣尚大	医療従事者	2020年2月8～9日 広島大学病院	CCPAT	60人

中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島国際大学 臨床実習前講義 (核医学)	高畑 明	学生	2019年4月17日 広島国際大学東広島 キャンパス	広島国際大学	80人
広島国際大学 臨床実習前講義 (CT 臨床)	貝原雄也	学生	2019年4月18日 広島国際大学東広島 キャンパス	広島国際大学	80人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2019年8月17～18日 広島大学病院	日本診療放射線技師会	20人
レントゲン週間イベント	山口裕之	市民	2019年11月3日 シャレオ中央広場	広島県診療放射線技師会	400人

リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
いきいき健康運動教室	井場和敏	一般市民	2019年10月29日 佐方集会所	佐方アイラブ自治会	20人
ちょっと一息医療と福祉の相談室	上田雅美	一般市民	2019年11月13日 串戸公民館	廿日市市五士師会	30人
知らないと命取り!! 高齢者に多い嚥下障害とは??	後藤優佳	一般市民	2020年1月28日 佐方集会所	佐方アイラブ自治会	20人

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
がんサロン 講師「楽しく食べる。。。」	河本良美	がん患者・医療従事者	2019年4月22日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	7人
2019年度佐方西ブロックお茶の会 (サロン) 講師「食事からはじめる! 『健康寿命』をのばすコツ」	長曾我部弘子	佐方西ブロックの住民	2019年11月26日 佐方西集会所	佐方アイラブ自治会 佐方福祉事業局福祉協力部	17人
第18回市民公開講座「知ろう腎臓病、考えよう栄養」 「腎臓病何でもQ & A」 回答者	三浦満美子	腎臓病患者	2019年11月30日 国保会館	広島腎臓御栄養研究会	72人

感染防止対策室 (ICT・AST)

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島グリーンヒル病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年4月2日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	40人
市町村保健活動協議会支部研修会	今本紀生	保健師 (廿日市市)	2019年6月11日 廿日市市役所	広島県市町村保健活動協議会廿日市支部	20人

地域活動

ひろしま感染症ネットワーク研修会	今本紀生	医療従事者	2019年6月22日 広島大学病院	ひろしま感染症ネットワーク	60人
佐伯区医師会 MRM 講演会	今本紀生	医療従事者	2019年7月18日 佐伯区医師会	佐伯区地域福祉センター	50人
山陽看護専門学校 講義「医療安全」	今本紀生	医療従事者	2019年7月19日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
広島グリーンヒル病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年8月22日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	130人
広島県看護協会研修会「感染管理【実践編】」	今本紀生	医療従事者	2019年9月26日 広島県看護協会	広島県看護協会	70人
阿品土谷病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年10月7日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
アマンリハビリテーション病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年10月10日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	70人
高齢者福祉施設研修会	今本紀生	医療従事者	2019年11月12日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	30人
地域医療従事者研修会	今本紀生	医療従事者	2019年11月14日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	40人
大野浦病院 施設内研修会	今本紀生	医療従事者	2019年11月27日 大野浦病院	大野浦病院	100人
広島県看護連盟廿日市支部研修会	今本紀生	医療従事者	2019年11月30日 JA 広島総合病院	看護連盟廿日市支部	20人
佐伯区医師会 MRM 講演会	今本紀生	医療従事者	2020年1月16日 佐伯地区医師会	佐伯地区医師会	70人
新型インフルエンザ実施研修	今本紀生	医療従事者	2020年1月22日 あいプラザ	広島県西部地域保健対策協議会	50人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	Web 講演会（インターネット配信）	ノボノルディスクファーマ	2019年8月29日
石田和史	明日から実践！1日1回インスリン治療のマネージメント	Web 講演会（インターネット配信）	サノフィ	2019年10月4日
石田和史	ますます多彩になった経口血糖降下薬をどう使い分けるか？	第3回広島DM Liveセミナー（インターネット配信）	大日本住友製薬	2020年1月31日

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
藤本佳史	膵癌について	FMはつかいち医療情報コーナー	FMはつかいち	2019年5月8日

乳腺外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
大原正裕	乳がん患者の骨粗鬆症	ぼるぼるTV	広島ホームテレビ	2019年4月15日

整形外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
田中信弘	坐骨神経について	FM廿日市医療情報番組	FM廿日市	2020年1月15～22日

救急・集中治療科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
高場章宏	『お医者さんの夏休み』	医どばた食堂	FMはつかいち	2019年9月13日
高場章宏	『お医者さんの夏休み』	医どばた食堂	FMはつかいち	2019年9月20日

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
東 千穂	体の柔らかさはどのくらい？	こいづみ	JA 広島市	2019年4月号
東 千穂	体の柔らかさはどのくらい？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年4月号
秋元深雪	禁煙してみませんか	こいづみ	JA 広島市	2019年5月号
秋元深雪	禁煙してみませんか	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年5月号
南浦美樹	コグニサイズ	こいづみ	JA 広島市	2019年6月号
南浦美樹	コグニサイズ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年6月号
林 彩	あせも	こいづみ	JA 広島市	2019年7月号
林 彩	あせも	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年7月号
南浦美樹	熱中症	こいづみ	JA 広島市	2019年8月号
南浦美樹	熱中症	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年8月号
林 彩	JMS	こいづみ	JA 広島市	2019年9月号
林 彩	JMS	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年9月号
関 江里	目の愛護デー	こいづみ	JA 広島市	2019年10月号
関 江里	目の愛護デー	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年10月号
秋元深雪	インフルエンザに注意しましょう	こいづみ	JA 広島市	2019年11月号
秋元深雪	インフルエンザに注意しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年11月号
南浦美樹	冬なノロウイルスに注意	こいづみ	JA 広島市	2019年12月号
南浦美樹	冬なノロウイルスに注意	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2019年12月号
関 江里	花粉症	こいづみ	JA 広島市	2020年1月号
関 江里	花粉症	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年1月号

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

秋元深雪	生活習慣病を予防しましょう	こいぶみ	JA 広島市	2020年2月号
秋元深雪	生活習慣病を予防しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年2月号
林 彩	知っていますか？ロコモティブシンドローム	こいぶみ	JA 広島市	2020年3月号
林 彩	知っていますか？ロコモティブシンドローム	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年3月号

外来

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
田尾由美子 新田克己	リーダーナースを活用した外来応援体制の取り組み	外来看護 季刊誌 2020年春号	日総研	2020年2月

薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
吉廣尚大	月刊薬事海外文献紹介 ARDSの2つの異なる表現型とそのシンパスタチンへの反応差—ランダム化比較試験のサブ解析	月刊薬事 2019年5月号・じほう	じほう	2019年5月19日
吉廣尚大 櫻谷正明	HOSPITALIST 総合内科のための集中治療予防	HOSPITALIST, 2019, 6, 7 (2), 375-92.	メディカルサイエンスインターナショナル	2019年7月19日
吉廣尚大	月刊薬事海外文献紹介 敗血症ショックにおける早期ノルエピネフリン使用 (CENSER 試験)	月刊薬事 2019年12月号・じほう	じほう	2019年12月19日
吉廣尚大	特集：救急・集中治療 重症患者に対する薬学的支援の実践ポイント意識—PICS 予防と PCAS 管理の観点から—	薬局 2019年12月号・南山堂	南山堂	2019年12月19日
無漏田香穂 吉廣尚大	急性期医療のケア移行 シームレスな薬物治療を提供しよう！循環器管理	月刊薬事 2020年1月号・じほう	じほう	2020年1月20日

栄養科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
八幡謙吾	病態生理・生化学に注目したこだわりのある栄養療法 3. 短腸症候群に対する栄養療法：切除部位と欠乏し得る栄養素を考慮して計画を	INTENSIMST 2019年3号 Vol.11No.3	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2019年7月

合同カンファレンス

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第33回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(98名)	2019年4月10日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本イーライリリー
第34回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(120名)	2019年8月7日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・三和化学
第4回糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(44名)	2019年8月24日 広島市文化交流会館(広島市中区)	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議
第35回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(87名)	2019年12月11日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・協和発酵キリン

耳鼻咽喉科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島西部地区 ST 勉強会(講師 有木雅彦)	後藤優佳(ST)	広島西部地区 ST	2019年12月18日 JA 広島総合病院 リハビリ室	

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島県がん診療従事者対象緩和ケア研修会	小松弘尚 伊東 淳	医療者	2019年12月15日 JA 広島総合病院	

救急・集中治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
West japan クリティカルケアヤングアカデミー	岩本 桂	医療従事者	2019年12月2日 広島県広島市	日本血液製剤機構

健康管理センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 JA 広島総合病院健康管理課	2019年7月23日 2019年7月31日 2019年10月23日 2019年12月10日 JA 広島総合病院	

薬剤部

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
ひろそう薬剤部なんでも勉強会 003	吉広尚大	西部地区病院薬剤師	2019年12月17日 JA 広島総合病院薬剤部	

臨床研究検査科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
院内感染予防に関する地域 連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設の医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務	2019年6月5日 2019年8月7日 2019年10月2日 2019年12月4日 JA 広島総合病院大会議室	
広島県合同輸血療法委員会	藤井輝久	医師・薬剤師・看護師・検査技師	2019年7月13日 中四国ブロック血液センター6階研修室	

合同カンファレンス

栄養科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第11回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 土井千代美 水津美穂 磯部朋美 奥 悟	廿日市市・大竹市栄養士	2019年11月21日 JA広島総合病院 大会議室	
第3回言語聴覚士・管理栄養士合同研修会	五郎水敦 河本良美 土井千代美	廿日市市・大竹市言語聴覚士、栄養士	2020年2月6日 JA広島総合病院 小会議室	

感染防止対策室 (ICT・AST)

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (8施設)	2019年6月5日 2019年8月7日 2019年10月2日 2019年12月4日 JA広島総合病院	

華道部

■ クラブ概要

1980年より「池坊」渡辺洋子先生よりお稽古をつけていただいています。

■ 活動内容

活動日：毎月第3月曜日

(現在新型コロナウイルス感染の影響で
活動中止)

場 所：中棟3階 従業員休憩室

時 間：17:30より約1時間

お稽古代：1,500円+花材代1,100円

【クラブアピール】

院外より講師の先生を迎えて月1回約1時間のお稽古を行っています。その季節にあった草花を使って生けています。同じ草花を使っても人によって異なった作品になるのも華道のひとつの魅力です。生けたお花は、総合受付、応接室に飾っています。

現在、2020年3月より新型コロナウイルス感染拡大の影響で教室はお休みしています。受け付けにもお花を置かないようにしていて、寂しい日常です。早くお稽古ができるようになればと願っています。

年2回ある(夏期、冬期)研修講座にも参加しています。興味のある方は是非参加してみてください。



野球部

■ クラブ概要

- ・ 部員数：38（うち女性6名）
- ・ メンバー（職種）：
 医師5名、看護師8名、薬剤師4名、管理栄養士1名、臨床検査技師9名、臨床工学技士2名、社会福祉士1名、事務7名、研修医1名

■ 活動内容

- ・ 練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・ 日時：不定期（月2回程度）



(JA 広島総合病院野球部ユニフォーム)

■ 2019 年度実施行事等

- 新入部員歓迎会
- 広島県医師会ソフトボール大会
 （それに向けた練習多数）
- 他病院との合同練習、交流試合など



■ クラブアピール

野球やソフトボール、懇親会を通じて、部員同士、近隣病院と親睦を深めています。メンバーも増加傾向で、定期練習や練習試合の充実を計画しています。

未経験者も大歓迎で、応援だけでもかまいません。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、ぜひ声をおかけください！



(2019年10月 広島県医師会ソフトボール大会)

興味をもたれた方は、お近くの野球部員もしくは

栄養科 八幡 (PHS: 5521)

薬剤部 埋橋 (PHS: 3064)

人事課 乃美 (PHS: 3814)

までご連絡ください!!

テニス部

■ クラブ概要

- ・ 部員数：11名
代 表：総合医療相談員 正島 忠貴
- ・ メンバー（職種）：
医師・研修医・薬剤師・社会福祉士・看護師・
事務職員など

■ 活動内容

- ・ 練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）
- ・ 練習日：毎月1～2回 水曜日が木曜日
- ・ 時間：19：00～21：00
- ・ 活動時期：3月～11月 冬は休部
人が集まった時は、不定期で活動していますので、いつでも声をかけてください。
- ・ 参加費、部費は徴収していません
- ・ 試合

第35回広島医療メイト杯

毎年、広島県医師テニス協会が主催する広島医療メイト杯（広島県職域対抗テニス大会）に参加しています。が、今年は人数が集まらず参加できませんでした。



過去の栄光です!!

今まで毎年欠かさず参加し、Bリーグ優勝という輝かし過去もあります。また練習をして、強いJA広島総合病院を目指しましょう。

■ 交流会

歓送迎会、忘年会（新年会）を行っています。

■ クラブアピール

初めてテニスをしてみようかなと思っている方、久しぶりにやってみようかなと思う人、子供と一緒にやってみようかなと思っている人、どんな方でも大歓迎です。少し経験している人達が手取り足取り優しく教えます。

運動不足になっている身体を楽しく動かして、気持ちのよい汗をかいて、ストレスを発散させましょう。

色々な職種の人達とも顔見知りになりますよ。

ゴルフ部（伯友会）

■活動報告

伯友会は1970年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。ゴルフを通して親睦を図ると共に、地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図り病診連携に貢献しています。

■2019年度の活動

第175回伯友会コンペ

2019年6月2日 柳井カントリークラブ 16名参加

優勝 岩田和佳奈（研修医2年生）

準優勝 渡正伸（呼吸器外科）

3位 竹村秀和（日本新薬）

4位 入江耕平（研修医2年生）

5位 川上恭司（OB、アマノリハ）

第176回伯友会コンペ

2019年9月1日 広島西カントリークラブ

前半8ホールで雨天中止。

第44回地御前オープン

2019年12月1日 庄原カントリークラブ 11名参加

優勝 高野正義（Op室看護部）

準優勝 田中信弘（整形外科）

3位 小深田義勝（泌尿器科）

4位 兼見良典（OB、明海耳鼻科）

5位 中光篤志（外科）

第176回伯友会コンペ

2020年3月22日 広島西カントリークラブ

15名参加

優勝 奥田晃章（奥田整外OB）

準優勝 渡正伸（呼吸器外科）

3位 小深田義勝（泌尿器科）

4位 碓井裕史（健康管理科）

5位 川上恭司（OB、アマノリハ）

地域医師会行事参加（ゴルフ部門）

グリーン会コンペ（医師）

2019年7月7日 鷹の巣カントリー

小深田義勝（泌尿器科）

碓井 裕史（健康管理科）

中光 篤志（外科）

渡 正伸（呼吸器外科）

田中 信弘（整形外科）

山田 清貴（整形外科）

橋本 貴士（整形外科）

岩田和佳奈（研修医2年生）

西部医師会コンペ（医師）

2019年9月8日 和木GC

小深田義勝（泌尿器科）

碓井 裕史（健康管理科）

中光 篤志（外科）

田中 信弘（整形外科）

山田 清貴（整形外科）

橋本 貴士（整形外科）

入江 耕平（研修医2年生）

三師会コンペ（医師、歯科医師、薬剤師）

2019年11月17日 芸南カントリー

小深田義勝（泌尿器科）

渡 正伸（呼吸器外科）

入江 耕平（研修医2年生）

岩田和佳奈（研修医2年生）

2020年2月11日 伯友会育成部会コンペ 美和CC

参加者；入江、波多間、西原、兼見、渡、熊田、田中猛、大村、高野

2019年度では1回は雨天中止、1回はコロナで中止となりました。また初心者に対する育成部会も立ち上げ、2月11日に育成部のコンペを開催しました。

院内のゴルフコンペに留まらず、地域の医師会関連のゴルフコンペにも積極的に参加して地域の医療関係者と交流しています。

文責 渡正伸（2017年度より担当）

サッカー部

■クラブ概要

◇通称：広総ラツィオ

◇創設：19〇〇年

◇部員数：約15名

◇メンバー（職種）：

医師、研修医、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、
臨床工学技士、理学療法士、事務など

■活動内容・報告

◇練習

毎月第2、第4木曜日 20：00～21：30

場所：廿日市グリーンフィールド

練習は職員だけでは人数が足りないことがあるので廿日市F.Cさん主催の練習に参加させていただき形で行っていますので、地域の方々と一緒に楽しんでいます。

■エンジョイエイトリーグ

◇廿日市サッカー協会が主体となって行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。

ここ最近の順位は中盤の位置にいますが、毎年一つでも上の順位に行けるように楽しく頑張っています。

■クラブアピール

◇サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。

◇ガチガチのサッカーではなくエンジョイサッカーなので気軽に参加していただけます。



フットサル部

■クラブ概要

- ・ 創 立：2014年8月
- 代 表：栄養科 八幡 謙吾
- 副代表：臨床工学科 藤田 雄樹
- 会 計：臨床研究検査科 丸山 恭平
- ・ 部員数：参加したことあれば部員扱い
- ※部費は徴収していません
- ・ メンバー：
 - 医師、研修医、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、事務など当院職員、委託職員、元職員、元委託職員、又はその家族



■活動内容

- ・ 定期練習：毎月1～2回 19：30～21：30
- 活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）他
- 参加費：1,000円+α/回
(参加人数次第。女子は絶対1,000円！)
- ・ その他、不定期で近隣病院や医療機器メーカーさんのチームと交流戦も行っています。



■クラブアピール

日々のストレスと運動不足解消、他職種間交流を目的とし、2014年8月より活動を開始して5年が経過しました。

フットサルは、サッカーと違って接触プレーが少ないため、女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。男女混合で楽しくプレーしています。

その他に、新年会や歓送迎会、夏にはBBQも開催しフットサル以外での交流も大切にしています。

常時メンバー募集中です！初心者大歓迎！

院内に友達を増やして、楽しく仕事をしましょう♪



(2019.7.31)



(2019.08.26)



(2019.09.30)

★フットサル部に興味をもってくれた方は藤田、丸山、八幡など写真に写っている人までお気軽にどうぞ！



バスケットボール部

■ クラブ概要

- ・ 部員（職種）
医師、臨床研修医、看護師、診療放射線技師、
検査技師、社会福祉士、事務職員
- ・ 部員数：20 名程度

■ 活動内容

- ・ 練習場所：阿品台中学校 体育館
- ・ 日時：毎週木曜日
- ・ 時間：19時30分～21時30分

■ 年間行事

- 4月：歓迎会
- 10月：広島メディカルバスケット
- 11月：打ち上げ

■ クラブアピール

JA 広島総合病院バスケットボール部は、2012 年度から活動を開始し、メンバーも医師から事務職員まで幅広い職種で構成されています。発足当初は、「バスケットがやりたい!」という経験者や「体を動かしたい!」、「何か運動がしたい!」という職員が集まり、今では十数人程で活動しています。活動内容は主に試合ですが、シュート練習やミニゲームなども行い、時には真剣に、時には笑いを交えながら活動を続けてきました。

毎年顔ぶれは変わりますが、バスケットを通じてみんな仲良く、楽しい雰囲気で行っています。また、他職種間での交流の場にもなっているので、自身が勤める職種以外の仕事内容の話ができ、病院でも職種間の隔たりを気にすることもなくなるので、仕事がとてもしやすくなりました。特に今年度は多くの新入職員が参加してくれており、昨年度以上に活気に溢れています。

10月には、今年度から開催されました東広島で行われる「広島メディカルバスケット」という大会に参加しました。Bリーグが開催されてから、全国各地でバスケット熱も日々高まっており、広島でも各地で様々

なバスケットの大会が開かれています。今大会は医療従事者による大会で、広島県の16の病院やクリニックが参加しました。この大会は、初心者の方も参加しやすい内容となっており、バスケット経験のある人もそうでない人も楽しめる大会でした。試合はトーナメント方式で行われ、全試合楽しみながらも、日頃の練習の成果も発揮し、記念すべき第一回大会で優勝することができました。来年度の大会連覇に向けてこれからも精進してまいります。



また、日赤看護大学のバスケットサークルの方たちとの練習試合を行いました。大会以外での外部との交流はしていなかったので良い刺激になり、これからも他のチームの方たちとの練習試合や交流も積極的に行っていこうと思います。



2月からはCOVID-19の流行もあり活動は自粛していましたが、来年度の活動再開に向けて準備は進めています。現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、ダイエットをしたい、なんていうきっかけからの参加・入部も大歓迎です。一緒にバスケット楽しみましょう!

■ Annual Report 2019 2019年(令和元年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

2019年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月(診療日数 20日)				5月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,085	789	5,874	293.7	4,945	763	5,708	300.4
(呼吸器内科)	661	116	777	38.9	700	122	822	43.3
(循環器内科)	851	165	1,016	50.8	967	168	1,135	59.7
(腎臓内科)	710	54	764	38.2	648	42	690	36.3
(糖尿病内科)	1,309	95	1,404	70.2	1,200	94	1,294	68.1
(消化器内科)	1,424	264	1,688	84.4	1,312	271	1,583	83.3
(神経内科)	59	0	59	3.0	64	1	65	3.4
(緩和ケア科)	20	0	20	1.0	10	0	10	0.5
(血液内科)	8	0	8	0.4	6	1	7	0.4
(総合診療科)	43	95	138	6.9	38	64	102	5.4
精神科	26	11	37	1.9	23	13	36	1.9
小児科	866	89	955	47.8	783	106	889	46.8
外科	1,307	79	1,386	69.3	1,238	86	1,324	69.7
乳腺外科	529	40	569	28.5	528	21	549	28.9
整形外科	1,156	221	1,377	68.9	1,139	239	1,378	72.5
形成外科	313	32	345	17.3	220	19	239	12.6
脳神経外科	956	168	1,124	56.2	863	133	996	52.4
呼吸器外科	310	29	339	17.0	250	33	283	14.9
心臓外科	473	36	509	25.5	446	31	477	25.1
皮膚科	1,159	206	1,365	68.3	1,080	160	1,240	65.3
泌尿器科	2,005	109	2,114	105.7	1,820	97	1,917	100.9
産婦人科	958	108	1,066	53.3	933	91	1,024	53.9
眼科	717	76	793	39.7	798	65	863	45.4
耳鼻科	566	253	819	41.0	533	211	744	39.2
治療科	612	61	673	33.7	573	21	594	31.3
麻酔科	39	345	384	19.2	47	285	332	17.5
救急・集中治療科	53	213	266	13.3	62	270	332	17.5
画像診断部	16	67	83	4.2	24	53	77	4.1
歯口腔外科	758	206	964	48.2	612	151	763	40.2
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	17,904	3,138	21,042	1,052.1	16,917	2,848	19,765	1,040.3
栗谷診療所	57	1	58	2.9	48	1	49	2.6
合計	17,961	3,139	21,100	1,055.0	16,965	2,849	19,814	1,042.8

科 別	6月(診療日数 20日)				7月(診療日数 22日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,029	811	5,840	292.0	5,272	908	6,180	280.9
(呼吸器内科)	619	121	740	37.0	647	109	756	34.4
(循環器内科)	921	165	1,086	54.3	1,037	201	1,238	56.3
(腎臓内科)	678	31	709	35.5	672	46	718	32.6
(糖尿病内科)	1,241	93	1,334	66.7	1,302	100	1,402	63.7
(消化器内科)	1,433	311	1,744	87.2	1,499	332	1,831	83.2
(神経内科)	75	0	75	3.8	52	5	57	2.6
(緩和ケア科)	13	0	13	0.7	6	1	7	0.3
(血液内科)	13	0	13	0.7	11	8	19	0.9
(総合診療科)	36	90	126	6.3	46	106	152	6.9
精神科	22	5	27	1.4	14	6	20	0.9
小児科	750	67	817	40.9	880	85	965	43.9
外科	1,268	85	1,353	67.7	1,358	101	1,459	66.3
乳腺外科	518	25	543	27.2	477	43	520	23.6
整形外科	1,083	184	1,267	63.4	1,174	282	1,456	66.2
形成外科	258	21	279	14.0	282	36	318	14.5
脳神経外科	1,091	143	1,234	61.7	1,039	153	1,192	54.2
呼吸器外科	235	28	263	13.2	312	31	343	15.6
心臓外科	457	38	495	24.8	485	47	532	24.2
皮膚科	1,007	196	1,203	60.2	1,054	185	1,239	56.3
泌尿器科	2,004	121	2,125	106.3	2,162	122	2,284	103.8
産婦人科	990	99	1,089	54.5	1,076	108	1,184	53.8
眼科	715	49	764	38.2	811	59	870	39.5
耳鼻科	527	213	740	37.0	610	227	837	38.0
治療科	709	21	730	36.5	798	29	827	37.6
麻酔科	31	306	337	16.9	45	359	404	18.4
救急・集中治療科	72	240	312	15.6	55	215	270	12.3
画像診断部	24	64	88	4.4	17	73	90	4.1
歯口腔外科	582	142	724	36.2	643	176	819	37.2
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	17,372	2,858	20,230	1,011.5	18,564	3,245	21,809	991.3
栗谷診療所	51	0	51	2.6	48	2	50	2.3
合計	17,423	2,858	20,281	1,014.1	18,612	3,247	21,859	993.6

2019年度 月別外来患者数(8~11月)

科 別	8月(診療日数21日)				9月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,992	811	5,803	276.3	4,875	770	5,645	297.1
(呼吸器内科)	676	117	793	37.8	569	99	668	35.2
(循環器内科)	902	181	1,083	51.6	945	161	1,106	58.2
(腎臓内科)	608	39	647	30.8	584	42	626	32.9
(糖尿病内科)	1,242	90	1,332	63.4	1,226	99	1,325	69.7
(消化器内科)	1,442	290	1,732	82.5	1,437	275	1,712	90.1
(神経内科)	63	7	70	3.3	59	9	68	3.6
(緩和ケア科)	6	0	6	0.3	9	0	9	0.5
(血液内科)	10	6	16	0.8	12	3	15	0.8
(総合診療科)	43	81	124	5.9	34	82	116	6.1
精神科	7	9	16	0.8	13	9	22	1.2
小児科	871	83	954	45.4	768	87	855	45.0
外科	1,184	83	1,267	60.3	1,281	87	1,368	72.0
乳腺外科	511	58	569	27.1	567	45	612	32.2
整形外科	979	298	1,277	60.8	1,138	228	1,366	71.9
形成外科	240	23	263	12.5	248	21	269	14.2
脳神経外科	935	144	1,079	51.4	822	139	961	50.6
呼吸器外科	229	28	257	12.2	247	34	281	14.8
心臓外科	398	27	425	20.2	506	30	536	28.2
皮膚科	963	177	1,140	54.3	966	176	1,142	60.1
泌尿器科	1,862	115	1,977	94.1	1,967	137	2,104	110.7
産婦人科	1,028	114	1,142	54.4	1,032	97	1,129	59.4
眼科	803	59	862	41.0	779	70	849	44.7
耳鼻科	493	208	701	33.4	592	215	807	42.5
治療科	758	28	786	37.4	743	20	763	40.2
麻酔科	44	299	343	16.3	51	300	351	18.5
救急・集中治療科	53	257	310	14.8	71	260	331	17.4
画像診断部	22	51	73	3.5	20	55	75	3.9
歯口腔外科	553	184	737	35.1	591	162	753	39.6
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	16,925	3,056	19,981	951.5	17,277	2,942	20,219	1,064.2
栗谷診療所	49	1	50	2.4	46	1	47	2.5
合計	16,974	3,057	20,031	953.9	17,323	2,943	20,266	1,066.6

科 別	10月(診療日数21日)				11月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,300	810	6,110	291.0	5,000	775	5,775	288.8
(呼吸器内科)	686	96	782	37.2	647	114	761	38.1
(循環器内科)	997	159	1,156	55.0	918	157	1,075	53.8
(腎臓内科)	692	67	759	36.1	603	44	647	32.4
(糖尿病内科)	1,253	100	1,353	64.4	1,280	96	1,376	68.8
(消化器内科)	1,561	307	1,868	89.0	1,437	286	1,723	86.2
(神経内科)	61	3	64	3.0	56	6	62	3.1
(緩和ケア科)	8	0	8	0.4	5	0	5	0.3
(血液内科)	11	5	16	0.8	7	6	13	0.7
(総合診療科)	31	73	104	5.0	47	66	113	5.7
精神科	14	7	21	1.0	15	7	22	1.1
小児科	850	82	932	44.4	734	82	816	40.8
外科	1,404	101	1,505	71.7	1,208	92	1,300	65.0
乳腺外科	581	46	627	29.9	529	36	565	28.3
整形外科	1,213	245	1,458	69.4	1,056	192	1,248	62.4
形成外科	256	19	275	13.1	288	31	319	16.0
脳神経外科	1,099	145	1,244	59.2	1,100	145	1,245	62.3
呼吸器外科	301	30	331	15.8	289	36	325	16.3
心臓外科	479	31	510	24.3	468	38	506	25.3
皮膚科	955	186	1,141	54.3	873	169	1,042	52.1
泌尿器科	2,110	128	2,238	106.6	1,800	115	1,915	95.8
産婦人科	1,137	115	1,252	59.6	1,038	117	1,155	57.8
眼科	792	84	876	41.7	775	73	848	42.4
耳鼻科	624	260	884	42.1	570	209	779	39.0
治療科	780	17	797	38.0	702	24	726	36.3
麻酔科	49	343	392	18.7	55	337	392	19.6
救急・集中治療科	50	229	279	13.3	67	253	320	16.0
画像診断部	17	62	79	3.8	19	60	79	4.0
歯口腔外科	697	183	880	41.9	555	164	719	36.0
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	18,708	3,123	21,831	1,039.6	17,141	2,955	20,096	1,004.8
栗谷診療所	46	2	48	2.3	51	1	52	2.6
合計	18,754	3,125	21,879	1,041.9	17,192	2,956	20,148	1,007.4

2019年度 月別外来患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数 20日)				1月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,922	785	5,707	285.4	4,783	747	5,530	291.1
(呼吸器内科)	643	118	761	38.1	636	103	739	38.9
(循環器内科)	929	156	1,085	54.3	902	139	1,041	54.8
(腎臓内科)	651	43	694	34.7	608	40	648	34.1
(糖尿病内科)	1,158	107	1,265	63.3	1,324	93	1,417	74.6
(消化器内科)	1,445	268	1,713	85.7	1,219	271	1,490	78.4
(神経内科)	63	6	69	3.5	58	8	66	3.5
(緩和ケア科)	2	0	2	0.1	0	0	0	0.0
(血液内科)	3	11	14	0.7	10	2	12	0.6
(総合診療科)	28	76	104	5.2	26	91	117	6.2
精神科	13	4	17	0.9	22	12	34	1.8
小児科	879	107	986	49.3	757	89	846	44.5
外科	1,350	99	1,449	72.5	1,297	75	1,372	72.2
乳腺外科	510	39	549	27.5	503	76	579	30.5
整形外科	1,050	183	1,233	61.7	942	291	1,233	64.9
形成外科	255	19	274	13.7	220	31	251	13.2
脳神経外科	1,108	169	1,277	63.9	976	153	1,129	59.4
呼吸器外科	319	25	344	17.2	275	21	296	15.6
心臓外科	512	22	534	26.7	502	33	535	28.2
皮膚科	871	168	1,039	52.0	751	141	892	46.9
泌尿器科	1,938	114	2,052	102.6	1,828	106	1,934	101.8
産婦人科	1,068	119	1,187	59.4	1,051	102	1,153	60.7
眼科	827	40	867	43.4	786	56	842	44.3
耳鼻科	642	216	858	42.9	633	230	863	45.4
治療科	804	28	832	41.6	728	20	748	39.4
麻酔科	36	315	351	17.6	43	316	359	18.9
救急・集中治療科	56	297	353	17.7	62	268	330	17.4
画像診断部	24	56	80	4.0	18	52	70	3.7
歯口腔外科	581	161	742	37.1	580	138	718	37.8
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	1	1	0.1
計	17,765	2,966	20,731	1,036.6	16,757	2,958	19,715	1,037.6
栗谷診療所	48	2	50	2.5	48	3	51	2.7
合計	17,813	2,968	20,781	1,039.1	16,805	2,961	19,766	1,040.3

科 別	2月(診療日数 18日)				3月(診療日数 21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,591	664	5,255	291.9	4,700	819	5,519	262.8
(呼吸器内科)	646	92	738	41.0	623	157	780	37.1
(循環器内科)	789	149	938	52.1	836	173	1,009	48.0
(腎臓内科)	576	45	621	34.5	621	46	667	31.8
(糖尿病内科)	1,185	86	1,271	70.6	1,250	89	1,339	63.8
(消化器内科)	1,286	224	1,510	83.9	1,265	282	1,547	73.7
(神経内科)	56	7	63	3.5	61	4	65	3.1
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	7	7	14	0.8	5	9	14	0.7
(総合診療科)	46	54	100	5.6	39	59	98	4.7
精神科	17	11	28	1.6	35	11	46	2.2
小児科	761	55	816	45.3	869	95	964	45.9
外科	1,185	109	1,294	71.9	1,242	63	1,305	62.1
乳腺外科	486	37	523	29.1	545	36	581	27.7
整形外科	922	179	1,101	61.2	1,056	221	1,277	60.8
形成外科	232	23	255	14.2	271	29	300	14.3
脳神経外科	888	142	1,030	57.2	1,107	145	1,252	59.6
呼吸器外科	244	27	271	15.1	361	28	389	18.5
心臓外科	399	29	428	23.8	557	19	576	27.4
皮膚科	788	151	939	52.2	760	157	917	43.7
泌尿器科	1,594	89	1,683	93.5	2,000	94	2,094	99.7
産婦人科	1,010	82	1,092	60.7	1,027	81	1,108	52.8
眼科	701	58	759	42.2	819	57	876	41.7
耳鼻科	523	202	725	40.3	619	229	848	40.4
治療科	651	16	667	37.1	854	22	876	41.7
麻酔科	42	289	331	18.4	51	313	364	17.3
救急・集中治療科	59	196	255	14.2	49	192	241	11.5
画像診断部	27	50	77	4.3	17	55	72	3.4
歯口腔外科	467	127	594	33.0	654	167	821	39.1
遺伝子診療部	0	2	2	0.1	0	0	0	0.0
計	15,587	2,538	18,125	1,006.9	17,593	2,833	20,426	972.7
栗谷診療所	45	2	47	2.6	44	2	46	2.2
合計	15,632	2,540	18,172	1,009.6	17,637	2,835	20,472	974.9

診療科別入院患者数

2019年度 月別入院患者数(4~7月)

科 別	4月(診療日数30日)				5月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	265	302	3,962	132.1	257	331	4,461	143.9
(呼吸器内科)	34	36	824	27.5	39	56	1,050	33.9
(循環器内科)	73	85	928	30.9	59	76	751	24.2
(腎臓内科)	19	23	449	15.0	24	29	589	19.0
(糖尿病内科)	11	9	155	5.2	15	11	268	8.6
(消化器内科)	120	139	1,406	46.9	118	142	1,571	50.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	1	3	0.1	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	7	9	197	6.6	2	17	232	7.5
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	38	41	159	5.3	37	34	211	6.8
外 科	98	123	1,602	53.4	109	116	1,461	47.1
乳 腺 外 科	20	21	98	3.3	20	14	119	3.8
整 形 外 科	101	118	1,632	54.4	86	108	1,418	45.7
形 成 外 科	4	5	54	1.8	7	7	55	1.8
脳 神 経 外 科	49	68	1,427	47.6	37	63	1,159	37.4
呼 吸 器 外 科	23	28	434	14.5	19	20	362	11.7
心 臓 外 科	33	32	1,028	34.3	31	46	886	28.6
皮 膚 科	7	10	111	3.7	14	11	106	3.4
泌 尿 器 科	84	101	808	26.9	83	85	660	21.3
産 婦 人 科	77	90	704	23.5	86	77	599	19.3
眼 科	36	40	107	3.6	36	38	92	3.0
耳 鼻 科	44	45	390	13.0	28	36	374	12.1
治 療 科	2	2	128	4.3	8	6	130	4.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	179	53	417	13.9	186	61	453	14.6
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	11	15	170	5.7	7	6	87	2.8
遺 伝 子 診 療 部								
合 計	1,071	1,094	13,231	441.0	1,051	1,059	12,633	407.5

科 別	6月(診療日数30日)				7月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	278	345	3,948	131.6	284	358	3,928	126.7
(呼吸器内科)	40	60	1,075	35.8	31	59	851	27.5
(循環器内科)	69	80	571	19.0	78	83	731	23.6
(腎臓内科)	25	33	624	20.8	18	27	499	16.1
(糖尿病内科)	13	21	246	8.2	9	14	245	7.9
(消化器内科)	118	133	1,189	39.6	145	162	1,453	46.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	1	50	1.7	0	2	19	0.6
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	11	17	193	6.4	3	11	130	4.2
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	38	41	172	5.7	48	45	213	6.9
外 科	108	107	1,692	56.4	112	128	1,752	56.5
乳 腺 外 科	21	30	143	4.8	21	17	130	4.2
整 形 外 科	99	108	1,295	43.2	110	124	1,477	47.6
形 成 外 科	10	9	67	2.2	4	5	25	0.8
脳 神 経 外 科	39	46	985	32.8	39	52	1,102	35.5
呼 吸 器 外 科	18	18	428	14.3	25	32	466	15.0
心 臓 外 科	24	27	781	26.0	22	19	900	29.0
皮 膚 科	10	13	196	6.5	23	27	182	5.9
泌 尿 器 科	93	97	759	25.3	101	98	857	27.6
産 婦 人 科	79	83	577	19.2	76	76	551	17.8
眼 科	49	49	164	5.5	39	31	112	3.6
耳 鼻 科	47	43	446	14.9	46	49	516	16.6
治 療 科	5	7	152	5.1	4	3	168	5.4
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	165	52	364	12.1	174	61	383	12.4
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	13	12	145	4.8	15	16	141	4.5
遺 伝 子 診 療 部								
合 計	1,096	1,087	12,314	410.5	1,143	1,141	12,903	416.2

2019年度 月別入院患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	241	292	3,807	122.8	257	310	3,617	120.6
(呼吸器内科)	26	39	720	23.2	30	49	749	25.0
(循環器内科)	48	62	756	24.4	62	70	693	23.1
(腎臓内科)	21	28	563	18.2	25	28	542	18.1
(糖尿病内科)	13	14	312	10.1	11	16	210	7.0
(消化器内科)	125	139	1,339	43.2	122	134	1,323	44.1
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	1	6	0.2	0	0	14	0.5
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	8	9	111	3.6	7	13	86	2.9
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	45	44	209	6.7	40	44	207	6.9
外科	102	108	1,412	45.5	104	124	1,420	47.3
乳腺外科	16	15	209	6.7	27	29	167	5.6
整形外科	94	114	1,306	42.1	93	98	1,315	43.8
形成外科	5	7	33	1.1	8	5	40	1.3
脳神経外科	47	58	1,050	33.9	40	53	1,185	39.5
呼吸器外科	29	28	491	15.8	21	30	405	13.5
心臓外科	26	35	714	23.0	35	24	763	25.4
皮膚科	16	22	196	6.3	11	13	115	3.8
泌尿器科	86	113	867	28.0	64	76	713	23.8
産婦人科	81	89	607	19.6	70	68	494	16.5
眼科	41	45	113	3.6	33	34	87	2.9
耳鼻科	40	44	528	17.0	42	45	445	14.8
治療科	6	3	195	6.3	8	4	286	9.5
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	218	82	399	12.9	183	64	447	14.9
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	7	9	127	4.1	7	7	112	3.7
遺伝子診療部								
合 計	1,100	1,108	12,263	395.6	1,043	1,028	11,818	393.9

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	274	330	3,817	123.1	266	337	4,137	137.9
(呼吸器内科)	35	49	807	26.0	29	51	958	31.9
(循環器内科)	72	81	895	28.9	74	94	944	31.5
(腎臓内科)	17	28	554	17.9	19	25	474	15.8
(糖尿病内科)	18	13	215	6.9	13	16	291	9.7
(消化器内科)	127	153	1,206	38.9	126	140	1,378	45.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	1	60	1.9	2	3	19	0.6
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	4	5	80	2.6	3	8	73	2.4
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	54	47	306	9.9	50	51	260	8.7
外科	103	109	1,437	46.4	110	112	1,572	52.4
乳腺外科	28	28	162	5.2	19	19	138	4.6
整形外科	102	117	1,404	45.3	96	117	1,522	50.7
形成外科	6	7	79	2.5	5	5	76	2.5
脳神経外科	43	57	870	28.1	33	54	921	30.7
呼吸器外科	19	23	464	15.0	23	29	387	12.9
心臓外科	29	37	791	25.5	35	37	823	27.4
皮膚科	10	17	142	4.6	15	16	125	4.2
泌尿器科	84	90	731	23.6	77	91	698	23.3
産婦人科	85	78	685	22.1	95	97	796	26.5
眼科	36	31	124	4.0	31	38	79	2.6
耳鼻科	39	45	382	12.3	43	44	359	12.0
治療科	4	11	258	8.3	5	5	147	4.9
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	174	54	372	12.0	190	59	473	15.8
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	7	8	82	2.6	10	8	118	3.9
遺伝子診療部								
合 計	1,097	1,089	12,106	390.5	1,103	1,119	12,631	421.0

2019年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	292	396	4,436	143.1	282	311	4,430	142.9
(呼吸器内科)	44	74	1,047	33.8	39	59	1,320	42.6
(循環器内科)	89	97	1,010	32.6	79	76	1,060	34.2
(腎臓内科)	19	32	634	20.5	19	24	532	17.2
(糖尿病内科)	8	15	213	6.9	11	8	184	5.9
(消化器内科)	130	170	1,452	46.8	130	140	1,271	41.0
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	1	29	0.9	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	2	7	51	1.6	4	4	63	2.0
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	44	50	240	7.7	36	33	222	7.2
外 科	103	131	1,661	53.6	109	103	1,481	47.8
乳 腺 外 科	19	23	119	3.8	30	25	170	5.5
整 形 外 科	96	126	1,436	46.3	97	95	1,412	45.5
形 成 外 科	8	9	59	1.9	7	5	60	1.9
脳 神 経 外 科	47	46	980	31.6	40	55	1,347	43.5
呼 吸 器 外 科	27	29	522	16.8	23	26	559	18.0
心 臓 外 科	43	56	828	26.7	52	44	821	26.5
皮 膚 科	13	16	120	3.9	11	12	90	2.9
泌 尿 器 科	77	97	746	24.1	82	77	667	21.5
産 婦 人 科	74	85	698	22.5	75	65	600	19.4
眼 科	38	37	129	4.2	34	28	105	3.4
耳 鼻 科	42	51	520	16.8	38	35	398	12.8
治 療 科	4	5	221	7.1	3	3	244	7.9
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	200	61	392	12.6	184	54	471	15.2
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	5	8	82	2.6	7	6	73	2.4
遺 伝 子 診 療 部					0	0	0	0.0
合 計	1,132	1,226	13,189	425.5	1,110	977	13,150	424.2

科 別	2月(診療日数29日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	246	326	4,124	142.2	245	297	3,936	127.0
(呼吸器内科)	35	62	951	32.8	41	42	1,059	34.2
(循環器内科)	60	86	1,087	37.5	66	83	864	27.9
(腎臓内科)	19	24	575	19.8	18	30	605	19.5
(糖尿病内科)	4	11	181	6.2	8	10	177	5.7
(消化器内科)	126	140	1,253	43.2	109	130	1,176	37.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	2	3	77	2.7	3	2	55	1.8
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	31	33	174	6.0	29	33	151	4.9
外 科	97	111	1,416	48.8	86	100	1,517	48.9
乳 腺 外 科	16	19	145	5.0	17	20	136	4.4
整 形 外 科	79	98	1,355	46.7	94	104	1,413	45.6
形 成 外 科	7	8	46	1.6	5	4	48	1.5
脳 神 経 外 科	49	66	1,077	37.1	49	62	1,268	40.9
呼 吸 器 外 科	21	31	513	17.7	29	31	480	15.5
心 臓 外 科	45	55	799	27.6	54	53	737	23.8
皮 膚 科	13	10	184	6.3	11	12	255	8.2
泌 尿 器 科	74	76	593	20.4	73	88	608	19.6
産 婦 人 科	80	86	653	22.5	82	81	602	19.4
眼 科	22	28	90	3.1	44	37	180	5.8
耳 鼻 科	39	41	342	11.8	51	44	465	15.0
治 療 科	6	9	187	6.4	6	6	154	5.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	153	52	394	13.6	149	44	378	12.2
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	9	8	62	2.1	10	11	95	3.1
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	987	1,057	12,154	419.1	1,034	1,027	12,423	400.7

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	2016年度（診療日数 244 日）				2017年度（診療日数 245 日）				2018年度（診療日数 244 日）				2019年度（診療日数 240 日）			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	60,873	8,584	69,457	284.7	62,025	9,394	71,419	291.5	60,811	9,827	70,638	289.5	59,494	9,452	68,946	287.3
精神科・心療内科	323	144	467	1.9	302	131	433	1.8	166	90	256	1.0	221	105	326	1.4
小 児 科	11,245	1,377	12,622	51.7	9,126	1,401	10,527	43.0	9,590	1,169	10,759	44.1	9,768	1,027	10,795	45.0
外科・乳腺外科	15,186	1,028	16,214	66.5	22,217	1,657	23,874	97.4	21,951	1,509	23,460	96.1	15,322	1,060	16,382	68.3
整 形 外 科	17,801	2,817	20,618	84.5	17,679	3,013	20,692	84.5	13,842	2,713	16,555	67.8	12,908	2,763	15,671	65.3
形 成 外 科	2,126	346	2,472	10.1	3,299	360	3,659	14.9	3,658	364	4,022	16.5	3,083	304	3,387	14.1
脳 神 経 外 科	12,537	2,032	14,569	59.7	12,385	2,126	14,511	59.2	11,291	1,825	13,116	53.8	11,984	1,779	13,763	57.3
呼 吸 器 外 科	2,881	408	3,289	13.5	3,019	435	3,454	14.1	3,211	420	3,631	14.9	3,372	350	3,722	15.5
心臓・血管外科	5,222	504	5,726	23.5	5,927	534	6,461	26.4	5,923	469	6,392	26.2	5,682	381	6,063	25.3
皮 膚 科	19,115	2,886	22,001	90.2	15,654	2,544	18,198	74.3	14,221	2,035	16,256	66.6	11,227	2,072	13,299	55.4
泌 尿 器 科	22,209	1,308	23,517	96.4	21,389	1,352	22,741	92.8	22,408	1,411	23,819	97.6	23,090	1,347	24,437	101.8
産 婦 人 科	12,940	1,465	14,405	59.0	12,728	1,439	14,167	57.8	12,599	1,420	14,019	57.5	12,348	1,233	13,581	56.6
眼 科	10,735	686	11,421	46.8	10,384	766	11,150	45.5	9,928	957	10,885	44.6	9,323	746	10,069	42.0
耳 鼻 咽 喉 科	6,650	2,593	9,243	37.9	6,611	2,561	9,172	37.4	6,783	2,523	9,306	38.1	6,932	2,673	9,605	40.0
放 射 線 治 療 科	8,999	304	9,303	38.1	9,253	374	9,627	39.3	9,207	324	9,531	39.1	8,712	307	9,019	37.6
麻 酔 科	569	3,773	4,342	17.8	603	3,614	4,217	17.2	565	3,666	4,231	17.3	533	3,807	4,340	18.1
救 急 科	758	2,513	3,271	13.4	709	2,680	3,389	13.8	812	3,080	3,892	16.0	709	2,890	3,599	15.0
画 像 診 断 部	367	924	1,291	5.3	368	944	1,312	5.4	223	792	1,015	4.2	245	698	943	3.9
歯科口腔外科	7,769	1,859	9,628	39.5	8,046	1,827	9,873	40.3	7,211	1,882	9,093	37.3	7,273	1,961	9,234	38.5
遺伝子診療部													0	3	3	0.0
計	225,158	36,229	261,387	1,071.3	221,724	37,152	258,876	1,056.6	214,400	36,476	250,876	1,028.2	208,510	35,460	243,970	1,016.5
栗谷診療所	685	21	706	2.9	593	17	610	2.5	627	28	655	2.7	581	18	599	2.0
合 計	225,843	36,250	262,093	1,074.2	222,317	37,169	259,486	1,059.1	215,027	36,504	251,531	1,030.9	209,091	35,478	244,569	1,019.0

年度別入院患者数

年 度	2016年度（診療日数 365 日）				2017年度（診療日数 365 日）				2018年度（診療日数 365 日）				2019年度（診療日数 366 日）			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,428	4,034	53,360	146.2	3,467	4,090	50,739	139.0	3,349	4,187	52,316	143.3	3,187	3,935	52,538	143.5
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	799	800	4,311	11.8	573	574	3,148	8.6	517	522	3,148	8.6	490	496	3,020	8.3
外科・乳腺外科	1,165	1,272	17,281	47.3	1,510	1,623	19,620	53.8	1,474	1,586	18,874	51.7	1,495	1,632	21,791	59.5
整 形 外 科	1,438	1,594	17,883	49.0	1,362	1,536	17,018	46.6	1,213	1,336	16,997	46.6	1,147	1,327	18,312	50.0
形 成 外 科	74	77	623	1.7	64	70	760	2.1	69	70	845	2.3	76	76	718	2.0
脳 神 経 外 科	673	793	13,992	38.3	537	654	12,430	34.1	456	594	11,810	32.4	512	680	14,051	38.4
呼 吸 器 外 科	276	298	5,130	14.1	267	315	5,582	15.3	284	345	5,970	16.4	277	325	5,836	15.9
心臓・血管外科	341	369	10,710	29.3	455	496	11,974	32.8	410	457	11,123	30.5	429	465	10,336	28.2
皮 膚 科	203	226	3,656	10.0	227	254	3,023	8.3	196	214	2,528	6.9	154	179	2,001	5.5
泌 尿 器 科	884	952	8,296	22.7	901	963	8,577	23.5	893	978	8,428	23.1	978	1,089	9,796	26.8
産 婦 人 科	1,090	1,104	8,794	24.1	1,053	1,064	9,282	25.4	1,078	1,087	8,865	24.3	960	975	8,541	23.3
眼 科	472	474	1,276	3.5	507	513	1,517	4.2	494	491	1,388	3.8	439	436	1,818	5.0
耳 鼻 咽 喉 科	448	489	4,121	11.3	444	476	4,031	11.0	383	421	4,177	11.4	499	522	5,687	15.5
放 射 線 治 療 科	51	59	1,949	5.3	74	76	2,186	6.0	64	69	1,891	5.2	61	64	2,334	6.4
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 麻 酔 科	1,802	620	4,319	11.8	2,046	800	5,457	15.0	2,295	796	5,804	15.9	2,155	697	5,640	15.4
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	124	123	1,411	3.9	105	108	982	2.7	113	108	1,401	3.8	108	114	1,408	3.8
計	13,480	13,502	158,735	434.9	13,592	13,612	156,326	428.3	13,285	13,261	155,563	426.2	12,967	13,012	163,827	447.6

資 料

平均在院日数

2019年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位:日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		16.2	17.1	14.6	14.5	17.7	15.1	14.8	16.5	14.7	18.0	18.0	17.1
小児科		4.0	6.1	4.4	5.1	5.6	5.0	6.5	5.1	5.1	6.4	5.4	4.9
外科		16.5	14.0	18.7	17.6	14.9	13.8	14.8	16.0	16.3	15.6	15.1	17.7
整形外科		14.7	14.6	12.6	12.9	13.0	14.5	13.5	14.8	13.0	14.4	16.5	14.3
形成外科		12.0	7.9	7.2	5.6	5.5	6.2	12.2	18.8	7.3	10.0	6.3	10.7
乳腺外科		4.8	7.3	5.8	7.0	14.2	6.0	5.8	7.2	5.9	6.1	8.7	7.6
脳神経外科		24.3	23.2	24.0	24.7	19.0	25.1	17.0	20.7	21.4	28.9	18.4	22.7
呼吸器外科		17.0	18.8	23.8	16.0	16.4	15.9	19.8	15.1	18.8	23.7	18.7	15.7
心臓血管外科		32.6	23.9	32.8	45.7	26.1	26.6	23.8	24.2	16.4	17.9	16.6	13.7
皮膚科		13.1	9.0	13.7	6.1	9.5	9.0	10.5	8.3	8.3	7.8	16.0	22.2
泌尿器科		11.3	12.4	10.6	11.2	12.0	13.8	11.3	12.0	11.1	12.5	10.8	9.2
産婦人科		9.8	8.4	7.7	8.0	7.8	8.2	9.5	9.6	10.1	10.4	9.2	8.7
眼科		4.6	5.3	7.5	8.7	5.1	4.9	5.9	3.0	8.0	6.3	4.6	7.1
耳鼻咽喉科		8.8	11.7	9.9	11.2	12.8	10.2	9.1	8.3	11.2	10.9	8.6	9.8
放射線治療科		64.0	18.6	25.3	48.0	43.3	47.7	34.7	27.1	50.5	85.6	29.7	20.5
歯科口腔外科		13.1	13.4	11.6	9.1	15.9	16.0	10.9	13.1	12.6	11.2	7.3	9.0
緩和ケア科		3.0		33.3	19.0	12.0		60.0	7.6	58.0			
総合診療科		20.6	25.5	13.0	18.6	13.1	8.6	16.5	14.4	11.3	15.8	30.8	22.0
救急科・麻酔科		3.6	3.7	3.2	3.4	2.6	3.5	3.0	3.5	2.8	4.0	3.9	4.0
計		13.5	13.4	12.8	12.9	12.8	12.7	12.3	12.8	12.4	14.3	13.4	13.3

2019年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位:日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	3 F	14.5	17.3	16.6	13.8	10.6	13.8	8.6	11.6	11.3	9.9	10.7	14.4
	4 F	7.7	8.2	6.9	7.2	8.5	7.4	8.4	8.3	7.9	8.8	8.3	9.2
	5 F	14.6	14.1	11.5	12.4	12.2	13.0	12.9	13.8	12.5	13.9	15.5	14.0
	6 F	17.1	13.9	20.7	19.2	14.7	14.6	15.7	15.9	16.9	15.0	15.5	17.6
	7 F	13.2	15.1	12.1	12.4	15.3	13.4	11.8	14.6	12.6	13.0	14.8	13.8
	8 F	19.7	19.4	19.7	17.6	17.5	18.7	19.5	19.8	17.2	24.7	19.9	17.0
	救命	3.3	3.0	3.3	3.4	2.2	2.7	2.3	2.5	3.1	3.3	3.1	3.6
東 病 棟	3 F	14.4	12.2	9.3	11.1	13.3	11.9	12.8	13.1	12.4	16.6	16.8	11.5
	4 F	7.2	8.3	8.1	9.1	8.6	7.7	7.2	7.1	8.2	9.5	7.2	8.1
	5 F	24.6	21.0	18.7	18.0	16.8	23.1	14.8	17.0	19.1	26.0	15.8	21.6
	6 F	12.7	13.2	13.3	11.3	13.0	14.5	13.9	13.7	12.7	13.0	14.5	14.0
7 F	21.0	20.4	21.8	24.2	19.7	17.2	19.4	16.7	14.0	17.3	16.8	14.7	
計		13.5	13.4	12.8	12.9	12.8	12.7	12.3	12.8	12.4	14.3	13.4	13.3

資料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

2019年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	91.5%
5月	91.3%
6月	94.7%
7月	90.6%
8月	91.9%
9月	93.2%
10月	90.7%
11月	93.7%
12月	96.5%
1月	94.2%
2月	93.8%
3月	92.1%
合計	92.7%

2019年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	99.5%
5月	107.1%
6月	105.2%
7月	93.8%
8月	94.8%
9月	97.4%
10月	94.1%
11月	100.7%
12月	101.1%
1月	93.7%
2月	110.3%
3月	95.7%
合計	99.2%

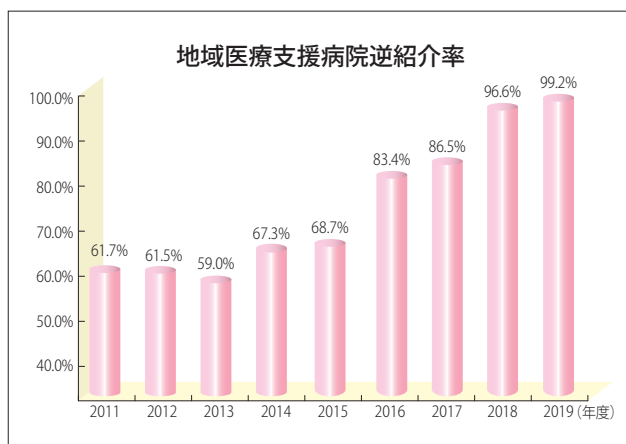
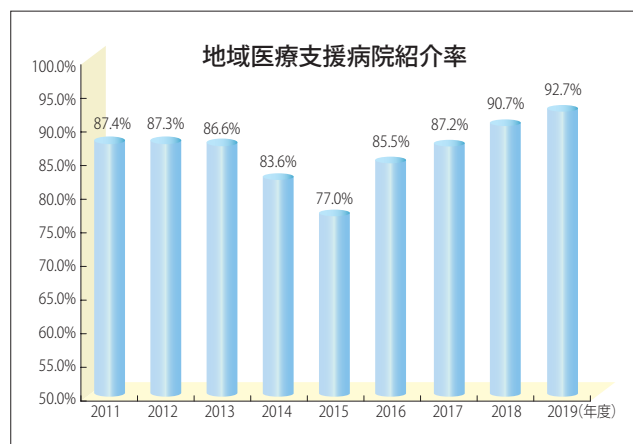
2019年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内科	90.2%
小児科	64.8%
外科	111.7%
整形外科	114.3%
脳神経外科	99.1%
産婦人科	89.5%
皮膚科	96.1%
泌尿器科	84.8%
眼科	125.3%
耳鼻科	92.3%
歯科・口腔外科	48.0%
救急科・麻酔科	-903.0%
放射線治療科	103.7%
画像診断部	99.7%
心臓・血管外科	37.2%
精神科・心療内科	0.0%
呼吸器外科	35.9%
形成外科	84.8%
合計	92.7%

2019年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内科	175.9%
小児科	20.5%
外科	207.2%
整形外科	99.8%
脳神経外科	169.3%
産婦人科	36.7%
皮膚科	58.4%
泌尿器科	39.0%
眼科	160.3%
耳鼻科	28.7%
歯科・口腔外科	68.3%
救急科・麻酔科	-1089.4%
放射線治療科	129.6%
画像診断部	132.7%
心臓・血管外科	128.5%
精神科・心療内科	0.0%
呼吸器外科	155.5%
形成外科	27.2%
合計	99.2%

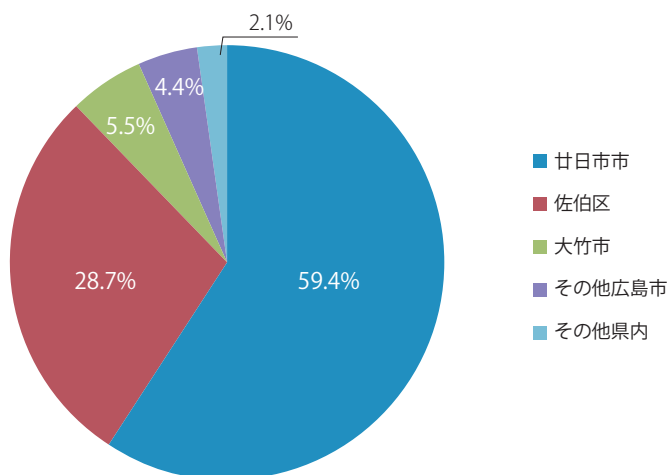
資料



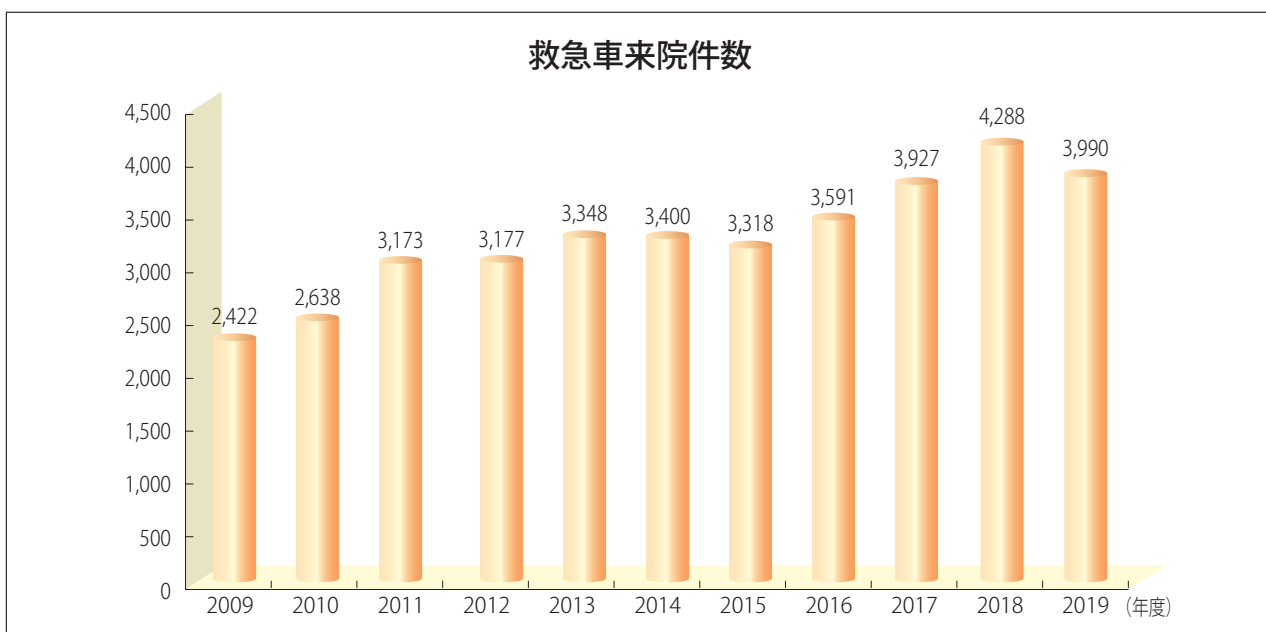
救急車来院件数

2019年度
救急車来院件数（管轄別）

2019年度	
廿日市市	2,369
佐伯区	1,144
大竹市	219
その他広島市	175
その他	83
合計	3,990



救急車来院件数



資料

医療行為統計表

2019年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 診 療 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	94	88	93	87	86	84	94	93	89	93	85	74	1,060
整 形 外 科	118	97	99	127	102	102	113	120	99	112	93	100	1,282
形 成 外 科	13	13	12	11	14	13	14	10	14	14	14	15	157
脳 神 経 外 科	16	11	16	10	22	16	19	15	17	20	20	19	201
産 婦 人 科	44	50	41	36	38	31	35	44	35	38	41	41	474
眼 科	56	48	51	52	54	50	50	52	56	49	41	57	616
耳 鼻 咽 喉 科	19	14	19	21	25	23	25	24	18	19	19	27	253
皮 膚 科	18	16	21	25	19	18	20	28	23	23	19	25	255
泌 尿 器 科	49	37	46	49	38	27	46	33	47	42	44	43	501
歯 科 口 腔 外 科	9	5	9	9	6	5	5	8	5	5	5	7	78
救 急 科・麻 醉 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
放 射 線 治 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科	31	26	24	24	21	24	31	27	30	22	20	20	300
呼 吸 器 外 科	15	9	9	15	13	11	21	16	19	17	12	18	175
乳 腺 外 科	12	11	10	16	13	16	20	14	11	15	12	10	160
計	494	425	450	482	451	420	493	484	463	469	425	457	5,513
手術（外来件数）（再掲）	42	35	32	32	36	42	41	51	44	47	46	38	486
（ 口 腔 外 科 ）	(60)	(56)	(59)	(60)	(52)	(62)	(69)	(54)	(48)	71	(59)	(71)	(721)
ア ン ジ オ 室 手 術	9	8	7	8	7	4	8	(5)	(9)	(9)	(12)		86
内 視 鏡 下 手 術（VPP）	130	120	117	119	112	107	126	112	127	125	122	107	1,424
全 身 麻 酔 件 数	353	295	316	349	320	295	352	336	335	330	307	407	3,995

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	3,425	3,573	3,566	3,864	3,474	3,605	3,884	3,685	3,911	3,881	3,296	3,355	43,519
パ ン ト モ	154	121	119	126	126	140	148	124	140	114	91	135	1,538
骨 密 度 測 定	82	66	89	101	78	133	97	93	97	109	90	76	1,111
造 影 透 視 撮 影	102	84	79	105	74	80	97	94	84	95	77	91	1,062
上 部 消 化 管	44	87	125	119	113	106	101	113	78	54	56	31	1,027
注 腸	0	2	2	6	0	2	4	6	0	4	1	1	28
血 管 連 続 撮 影	48	48	37	37	32	38	40	47	54	54	65	61	561
心 臓 血 管 連 続 撮 影	68	59	61	62	35	54	58	71	84	68	55	62	737
C T 各 科	1,893	1,781	1,836	1,932	1,798	1,717	1,900	1,914	1,888	1,865	1,668	1,829	22,021
C T 画 診	40	36	42	45	30	32	31	35	35	23	32	33	414
M R I	573	560	599	663	631	619	682	623	618	608	562	595	7,333
R I	142	139	158	184	135	128	154	170	138	148	171	36	1,703
リニアック（件数）	406	340	447	534	524	492	494	486	586	520	423	560	5,812
リニアック（門数）	1,672	1,399	1,987	2,232	2,156	2,041	1,986	2,071	2,353	1,856	1,792	2,299	23,844

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,694	1,662	1,590	1,783	1,693	1,681	1,793	1,725	1,709	1,801	1,551	1,590	20,272
ト レ ッ ド ミ ル	1	0	2	1	2	2	0	1	0	0	1	2	12
ホ ル タ ー 型	34	48	46	61	48	46	41	35	42	38	47	48	534
心 臓 エ コ ー	601	619	600	694	609	573	670	670	619	624	555	627	7,461
脳 波	39	25	23	44	63	36	27	25	31	41	15	35	404
肺 機 能 検 査	321	326	313	380	353	304	355	340	326	351	310	362	4,041
神 経 伝 達 速 度、電 流 知 覚 閾 値 測 定	220	186	173	152	168	160	147	164	142	158	135	177	1,982
重 心 動 揺 検 査	2	1	1	4	2	5	1	2	0	3	0	2	23
サ ー モ ク ラ フ ィ ー 検 査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈 波 図・心 電 図・ホ ル タ ー 検 査	248	213	227	246	237	246	256	228	240	265	263	259	2,928
体 液 量 測 定	165	124	127	132	137	133	145	130	128	177	160	141	1,699
病 理 組 織 検 査	1,070	1,030	1,214	1,270	1,096	1,150	1,256	1,197	1,252	1,125	1,084	653	13,397
解 剖 件 数	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	4

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来													
処 方 箋 枚 数	10,517	10,059	9,778	10,284	9,712	9,789	10,499	9,587	10,130	9,737	8,842	10,080	119,014
剤 数（件数）	30,827	29,959	29,108	30,147	28,826	28,280	31,467	28,427	29,548	29,351	26,612	30,055	352,607
延 べ 剤 数	945,997	891,497	891,399	935,128	871,518	891,098	968,652	866,673	957,397	916,018	790,499	957,836	10,883,712
入 院													
処 方 箋 枚 数	9,739	9,673	9,238	10,204	9,340	9,474	10,053	10,442	10,297	10,859	9,300	10,249	118,868
剤 数（件数）	15,864	15,427	15,095	16,044	15,345	14,877	16,130	16,292	16,133	17,065	14,817	15,873	188,962
延 べ 剤 数	84,428	77,114	75,311	82,504	84,864	70,587	79,968	79,428	84,568	84,346	74,004	80,479	957,601
服 薬 指 導 件 数	502	477	490	534	466	465	450	396	469	496	374	414	5,533
栗 合 診 療 所													
処 方 箋 枚 数													
剤 数（件数）													
延 べ 剤 数													

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	62	59	68	63	71	70	74	64	79	53	56	65	784
分娩	27	34	24	30	30	21	41	42	33	29	34	25	370
その他分娩	0	2	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	7
腎尿管結石破碎	8	7	9	13	8	11	14	11	14	7	6	9	117
化学療法件数(外来)	350	343	331	358	367	301	371	347	310	389	369	388	4,224
化学療法件数(入院)	109	104	105	105	99	108	100	66	93	123	79	104	1,195
(超音波内訳)													
内科	266	272	238	241	219	231	269	214	253	248	233	221	2,905
小児科	11	19	22	26	23	14	18	30	25	35	19	25	267
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	275	261	271	286	256	283	329	244	247	241	196	253	3,142
整形外科	9	12	9	11	8	4	10	3	15	7	8	9	105
脳神経外科	28	17	25	19	27	27	26	21	16	16	21	23	266
産婦人科	411	375	397	398	369	402	455	424	444	429	360	438	4,902
眼科	3	2	2	5	0	0	4	2	3	2	2	0	25
耳鼻咽喉科	85	78	86	67	87	91	82	90	82	71	75	101	995
皮膚科	2	1	6	2	5	2	3	0	1	0	0	1	23
泌尿器科	176	177	181	183	177	164	182	184	161	157	152	160	2,054
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	121	129	117	118	143	148	134	144	131	115	104	106	1,510
放射線治療科	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	6
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	27	41	42	48	40	41	46	39	73	81	83	96	657
呼吸器外科	1	0	5	1	1	6	1	0	5	4	0	1	25
健康管理課	76	114	229	257	249	242	250	255	234	228	201	102	2,437
超音波診断計	1,492	1,499	1,631	1,662	1,605	1,655	1,809	1,651	1,691	1,634	1,454	1,536	19,319

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	211	220	225	256	211	224	260	227	244	208	209	185	2,680
胃ファイバー検査 ドック	103	168	228	241	207	233	236	201	232	198	185	93	2,325
気管支ファイバー検査	4	10	9	5	6	12	6	7	8	8	15	10	100
大腸ファイバー検査	103	82	117	149	128	129	147	131	141	121	112	104	1,464
上部止血(消化管止血術)	17	13	22	15	18	14	21	23	18	22	28	28	239
EVL(食道静脈瘤血紮術)	1	1	1	0	1	0	0	0	3	0	0	3	10
PEG(胃瘻造設術)	8	10	7	9	5	6	6	4	5	5	3	3	71
上部EMR(粘膜切除)、ESD	5	4	6	8	7	9	8	9	7	6	11	11	91
下部ポリーブク(ポリーブク切除)	31	40	36	47	40	42	36	36	43	32	30	34	447
下部EMR(粘膜切除)	45	35	48	56	55	54	52	49	51	50	51	47	593
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	5	5	2	3	8	10	3	4	3	5	4	2	54
EST(乳頭切開術)	31	27	23	29	31	19	20	23	36	29	13	17	298

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	915	818	742	866	719	737	840	851	774	679	740	746	9,427
脳血管疾患リハビリテーション	2,350	1,889	1,743	2,050	1,723	1,797	1,666	1,835	1,708	1,897	1,614	2,157	22,429
呼吸器リハビリテーション	542	500	513	476	430	353	441	438	497	534	478	529	5,731
疾患対象外	1,137	759	793	848	807	739	821	787	909	943	813	999	10,355
心大血管疾患リハビリテーション	730	573	493	559	625	545	686	647	720	832	722	611	7,743
A D L 加算													0
早期リハ加算	2,986	2,169	2,138	2,329	2,194	2,000	2,021	2,256	2,169	2,458	2,237	2,442	27,399
リハビリテーション総合実施計画書	230	218	197	261	232	208	235	246	224	244	210	202	2,707
退院時リハビ指導	85	86	79	104	78	81	87	88	102	83	76	73	1,022

【給食業務】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食		4,548	3,965	4,163	4,385	4,341	4,111	3,619	3,817	4,576	4,180	3,639	3,958	49,302
全粥		8,298	7,837	8,286	8,180	7,657	6,497	6,878	6,525	7,412	7,809	7,596	7,796	90,771
五分		94	103	135	129	73	146	83	68	115	95	88	53	1,182
三分		59	174	69	58	62	63	52	130	85	49	158	35	994
重湯		170	117	124	98	98	137	112	119	85	119	127	160	1,466
特別食		21,267	21,092	19,414	20,832	19,675	20,104	20,960	21,667	21,940	21,273	19,972	20,173	248,369
計		34,436	33,288	32,191	33,682	31,906	31,058	31,704	32,326	34,213	33,525	31,580	32,175	392,084

【栄養指導業務】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導		173	174	173	171	164	167	152	184	178	148	163	147	1,994
入院栄養指導		102	116	101	126	117	77	89	116	113	78	90	102	1,227
集団栄養指導		8	11	12	8	5	8	10	9	9	6	9	2	97

医師科別人員／職員数

2019年度 医師科別人員

部署名	2019年4月	
総合診療科	3	
内科	呼吸器内科	4
	腎臓内科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消化器内科	10
	循環器内科	7
	合計	32
小児科	6	
外科	16	
整形外科	7	
脳神経外科	3	
心臓血管外科	4	
産婦人科	6	
眼科	3	
耳鼻科	2	
皮膚科	4	
泌尿器科	5	
歯科口腔外科	4	
放射線治療科	1	
画像診断部	5	
麻酔科	7	
救急・集中治療科	9	
精神科	—	
形成外科	1	
呼吸器外科	2	
健康管理科	1	
臨床研究検査科	1	
病理研究検査科	1	
臨床研修医2年次	9	
臨床研修医1年次	12	
合計	141	

職員数

区分	2019年4月
医師	116
歯科医師	4
臨床研修医	21
専修医	—
医師部門計	141
助産師	29
保健師	118
看護師	500
准看護師	4
看護部門計	651
薬剤師	37
放射線技師	26
臨床検査技師	47
臨床工学技士	16
理学療法士	13
マッサージ師	—
作業療法士	5
管理栄養士	12
歯科衛生士	3
歯科技工士	—
視能訓練士	3
言語聴覚士	4
臨床心理士	1
社会福祉士	4
介護福祉士	—
医療技術部門計	171
事務	86
事務部門計	86
ボイラ技師	1
電気技師	1
運転手	—
調理師	—
保清員	—
保育士	—
看護助手	33
介護員	—
技術助手	6
労務部門計	41
出向	—
合計	1,090

学会施設認定

資
料

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本大腸肛門病学会関連施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脊椎椎間病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

認定種別
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度基幹施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設

編集後記

2019年度のJA広島総合病院“Annual Report”が完成いたしました。

2019年度出来事としてまず徳仁天皇が即位され、元号が「平成」から「令和」に変わったことがあげられます。また、明るい話題としてはノーベル化学賞をリチウムイオン電池開発で旭化成の吉野彰名誉フェローが受賞されたことがまずあげられます。また国立天文台などの国際チームによる世界初のブラックホール撮影も話題になりました。また仁徳陵など河内古市古墳群が世界文化遺産に登録されました。

社会に目を向けると台風19号による水害、京都アニメーションの放火事件、沖縄首里城炎上など大きな事件がありました。あおり運転や池袋・滋賀での事故など自動車関連の事件が目立った年でもありました。また関電やかんぽ生命の不祥事は今後責任を明確にされることを望みます。

スポーツ界では明るい話題が続きました。100mでは桐生祥秀に続いて、サニブラウン・ハキームと小池祐貴が9秒台を記録しました。八村塁のNBAドラフト1位指名や渋野日向子のゴルフ全英オープン優勝も話題になりましたが、最も話題になったのは日本で開催されたラグビーワールドカップでの日本代表の躍進でした。ひたむきに戦い強豪国を打ち破っていく姿は感動を与え、チームのスローガンであった“ONETEAM”は流行語大賞を受賞しました。

2019年は度金田正一投手、国連難民高等弁務官として活躍された緒方貞子さん、戦後初の三冠王となり多くの球団で監督を務められた「月見草」野村克也さんも亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

2020年1月に国内感染者第1号が報告された“COVID19”感染は現在に至るまで感染拡大が継続しており、その間3月までに志村けんさん、岡江久美子さん、岡本行夫さん、高田賢三さんが相次いで“COVID19”感染により亡くなりました。大変な日々ではありますが、“COVID19”感染との戦いが医療者を含めて当面の社会の最大の問題となりそうです。

取り留めない話を書きましたが、本年も多くの方の御協力により年報が完成したことを感謝いたします。本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2021年3月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	柳井 環	佐藤 澄香	小松 浩基
森井 克成	上田 雅美	荒田 晋二	野津 麻史
伊藤 里紗			

JA広島総合病院 年報 2019年度

令和3年3月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープリントメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital